

25 年度「生活の質に関する調査 (世帯調査:訪問留置法)」 の結果について

渡部良一、河野志穂

October 2014



内閣府経済社会総合研究所
Economic and Social Research Institute
Cabinet Office
Tokyo, Japan

ESRI Research Note は、すべて研究者個人の責任で執筆されており、内閣府経済社会総合研究所の見解を示すものではありません。今後の修正が予定されるものであるため、当研究所及び著者からの事前の許可なく引用・転載することを禁止いたします。

ESRI リサーチ・ノート・シリーズは、内閣府経済社会総合研究所内の議論の一端を公開するために取りまとめられた資料であり、学界、研究機関等の関係する方々から幅広くコメントを頂き、今後の研究に役立てることを意図して発表しております。

資料は、すべて研究者個人の責任で執筆されており、内閣府経済社会総合研究所の見解を示すものではありません。

なお、今後の修正が予定されるものであり、当研究所及び著者からの事前の許可なく論文を引用・転載することを禁止いたします。

(連絡先) 総務部総務課 03-6257-1603 (直通)

25 年度「生活の質に関する調査（世帯調査：訪問留置法）」の結果について

目次

1. 調査概要	3
(1) 調査目的	3
(2) 調査項目	3
(3) 調査対象	3
(4) 調査時期	3
(5) 調査方法	3
(6) 標本抽出方法	3
(7) 調査実施機関	4
(8) 回収結果	4
2. 他の調査との調査対象の属性比較	6
(1) 性・年齢別構成	6
(2) 世帯構成	6
(3) 労働力の状態	9
(4) 従業上の地位・雇用形態	9
(5) 正規・非正規別の状況	10
(6) 労働時間	10
(7) 世帯年収	11
(8) 地域・年齢別回答者数	12
(9) 都市規模別	13
3. 調査結果	20
(1) 主観的幸福感	20
① 現在の幸福感	20
② 過去の幸福感	24
③ 将来の幸福感	26
④ 理想とする幸福感	27
⑤ 幸福感を判断する際に重視した事項	29
⑥ 感情経験	31
⑦ 様々な心の機能	33
⑧ 過去一週間の気持ち	34
⑨ 不安	36
⑩ 夜の治安	38
⑪ 生活満足度	41
⑫ 生活の局面別満足度	42

⑬ ライフイベントの有無.....	43
(2) 収入、住居との関係.....	48
① 本人収入.....	48
② 世帯収入.....	49
③ 社会保障給付.....	51
④ 生活費のやりくりの困難さ	52
⑤ 住居費負担	53
⑥ 近隣の環境	54
⑦ 経済的理由で行うことができないと感じること（物質的剥奪）	55
(3) 家族、社会との関係.....	56
① 続柄（世帯における地位）	56
② 社会的接触頻度	57
③ 地域活動やボランティア活動の頻度	58
④ 組織への信頼.....	63
(4) 雇用・仕事の質.....	64
① 就業の有無	64
② 従業上の地位.....	65
③ 正規・非正規の状況	66
④ 仕事の質.....	67
⑤ 労働時間.....	73
⑥ 非就業の状態.....	74
⑦ 非労働力化の内訳.....	76
(5) 心身の健康.....	78
① 健康状態.....	78
② 心の健康状態（K6）	80
③ 介護等負担の有無.....	84
④ 介護等負担感.....	85
4. パネルデータに基づく幸福感等の状況	86
(1) 幸福感、生活満足度の変化の状況	86
① 生活の質に関する調査における幸福感の状況.....	86
② 幸福感の水準別にみた比較	87
③ 性別・年齢階層別にみた比較.....	88
(2) 年収と幸福感との関係	91
(3) 地域社会とのつながりと幸福感との関係.....	94
(4) 就労状況の変化と幸福感.....	98

資料 単純集計表：世帯付属表および個人調査票

1. 調査概要

(1) 調査目的

国民の生活実態、意識及び行動の変化を継続的に調査すること、世帯内の幸福感格差を継続的に調査することを目的に実施。

(2) 調査項目

①主観的幸福度、②生活満足度、③感情バランス、④生活領域での満足度、⑤組織に対する信頼感、⑥仕事の満足度、⑦うつ尺度、⑧経済状況、⑨住環境、⑩子育てに対する感じ方等を調査項目とする。

(3) 調査対象

平成 24 年度調査（平成 25 年 2～3 月実施）における調査世帯及び世帯構成員（注：以下の客体から抽出）4,950 世帯、10,163 人のうち、今回調査への協力を可能と回答した世帯、構成員を対象とした。その結果、1,932 世帯、4,066 人から回答を得た¹。このように二時点間パネル調査となっている。

① 調査客体：住民基本台帳（平成 24 年度調査時点のもの。全国 450 地点、一般世帯）から抽出した 4,950 世帯²

② 調査客体数：4,950 世帯、対象世帯の 15 歳以上の世帯員全員

（備考）抽出された調査客体の属性が維持されているかどうかは、社会・人口属性別に確認を行った。

(4) 調査時期

平成 26 年 1 月 23 日(木)～2 月 11 日(火)

(5) 調査方法

原則として調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法。プライバシー保護のため、個票ごとに密封回収している。

(6) 標本抽出方法

平成 24 年度調査時（平成 25 年 2～3 月）に、市区町村の選定を第 1 段階、市区町村内の調査地点の選定を第 2 段階、調査地点における世帯の抽出を第 3 段階とする層化三段抽出（抽出は住民基本台帳による）により抽出している。今回調査においては、縦断調査としての情報を得ることに重点を置き、昨年度の調査において「次回の調査に協力してもよい」と回答した回答者のみとし、調査対象の補充を行っていない。

¹ 地域別、都市規模別調査地点数、対象者数については表 1 参照。

² 抽出方法については、別紙 1（14 ページ）参照。

表 1 地域別・都市規模別調査標本数・地点数

		人口 100 万 以上の 市	人口 20 万 以上の 市	人口 10 万 以上の 市	人口 5 万 以上の 市町村	人口 5 万 未満の 市町村	計
北海道	標本数 地点数	74 (7)	12 (2)	44 (3)	10 (1)	43 (6)	183 (19)
東北	標本数 地点数	32 (4)	78 (8)	51 (5)	74 (7)	108 (10)	343 (34)
関東	標本数 地点数	326 (53)	396 (42)	248 (27)	168 (17)	107 (10)	1245 (149)
北陸 ・東山	標本数 地点数	— —	135 (12)	64 (5)	89 (9)	91 (10)	379 (36)
東海	標本数 地点数	55 (8)	169 (15)	114 (10)	68 (7)	77 (5)	483 (45)
近畿	標本数 地点数	157 (19)	197 (25)	78 (10)	94 (11)	80 (7)	606 (72)
中国 ・四国	標本数 地点数	30 (4)	123 (14)	77 (8)	41 (5)	102 (10)	373 (41)
九州 ・沖縄	標本数 地点数	41 (5)	141 (17)	49 (7)	79 (9)	144 (14)	454 (52)
計	標本数 地点数	715 (100)	1251 (135)	725 (75)	623 (66)	752 (72)	4066 (448)

(備考) 調査地点数は前回調査とほぼ同数。対象者数(標本数)は、人口 100 万人以上の大都市、特に首都圏、関西圏での減少幅が若干大きく、その結果、人口 5 万人未満の市町村の構成比が高まっているが全体としては前年度の構成比に近い。

(7) 調査実施機関

一般社団法人新情報センター

(8) 回収結果

①世帯票：

世帯票回収率：62.6% (1,932/ 3,086) (参考：24 年度調査 62.3% (3,086/ 4,950))

世帯の状況：2 人以上世帯数：1,811 世帯

世帯附属表に掲載された世帯人員の合計 6,391 人 (単身除く)

世帯主の性別：男性 1,272 人、女性 123 人 (単身除く)

世帯主の平均年齢 56.4 歳 (2 人以上世帯のみ、不明分を除く))

単身世帯数：121 世帯

世帯主の性別：男性 52 人、女性 69 人

世帯主の平均年齢 56.5 歳

(平成 22 年国勢調査の場合、単身世帯は総世帯数の 32.4%を占めるのに対し、今回の調査では 6.3%に留まっている)。

②個人票：73.0%（個人票回収数 4,066（男性 1,851 人、女性 2,215 人） / 5,572 人）
（参考：24 年度調査の個人票回収数は、7,717 人（男性 3,604 人、女性 4,113 人））

（備考） 25 年度調査の世帯票回収率、個人票回収率は、24 年度の回答世帯 3086 世帯、
「次回の調査に協力してもよい」と回答した回答者数 5,572 を分母とした場合の数
値。

2. 他の調査との調査対象の属性比較

回答のあった世帯及び世帯員の属性については、国勢調査や労働力調査と比較して大きな違いはなく、調査としての精度に問題はないと考えられるが、世帯員数別の比較において、単身世帯数が少ないことに留意する必要がある。詳細は以下の通り。

なお、これまで内閣府で行った類似の調査も含めて比較している。表中の「23 年度調査」とは平成 24 年 3 月に実施された「平成 23 年度版生活の質に関する調査」を、「24 年度調査」とは平成 25 年 2 月に実施された 24 年度「生活の質に関する調査（世帯調査：訪問留置法）」を指している³。

（1）性・年齢別構成

性・年齢別の構成比を見ると、今回調査は、国勢調査等との比較で男性の 30 歳代、女性の 70 歳代以上で構成比が低めとなっている、20 歳代は前回調査（24 年度調査）の際にオーバーサンプリングによる補充（14 ページ別紙 1 参照）を行っているため国勢調査に近い構成比になっており、また、男性の 70 歳代以上の乖離も大きくはない。一方、男性の 30 歳代、女性の 70 歳代以上の構成比は国勢調査等との比較で乖離がみられるが、年齢別構成比で極端に低くはなく、結果の解釈に特に影響はないものと考えられる。

表 1-1 男女年齢別構成比

	今回調査 (25 年度調査)		前回調査 (24 年度調査)		23 年度調査		平成 22 年 国勢調査	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
15～19 歳	2.9%	2.9%	3.4%	3.6%	2.2%	2.7%	2.8%	2.7%
20～29 歳	5.5%	7.3%	6.7%	7.4%	4.2%	4.7%	6.3%	6.1%
30～39 歳	5.7%	7.9%	6.1%	6.9%	6.7%	6.3%	8.3%	8.1%
40～49 歳	6.9%	10.1%	6.7%	8.7%	7.5%	8.5%	7.6%	7.6%
50～59 歳	9.0%	10.8%	8.1%	9.8%	7.8%	8.0%	7.3%	7.4%
60～69 歳	9.2%	9.1%	9.0%	9.1%	10.0%	10.4%	8.0%	8.5%
70 歳以上	6.4%	6.5%	6.8%	7.7%	8.6%	12.3%	7.8%	11.3%

（2）世帯構成

本調査は世帯調査であるものの、前回調査（24 年度調査）で個人をベースにサンプリングしているため、世帯人員数が 5 人以上の世帯の抽出率が高めとなり構成比も国勢調査に比べ若干高い。また、前回調査に引き続き、単身世帯の構成比がかなり低いことから、単身世帯に関する特徴を見る際には留意が必要である。

³ 「24 年度調査」の概要については、桑原進、上田路子、河野志穂、2013、「生活の質に関する調査（世帯調査：訪問留置法）の結果について」ESRI Research Note No.23 を参照
(http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_rnote/e_rnote030/e_rnote023.pdf)。

表 2-1 世帯人数構成（単位：世帯数）

	今回調査 (25 年度調査)		前回調査 (24 年度調査)		平成 22 年国勢調査	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
1 人 ⁴	121	6.3%	232	7.2%	16,784,507	32.4%
2 人	481	24.9%	769	25.2%	14,125,840	27.2%
3 人	493	25.5%	811	26.3%	9,421,831	18.2%
4 人	460	23.8%	734	23.8%	7,460,339	14.4%
5 人	220	11.4%	318	10.3%	2,571,743	5.0%
6 人	105	5.4%	149	4.8%	984,751	1.9%
7 人以上	52	2.7%	72	2.3%	493,296	1.0%
総数	1932	100.0%	3086	100.0%	51,842,307	100.0%

回答者の分布は、今回調査、前回調査ともほぼ同じであるが、国勢調査との比較では、単身世帯がさらに少なく、今回の調査が単身世帯を補足できていないという課題を抱えていることが分かる。

表 2-2① 回答者の世帯員数ごとの分布（人数）

	今回調査 (25 年度調査)	前回調査 (24 年度調査)	23 年度調査	平成 22 年国勢調査
1 人	121	232	1085	16,784,507
2 人	795	1412	1590	28,251,680
3 人	1014	1976	1302	28,265,493
4 人	1081	2117	1277	29,841,356
5 人	583	1087	620	12,858,715
6 人	301	589	313	5,908,506
7 人以上	171	304	192	3,635,346
総数	4066	7717	6379	125,545,603

表 2-2② 回答者の世帯員数ごとの分布（構成比）

	今回調査 (25 年度調査)	前回調査 (24 年度調査)	23 年度調査	平成 22 年 国勢調査
1 人	3%	3%	17%	13%
2 人	20%	18%	25%	23%
3 人	25%	26%	20%	23%
4 人	27%	27%	20%	24%
5 人	14%	14%	10%	10%
6 人	7%	8%	5%	5%
7 人以上	4%	4%	3%	3%
総数	100%	100%	100%	100%

⁴ ここでは、世帯付属票の世帯員（15 歳未満の構成員を含む）の性別・年齢・続柄等について問う設問で何らかの回答のあった人を集計し、その数を当該世帯の世帯人員数とした。「一人世帯」と定義された回答者 121 人のうち、一緒に暮らす家族の有無を問う設問で「単身である」と回答した回答者は 101 人にとどまっている。したがって「一人世帯」と定義された回答者のうち 20 名は「単身世帯」ではない可能性があるが、世帯規模を知る設問が他にないため、この設問の集計を用いた。

また、今回調査の世帯票において 18 歳以下の世帯構成員について回答のあった世帯について、18 歳以下の構成の有無とその人数を見ると、表 2-3 ①のようになる。1932 世帯中、18 歳以下の構成員がいるのは 671 世帯 (34.7%) である。

表2-3① 18歳以下の世帯構成員のいる世帯

	世帯数	構成比
18歳以下の構成員なし	1261	65.3%
1人いる	283	14.6%
2人いる	279	14.4%
3人いる	91	4.7%
4人以上	18	0.9%
計	1932	100.0%

さらに、18 歳以下の世帯構成員のいる世帯 (671 世帯) について、18 歳以下の世帯員の年齢別に人数を表したのが表 2-3 ②である。671 世帯全体でみると、18 歳以下の世帯員は 1,188 人いる。18 歳以下の構成員の全世帯構成員 (単身世帯の構成員含む 6,512 人) に占める比率は、18.2% である。

表2-3② 18歳以下世帯員の年齢別構成

	人数	構成比
0歳	44	3.7%
1歳	59	5.0%
2歳	53	4.5%
3歳	59	5.0%
4歳	55	4.6%
5歳	49	4.1%
6歳	66	5.6%
7歳	57	4.8%
8歳	50	4.2%
9歳	55	4.6%
10歳	52	4.4%
11歳	47	4.0%
12歳	60	5.1%
13歳	63	5.3%
14歳	68	5.7%
15歳	66	5.6%
16歳	96	8.1%
17歳	89	7.5%
18歳	100	8.4%
計	1188	100.0%

(3) 労働力の状態

今回調査で、労働参加の状況を質問したところ、平成24年(2012年)の労働力調査、及び前回調査と比較し、労働参加率が68%台まで上昇し、特に職業生活引退その他、通学などが低くなっている。この結果については単身世帯数が少ない影響も考慮する必要がある。

表 3-1 労働力状態

	今回調査 (25年度調査)	前回調査 (24年度調査)	23年度調査	平成24年 労働力調査
少しでも仕事をしていた	68.7%	66.2%	61.4%	55.4%
休業者	1.0%	1.1%	0.9%	1.1%
完全失業者	1.9%	2.2%	2.0%	2.6%
通学	4.7%	5.9%	4.5%	6.2%
家事	10.1%	9.3%	10.8%	14.9%
職業生活引退その他	13.6%	15.2%	20.4%	19.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 従業上の地位・雇用形態

従業上の地位について質問したところ、おおむね前回調査と一致しており、労働力調査と比較すると、常用雇用・臨時日雇いが少なく、自営業の手伝い、内職が多い。

表 4-1 従業上の地位・雇用形態

	今回調査 (25年度調査)	前回調査 (24年度調査)	23年度調査	平成24年 労働力調査
常用雇用	69.3%	68.7%	66.3%	70.4%
臨時・日雇い	9.4%	10.4%	9.1%	12.0%
会社などの役員	6.1%	5.2%	6.0%	5.8%
自営業主	7.9%	8.8%	10.7%	8.7%
自営業の手伝い	5.8%	5.7%	6.1%	2.9%
内職	1.5%	1.2%	1.7%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 正規・非正規別の状況

常用雇用、もしくは臨時・日雇いを選んだ方にさらに勤め先での呼称を質問したところ、正規の職員という回答が約 55%と前回調査並みであるが、労働力調査と比較しやや低くなっている。一方、パート・アルバイトという回答が相対的に高い。

表 5-1 正規・非正規別の状況

	今回調査 (25 年度調査)	前回調査 (24 年度調査)	平成 24 年 労働力調査
正規の職員・従業員	55.1%	54.9%	64.8%
パート	20.7%	21.2%	17.2%
アルバイト	12.2%	11.7%	6.8%
派遣社員	1.7%	1.8%	1.7%
契約社員・嘱託	8.6%	7.9%	6.9%
その他	1.7%	2.6%	2.5%
役員を除く雇用者合計	100.0%	100.0%	100.0%

(6) 労働時間

先週一週間の労働時間について質問したところ、正規の職員・従業員では、週 40 時間以上と回答する方がほとんどであり、非正規の職員・従業員では、39 時間以下が 7 割以上となっている。しかし、非正規の職員・従業員においても週 40 時間以上と回答する割合は上昇している。また、労働力調査と比較し、正規の職員・従業員の労働時間は長め、非正規の職員・従業員の労働時間は短めとなっている。

表 6-1 労働時間

	今回調査 (25 年度調査)		前回調査 (24 年度調査)		平成 24 年労働力調査	
	正規の 職員・従業員	非正規の 職員・従業員	正規の 職員・従業員	非正規の 職員・従業員	正規の 職員・従業員	非正規の 職員・従業員
週 1～14 時間	1.0%	20.5%	1.2%	18.3%	0.9%	12.6%
週 15～29 時間	2.2%	39.6%	2.5%	39.0%	3.2%	35.2%
週 30～34 時間	2.2%	8.0%	2.9%	8.6%	5.6%	12.5%
週 35～39 時間	8.1%	9.5%	7.9%	10.3%	7.3%	9.7%
週 40～48 時間*	48.5%	17.9%	47.5%	17.9%	53.2%	23.8%
週 49 時間以上*	37.9%	4.5%	38.0%	5.9%	29.8%	6.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%

* 今回調査、24 年度調査では、それぞれ週 40～49 時間、週 50 時間以上と回答した方の割合であり、労働力調査の集計区分とは 1 時間ほどのずれが存在する。

(7) 世帯年収

世帯年収を平成24年国民生活基礎調査(所得票は平成24年7月12日実査)、前回調査(24年度調査)と比較すると、今回調査は年収300万円までの低所得層が少なく、500万円以上の所得層の構成比が全般に高い。国民生活基礎調査との比較では、所得の低い傾向のある単身世帯の割合が小さいことが影響している。

図 7-1 世帯年収の構成比(%)

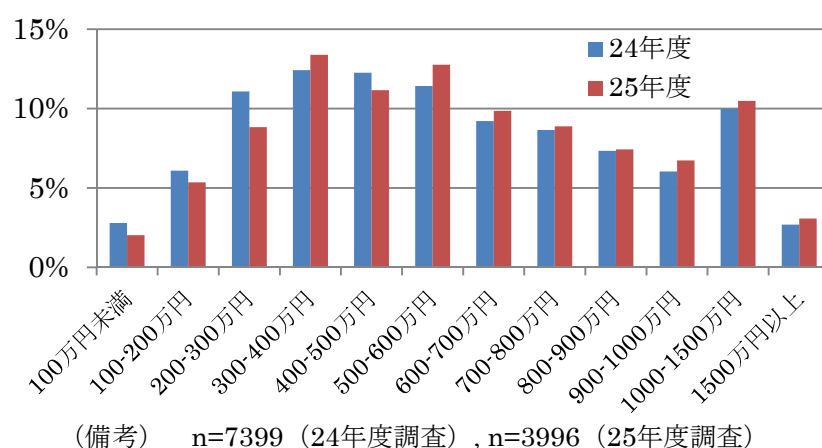


表 7-1 世帯年収の構成比

	今回調査 (25年度調査)	前回調査 (24年度調査)	平成24年 国民生活基礎調査
100万円未満	2.0%	2.8%	6.9%
100-200万円	5.4%	6.1%	13.0%
200-300万円	8.8%	11.1%	12.4%
300-400万円	13.4%	12.4%	13.4%
400-500万円	11.2%	12.3%	11.6%
500-600万円	12.8%	11.4%	9.1%
600-700万円	9.9%	9.2%	7.0%
700-800万円	8.9%	8.6%	6.2%
800-900万円	7.4%	7.3%	4.8%
900-1000万円	6.7%	6.0%	4.0%
1000-1500万円	10.5%	10.0%	8.3%
1500万円以上	3.1%	2.7%	3.3%

(備考) n=7399 (平成24年度), n=3996 (平成25年度)

(8) 地域・年齢別回答者数

本調査では、ブロック・都市規模別に層化を行い、サンプリングを行っているが、国勢調査の結果と比較し、どの程度バイアスが発生しているかを見ると、最も乖離しているところで、国勢調査における人口比の 2.2 倍、もしくは、0.3 倍となっており、必要に応じて乗率を用いることにより、分析に支障のない範囲となっている。

表 8-1① 男性の地域・年齢別回答者数

	北海道	東北	関東	北陸・東山	東海	近畿	中・四国	九州・沖縄	合計
15～19 歳	10	10	40	14	9	14	12	7	116
20～29	9	15	83	17	34	28	21	17	224
30～39	16	9	72	21	28	31	25	28	230
40～49	17	23	79	27	30	51	24	31	282
50～59	14	28	111	46	47	43	31	45	365
60～69	17	30	119	38	46	59	31	35	375
70～	8	33	82	24	27	32	25	28	259
合計	91	148	586	187	221	258	169	191	1,851

表 8-1② 回答者が全回答者に占める割合/国勢調査における該当地域・年齢層人口割合⁵ (%)

	北海道	東北	関東	北陸・東山	東海	近畿	中・四国	九州・沖縄	合計
15～19 歳	2.2	1.2	1.2	1.6	0.8	1.3	1.2	0.5	1.1
20～29	0.9	1.0	0.9	1.0	1.3	1.3	1.1	0.7	0.9
30～39	1.3	0.4	0.6	0.9	0.8	1.1	1.0	0.9	0.7
40～49	1.4	1.2	0.7	1.2	1.0	1.9	1.0	1.1	1.0
50～59	1.1	1.2	1.2	1.9	1.7	1.7	1.2	1.3	1.3
60～69	1.3	1.4	1.2	1.5	1.5	2.0	1.1	1.1	1.2
70～	0.6	1.3	0.9	0.9	0.9	1.1	0.8	0.8	0.9
合計	1.2	1.1	0.9	1.2	1.2	1.5	1.0	0.9	1.0

表 8-2① 女性の地域・年齢層別回答者数

	北海道	東北	関東	北陸・東山	東海	近畿	中・四国	九州・沖縄	合計
15～19 歳	5	8	34	11	14	23	12	10	117
20～29	6	31	87	21	44	42	25	40	296
30～39	20	22	97	16	37	57	38	35	322
40～49	19	29	127	40	41	69	38	47	410
50～59	19	45	120	45	56	65	34	54	438
60～69	16	32	114	31	39	59	30	47	368
70～	7	28	80	28	31	33	27	30	264
合計	92	195	659	192	262	348	204	263	2,215

⁵ 1 の場合地域・年齢階層別の回答者の割合が、国勢調査と一致することを意味し、2 のときは 2 倍、0.5 のときは半分となっていることを意味する。

表 8-2② 回答者が全回答者に占める割合/国勢調査における該当地域・年齢層人口割合 (%)

	北海道	東北	関東	北陸・ 東山	東海	近畿	中・ 四国	九州・ 沖縄	合計
15～19 歳	1.0	0.9	0.9	1.2	1.2	2.0	1.2	0.7	1.0
20～29	0.6	1.8	0.9	1.1	1.7	1.7	1.2	1.3	1.1
30～39	1.4	1.0	0.8	0.6	1.0	1.7	1.3	0.9	0.9
40～49	1.3	1.3	1.1	1.6	1.2	2.2	1.4	1.3	1.3
50～59	1.2	1.7	1.2	1.7	1.8	2.2	1.1	1.4	1.4
60～69	0.9	1.2	1.0	1.0	1.1	1.6	0.9	1.2	1.0
70～	0.3	0.7	0.6	0.6	0.7	0.7	0.5	0.5	0.5
合計	0.9	1.2	0.9	1.0	1.2	1.7	1.0	1.0	1.0

(9) 都市規模別

都市規模別の回答者の構成比について、住民基本台帳人口(平成 24 年 3 月 31 日)と比較すると、人口 5 万人未満では今回調査の構成比がやや高く、人口 100 万人以上では今回調査の構成比がやや低い。平均世帯人員は、住民基本台帳では、2.0～2.6 人となっているが、今回調査では、2.0～2.1 人となっており、人口規模の小さい市町村における世帯規模も低めとなっている。

表 9-1 今回調査及び前回調査の都市規模別調査地点、回答者数

	調査地点数	回答者数	世帯数	平均世帯人員	構成比
人口 100 万人以上	100(101)	715(1,329)	352(580)	2.0(2.3)	18%(17%)
人口 20 万人以上 100 万人未満	135(135)	1,251(2,284)	590(918)	2.1(2.5)	31%(30%)
人口 10 万人以上 20 万人未満	75(75)	725(1,332)	342(531)	2.1(2.5)	18%(17%)
人口 5 万人以上 10 万人未満	66(67)	623(1,322)	293(516)	2.1(2.6)	15%(17%)
人口 5 万人未満	72(72)	752(1,450)	355(541)	2.1(2.7)	18%(19%)
全国	448(450)	4,066(7,717)	1,932(3,086)	2.1(2.5)	100%(100%)

(注)()内は前回調査(24 年度調査)の数値。

表 9-2 都市規模別市区町村数、人口(住民基本台帳人口)

	市区町 村数	人口	世帯数	平均 世帯人員	構成比
人口 100 万人以上	12	27,964,945	13,671,427	2.0	22%
人口 20 万人以上 100 万人未満	101	38,208,497	16,364,967	2.3	30%
人口 10 万人以上 20 万人未満	152	21,112,440	8,741,920	2.4	17%
人口 5 万人以上 10 万人未満	273	19,016,230	7,466,915	2.5	15%
人口 5 万人未満	1,188	20,357,571	7,926,246	2.6	16%
全国	1,726	126,659,683	54,171,475	2.3	100%

(別紙 1) 前回調査(平成 24 年度調査)平成 25 年 2～3 月実施時の標本抽出法

母集団：全国の市区町村に居住する 15 歳以上人口

[層化]

1. 全国の市区町村を、都道府県を単位として次の 8 地区に分類する。

北海道地区	北海道	1 道
東北地区	青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県	6 県
関東地区	茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県	1 都 6 県
北陸・東山地区	新潟県, 富山県, 石川県, 福井県, 山梨県, 長野県, 岐阜県	7 県
東海地区	静岡県, 愛知県, 三重県	3 県
近畿地区	滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県	2 府 4 県
中国・四国地区	鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県	9 県
九州・沖縄地区	福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県	8 県

2. 各地区においては、さらに都市規模によって次のように 16 分類し、それぞれを第 1 次層として、計 44 層とする。

- ・人口 100 万人以上の市（各都市ごとに分類）
（東京都区部, 札幌市, 仙台市, さいたま市, 横浜市, 川崎市, 名古屋市, 京都市, 大阪市, 神戸市, 広島市, 福岡市）
- ・人口 20 万以上 100 万人未満の市
- ・人口 10 万人以上 20 万人未満の市
- ・人口 5 万人以上 10 万人未満の市町村
- ・人口 5 万人未満の市町村

(注) 都市規模における市町村の別は、平成 24 年 4 月 1 日現在市制施行による。また、人口による都市規模の分類は、住民基本台帳に基づく平成 24 年 3 月 31 日現在の人口による。

〔標本数の配分及び調査地点数の決定〕

地区・都市規模別各層における推定母集団の大きさ（平成 24 年 4 月 1 日現在の 15 歳以上人口）により 4,500 の標本数を比例配分し、各調査地点の標本数が 8～12 になるように調査地点を決める。

〔抽出〕

1. 第 1 次抽出単位となる調査地点として、平成 22 年国勢調査時に設定された調査区を使用する。
2. 調査地点（調査区）の抽出は、調査地点が 2 地点以上割り当てられた層については、抽出間隔＝層における国勢調査時の当該母集団人口（計）÷層で算出された調査地点数を算出し、等間隔抽出法によって該当人数番目の世帯が含まれる調査区を抽出する。また、層内での調査地点数が 1 地点の場合には、乱数表により無作為に抽出するが、層内分散を計算することを考慮し、各層内の調査地点数が 2 以上になるよう配慮すること。
3. 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成 22 年国勢調査時の市区町村コードに従う。
4. 最初の 4,500 人についての調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）で標本となる対象者ができるように、抽出調査地点ごとに調査区抽出時に抽出間隔＝調査地点における国勢調査時の当該母集団人口÷調査地点抽出標本数を算出し、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出する。
5. 20 歳代の回答率が低いので、これをオーバーサンプリングするため、これに加え、4 で抽出した住所と同じでない者を、抽出調査地点毎に、20 歳代のものを 1 名追加抽出する（残りの 450 人）。
6. 当該対象者が含まれる世帯の 15 歳以上の世帯員全員を調査対象とする。
7. なお、分析に資するため、平成 22 年国勢調査時の調査区特性の分類基準により、各地点の調査区特性の分類番号を記録しておく。

(別紙 2) 配偶状態

男女年齢別の配偶状態については、24 年度調査までの結果を掲載した⁶。

別表 2-1 男性配偶状態① 有配偶率、未婚率

	男性有配偶率			男性未婚率		
	前回調査 (24 年度)	23 年度調査	22 年 国勢調査	前回調査 (24 年度)	23 年度調査	22 年 国勢調査
15～19 歳	0.8%	3.5%	0.3%	98.8%	95.8%	99.0%
20～24	5.3%	5.0%	5.5%	93.9%	95.0%	91.4%
25～29	28.0%	28.3%	26.2%	71.7%	71.1%	69.2%
30～34	54.9%	57.1%	49.0%	41.5%	39.3%	46.0%
35～39	69.9%	62.2%	59.4%	25.5%	33.2%	34.8%
40～44	81.0%	71.7%	64.9%	15.3%	20.2%	28.0%
45～49	85.5%	71.4%	69.9%	10.0%	19.2%	22.0%
50～54	91.6%	70.3%	73.8%	6.1%	17.7%	17.5%
55～59	92.9%	77.1%	76.0%	4.2%	13.0%	14.4%
60～64	92.8%	75.3%	79.3%	3.2%	11.9%	10.2%
65～69	92.4%	78.7%	82.6%	2.5%	6.0%	6.0%
70 ～	90.2%	75.3%	79.6%	0.6%	3.2%	2.5%

別表 2-2 男性配偶状態② 離別率、死別率

	男性離別率			男性死別率			男性 不詳
	前回調査 (24 年度)	23 年度 調査	22 年 国勢調査	前回調査 (24 年度)	23 年度 調査	22 年 国勢調査	22 年 国勢調査
15～19 歳	0.4%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
20～24	0.8%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%
25～29	0.4%	0.7%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%
30～34	3.6%	3.6%	2.1%	0.0%	0.0%	0.1%	2.8%
35～39	4.6%	4.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.1%	2.4%
40～44	3.2%	7.8%	4.7%	0.4%	0.4%	0.2%	2.2%
45～49	4.0%	8.5%	5.7%	0.4%	0.9%	0.4%	1.9%
50～54	1.3%	10.4%	6.2%	1.0%	1.6%	0.9%	1.7%
55～59	1.9%	7.5%	6.3%	1.0%	2.4%	1.6%	1.6%
60～64	2.2%	9.1%	6.2%	1.7%	3.6%	2.8%	1.5%
65～69	2.5%	8.2%	5.3%	2.5%	7.1%	4.6%	1.5%
70 ～	0.6%	3.1%	2.9%	8.6%	18.4%	13.5%	1.5%

⁶ 今回調査においては、個人票において有配偶状態、離婚、死別を直接尋ねていない。

別表 2-3 女性配偶状態① 有配偶率、未婚率

	女性有配偶率			女性未婚率		
	前回調査 (24年度)	23年度調査	22年 国勢調査	前回調査 (24年度)	23年度 調査	22年 国勢調査
15～19歳	0.0%	0.6%	0.6%	99.6%	98.8%	98.9%
20～24	4.6%	9.0%	9.3%	94.6%	89.6%	87.8%
25～29	33.9%	35.2%	36.2%	63.0%	61.0%	58.9%
30～34	62.1%	60.5%	59.7%	33.8%	31.1%	33.9%
35～39	73.9%	72.8%	68.6%	19.5%	20.3%	22.7%
40～44	77.8%	71.6%	72.0%	14.9%	17.0%	17.1%
45～49	85.0%	73.3%	75.2%	4.8%	11.1%	12.4%
50～54	88.8%	75.7%	78.0%	3.8%	6.7%	8.6%
55～59	89.6%	68.9%	78.1%	2.3%	7.0%	6.4%
60～64	89.3%	67.8%	75.6%	2.2%	5.9%	5.4%
65～69	84.2%	64.6%	70.7%	3.3%	6.0%	4.4%
70～	59.9%	40.6%	40.7%	0.9%	3.8%	3.7%

別表 2-4 女性配偶状態② 離別率、死別率

	女性離別率			女性死別率			女性 不詳
	前回調査 (24年度)	23年度 調査	22年 国勢調査	前回調査 (24年度)	23年度 調査	22年 国勢調査	22年 国勢調査
15～19歳	0.0%	0.6%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%
20～24	0.8%	0.7%	0.8%	0.0%	0.7%	0.0%	2.0%
25～29	3.1%	3.8%	2.5%	0.0%	0.0%	0.1%	2.4%
30～34	3.8%	8.4%	4.4%	0.4%	0.0%	0.2%	1.8%
35～39	5.9%	6.9%	6.7%	0.7%	0.0%	0.4%	1.7%
40～44	7.3%	10.7%	8.5%	0.0%	0.7%	0.8%	1.7%
45～49	9.3%	14.1%	9.3%	0.9%	1.5%	1.6%	1.5%
50～54	5.3%	14.2%	9.1%	2.0%	3.3%	3.1%	1.2%
55～59	5.5%	14.7%	8.7%	2.6%	9.5%	5.5%	1.2%
60～64	2.9%	12.1%	8.3%	5.6%	14.1%	9.4%	1.2%
65～69	3.3%	8.5%	6.7%	9.2%	21.0%	16.7%	1.5%
70 ～	2.4%	5.4%	3.9%	36.8%	50.1%	49.0%	2.7%

(別紙 3) 住宅

①所有関係

住宅の所有関係・タイプを見ると、今回調査（25 年度調査）では単身世帯が少ないことが影響し、他の調査と比較し、持家（一戸建て）の割合が高くなっている。

別表 3-1 所有関係

	今回調査 (25 年度調査)	平成 20 年 住宅・土地統計 調査	平成 22 年 国勢調査
持家（一戸建て）	72.4%	51%	61%
持家（集合住宅）	6.3%	10%	
民間の借家（一戸建て）	4.5%	4%	28%
民間の借家（集合住宅）	11.4%	23%	
公営の借家	2.7%	6%	6%
給与住宅	1.5%	3%	3%
借間、下宿	0.5%	3%	1%
住み込み、寄宿舍、独身寮	0.1%		
その他	0.5%		2%
合計	100%	100%	100%

②居住年数

住宅・土地統計調査の調査項目は建築年数となっている上に調査時点が 4 年以上異なるため、今回調査との厳密な比較はできないが、構成比を見ると、住宅・土地統計調査によると 20 年以上前（1990 年以前）に建築された住宅が概ね半数を占めているが、今回調査では現在の住所に住み始めてからの年数が 20 年以上という回答もおおむね半数となっており、類似した水準となっている。

別表 3-2 居住年数

	建築年数			現在の住所に住み始めてからの年数	
	住宅土地 統計調査	構成比		今回調査* (25 年度調査)	前回調査 (24 年度調査)
1990 年以前	25,837,500	52%	20 年以上	1,475 (48%)	1,480 (48%)
1991-2000 年	11,582,800	23%	10-20 年未満	626 (21%)	628 (21%)
2001-2003 年	3,577,300	7%	5-10 年未満	387 (13%)	391 (13%)
2004-2006 年	3,450,500	7%	2-5 年未満	307 (10%)	308 (10%)
2007 年	1,009,400	2%	1-2 年未満	126 (4%)	126 (4%)
2008 年 1-9 月	586,900	1%	1 年未満	119 (4%)	107 (4%)
不詳	3,553,800	7%	分からない	15 (0%)	15 (0%)
合計	49,598,200	100%	合計	3,055(100%)	3,055(100%)

(注) 今回調査では、転居をした人のみを対象としているため、その居住年数を 1 年未満とみなして集計している。

③居住室数

2008 年住宅・土地統計調査によると、1 住宅当たりの居住室数は、全住宅平均で 4.7 室であった。今回調査は、5 室以上については、選択肢を設けていなかったため、厳密には比較できないが、5 室以上と回答した世帯の居住室数を 5 として平均値を計算すると、4.3 室、6 として計算すると 4.9 室となり、おおむね一致している。

別表 3-3 居住室数

		今回調査 (25 年度調査)	前回調査 (24 年度調査)	平成 20 年 住宅・土地統計 調査
1 住宅 当たり 居住室数	「5 室以上」と回答 した世帯の居住室 数を 5 として平均値 を計算した場合	4.3 室	4.3 室	4.7 室
	「5 室以上」と回答 した世帯の居住室 数を 6 として平均値 を計算した場合	4.9 室	4.9 室	

④住居の床面積

住居の床面積を平成 22 年国勢調査の値と比較すると、今回及び 24 年度調査では全体に大きい床面積を回答した人が多い。単身世帯の回答が少なかった影響も考えられる。

別表 3-4 床面積

	平成 22 年国勢調査		今回調査 (25 年度調査)	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比
10 m ² 未満	1,785,983	3%	15	1%
10-19 m ²			74	3%
20-39 m ²	7,540,971	15%	278	10%
40-59 m ²	8,286,762	16%	339	12%
60-79 m ²	8,700,507	17%	448	16%
80-99 m ²	6,824,978	13%	335	12%
100-119 m ²	5,160,438	10%	357	13%
120 m ² 以上	12,750,936	25%	1011	35%
合計	51,050,575	100%	2857	100%

3. 調査結果

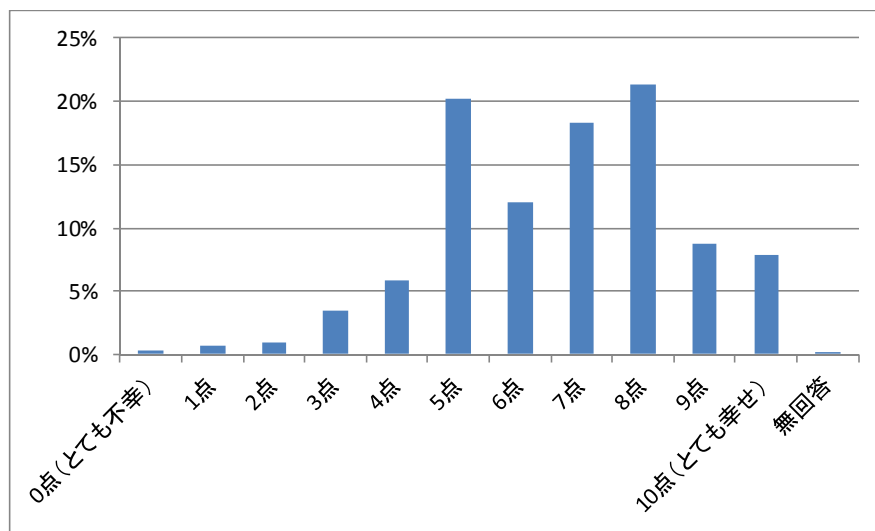
(1) 主観的幸福感

① 現在の幸福感

回答者が「現在、どの程度幸せ」であるかを、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として聞いたところ、全体の平均値は6.68だった(回答者は4058人、標準偏差1.95)。

図1-1①に示すように回答者は5点、7点、8点の回答が多い。

図1-1① 現在の幸福感の分布



男女年齢別に現在の幸福感を見ると、女性の方が全体的に現在の幸福感が高い(表1-1①)。

表1-1① 男女年齢別、現在の幸福感

	男性			女性		
	平均値	標準偏差	回答者数	平均値	標準偏差	回答者数
15-19 歳	6.39	2.13	116	6.88	2.01	117
20-29 歳	6.29	1.96	224	6.72	2.01	296
30-39 歳	6.63	1.95	230	7.02	2.04	321
40-49 歳	6.65	1.90	282	6.67	2.06	409
50-59 歳	6.47	1.87	365	6.65	2.01	437
60-69 歳	6.56	1.80	374	6.81	1.80	366
70 歳以上	6.71	1.86	258	6.99	1.98	263
全年齢	6.54	1.90	1849	6.80	1.99	2209

世帯の規模と現在の幸福感について見るために、世帯構成員全員から回答を得たサンプルについて、それぞれの世帯の現在の幸福感の平均値を求め、それをさらに世帯の規模ごとにまとめたものが表 1-1②である。1人世帯に関しては、2人以上世帯に比べて現在の幸福感が低くなっているが、2人以上世帯に関しては、世帯の規模と現在の幸福感に明確な関係はみられない。

表 1-1② 世帯の規模と現在の幸福感

	平均値	標準偏差	世帯数
1人世帯	5.71	2.13	120
2人世帯	6.91	1.82	302
3人世帯	6.60	1.99	153
4人世帯	6.64	1.91	75
5人世帯	6.42	2.13	24
6人以上世帯	7.12	2.16	8
全世帯	6.74	1.93	682

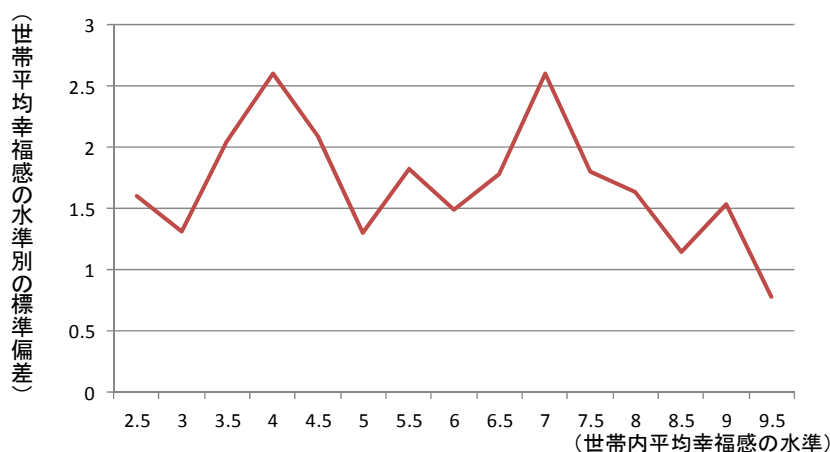
次に、世帯内の幸福感の格差を見るために、回答者が2人以上あった世帯につき世帯ごとの現在の幸福感の平均値を見ると、6.74と個人全員の平均値(6.68)とほぼ同じ水準となった。世帯内の現在の幸福感の標準偏差は1.93になっている(表 1-1③)。

表 1-1③ 2人以上世帯における世帯内現在の幸福感の平均値と標準偏差

	平均	標準偏差	世帯数
世帯内平均値	6.74	1.93	682
世帯内標準偏差	1.16	0.94	682

世帯内の現在の平均幸福感の平均を横軸、平均幸福感の標準偏差を縦軸にとり、2つの変数の関係を見ると(図 1-1②)、4前後と7前後で標準偏差(ばらつき)が大きく、また、7より幸福感の高い世帯では標準偏差も小さくなる傾向がみられる。

図1-1② 世帯内幸福感の平均値と標準偏差の関係

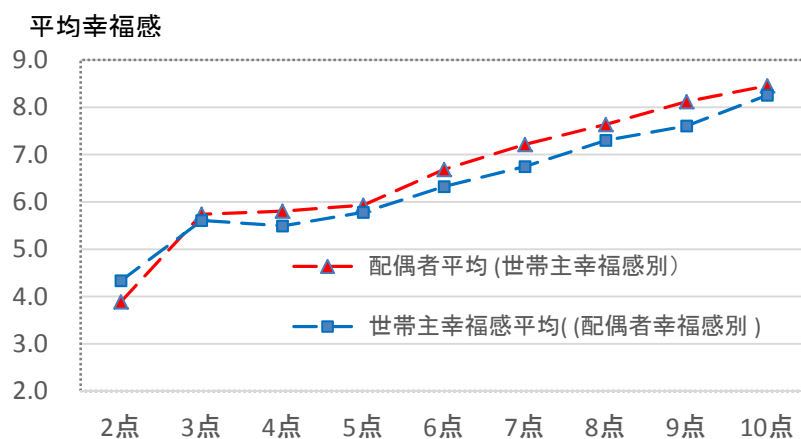


世帯主の現在の幸福感に対する配偶者の現在の幸福感の平均値、及び配偶者の現在の幸福感に対する世帯主の幸福感の平均値を示したのが図 1-1③⁷であるが、世帯主(配偶者)の幸福感

⁷ 個人票において自身の世帯における地位を世帯主と回答した人の数が1,506人、配偶者と回

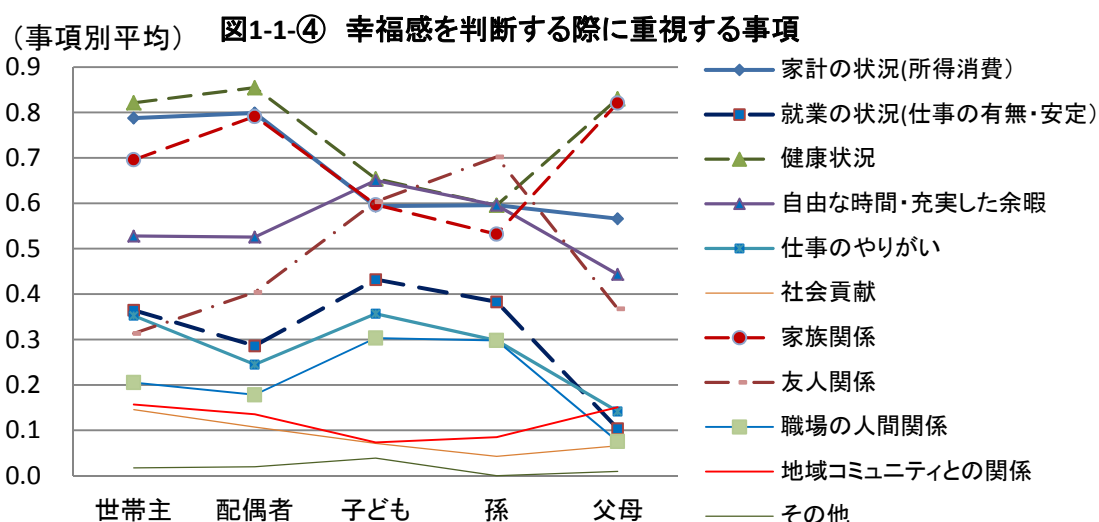
が増加するにつれ、配偶者（世帯主）の幸福感が増加しているが、配偶者の幸福感の増加程度が大きい（現在の幸福感が低い回答者では関係がみられないが、回答者数が少ない影響も考えられる）。

図 1-1③ 世帯主と配偶者の幸福感の関係



（備考）0～1点の該当者数は5未満と極めて少ないため割愛している。

次に、世帯構成員別に「幸福感を判断する際に重視する事項」の分布を見ると、世帯主・配偶者では重視する事項の重なりが近いことが分かる（図 1-1④）。一方、同居する父母では「健康状況」をより重視し、また、同居する子どもや孫においては「就業状況」や「友人関係」をより重視するなど、同じ世帯内であっても世代が異なると幸福感を判断する際の「重視する事項」に違いがあることがうかがわれる。



（備考）複数選択可の設問。0=未選択、1=選択として続柄別に平均値を算出した。

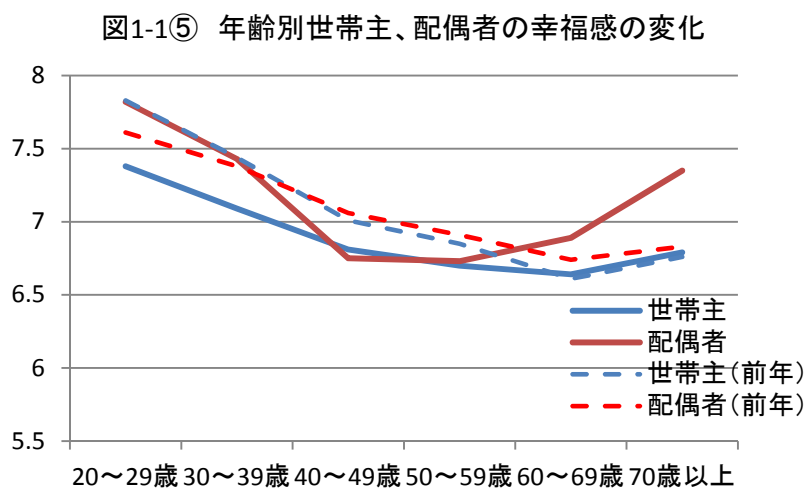
答した人の数が 1,307 人であったところ、1,003 世帯において、世帯主・配偶者両方から現在の幸福感について回答があり、両者の幸福感の相関係数を計算すると 0.48 となった。

なお、世帯主と配偶者、現在の幸福感がそろっている 1,003 世帯のデータにつき、男女の別を見ると、表 1-1④の通り、世帯主は圧倒的に男性が多い。

表 1-1④ 世帯主の性別(両方のデータがそろっているもののみ)

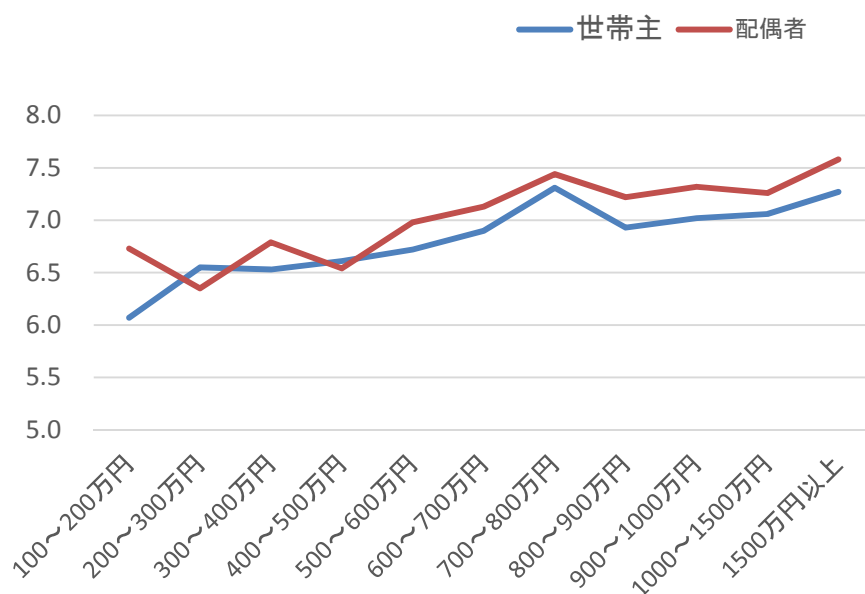
	男性	女性	合計
世帯主	992	11	1,003

世帯主と配偶者の年齢階級別に現在の幸福感を見ると、ほぼ全ての年代で配偶者の幸福感が世帯主のそれを上回っており、具体的には配偶者は 20 代、30 代や 60 代、70 代以上で高くなっている。また、前年度からの変化を見ると、世帯主、配偶者ともに 40 歳代、50 歳代の層で低下がみられる一方、配偶者は、若年層、高年齢層で上昇している(図 1-1⑤)。



世帯年収は、世帯主、配偶者の両方の現在の幸福感に影響すると考えられ、両者の相関関係を生み出している可能性が考えられる。世帯主・配偶者の幸福感、世帯年収の3つがそろったデータについて関係を図 1-1⑥で見ると、世帯主、配偶者ともに世帯年収の増加に伴い、幸福感が増加している(世帯年収が 100 万円未満の層は対象者数が少ないため図から割愛)。また、ほぼ全ての世帯年収層で配偶者の幸福感の方が世帯主の幸福感より高い水準となっている。

図 1-1-⑥ 世帯年収別、世帯主、配偶者の幸福感



② 過去の幸福感

「5年前の幸福感」について「現在の幸福感」と同様に0から10の尺度で答えてもらったところ、平均値は6.46であり、現在の幸福感の平均値6.68よりも若干低かった。また、現在の幸福感と同様に、5点、7点、8点と回答する人が多かった（図1-2①）。

全体の平均値を見るだけでは、現在と過去の幸福感が異なる回答者の割合は明らかでないため、回答者ごとに現在の幸福感から過去の幸福感を引き、その差を調べた。その差が正の値を取る（つまり現在の幸福感の方が過去の幸福感よりも高い）回答者が30.1%、現在の幸福感と過去の幸福感が同じと答えた回答者が21.2%、また、負の値を取る（つまり過去の幸福感の方が現在の幸福感より高い）回答者が48.7%となった（表1-2）。

図 1-2① 過去の幸福感の分布

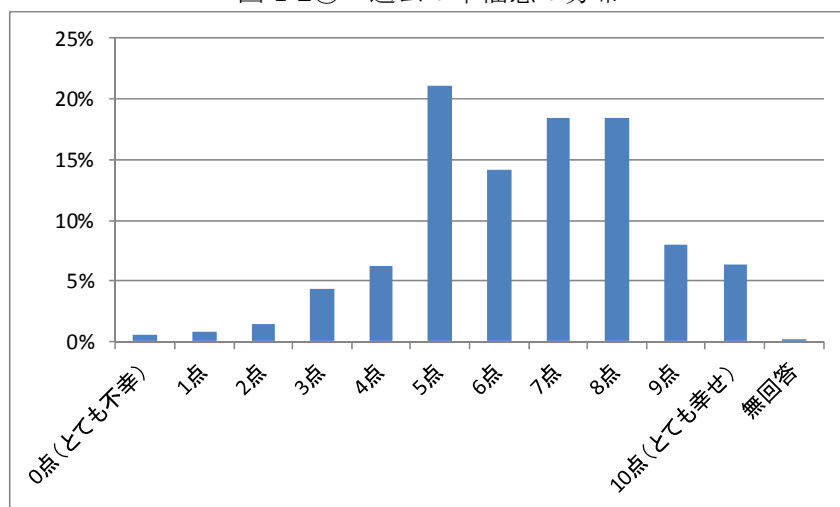


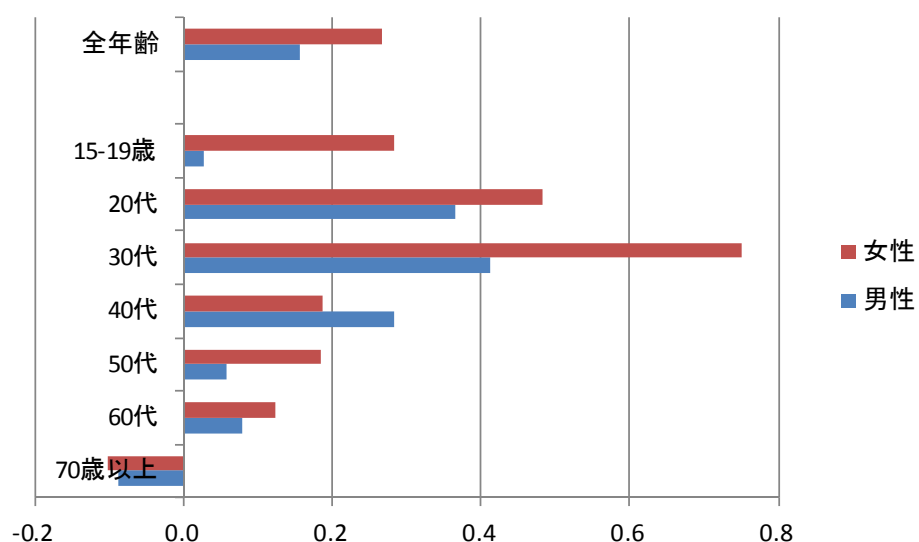
表 1-2 現在の幸福感和過去の幸福感の差

	回答者数	構成比 (%)
現在の幸福感が過去の幸福感より高い	1,222	30.1
現在の幸福感和過去の幸福感が同じ	861	21.2
現在の幸福感が過去の幸福感より低い	1,975	48.7
総数	4,058	100.0

(備考)無回答者は除く。

男女、年齢階層別に、現在の幸福感和過去の幸福感の水準の比較をしたところ、70 歳以上は男女ともに過去の方が幸福である回答者が多く、その他の年齢では男女ともに現在の方が幸福である回答者が多い。また、特に 15-19 歳、20 代、30 代では、女性の方が男性よりも現在の幸福感和過去の幸福感の差が大きいことが分かる (図 1-2②)。

図 1-2② 男女年齢別、現在の幸福感和過去の幸福感の差

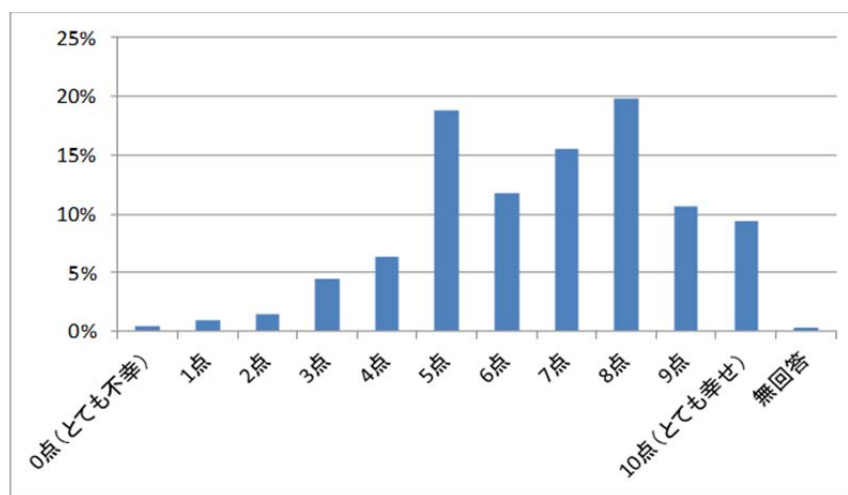


③ 将来の幸福感

「5年後、どの程度幸せだと思いますか」という問いへの回答の平均値は 6.66、標準偏差は 2.12 であった。現在の幸福感の平均値 6.68 とほぼ変わらない結果となった。

分布を見ると、現在の幸福感や過去の幸福感と同様、5点、7点、8点と回答する人が多い（図 1-3①）。

図 1-3① 将来の幸福感の分布



前問と同様に、回答者ごとに現在の幸福感と将来の幸福感の差を計算したところ、将来の幸福感と現在の幸福感が変わらない回答者は 49.7%で最も多く、将来の幸福感が現在の幸福感よりも高い回答者と、将来の幸福感が現在の幸福感よりも低い回答者は約 25%でほぼ同程度であった（表 1-3）。

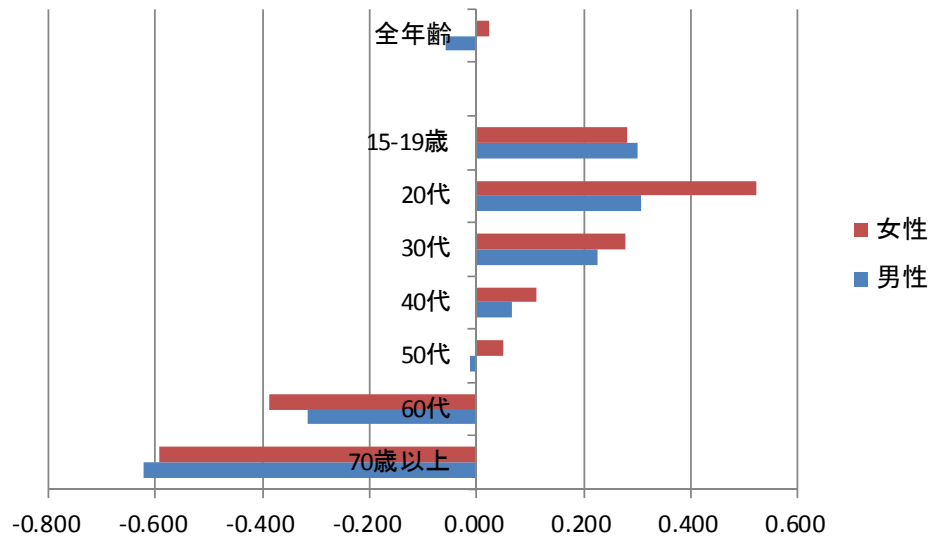
表 1-3 現在の幸福感と将来の幸福感の差

	回答者数	構成比 (%)
将来の幸福感が現在の幸福感より低い	1,032	25.5
将来の幸福感と現在の幸福感が同じ	2,015	49.7
将来の幸福感が現在の幸福感より高い	1,005	24.8
総数	4,052	100.0

（備考）無回答者は除く。

現在の幸福感と将来の幸福感の差を計算したところ、男女ともに、60代以上は、将来の幸福感は現在の幸福感より低いと予想する傾向にある。また10代から40代は男女ともに、将来の幸福感は現在の幸福感よりも高いと予想する傾向がある（図 1-3②）。

図 1-3② 男女年齢別、現在の幸福感と将来の幸福感の差

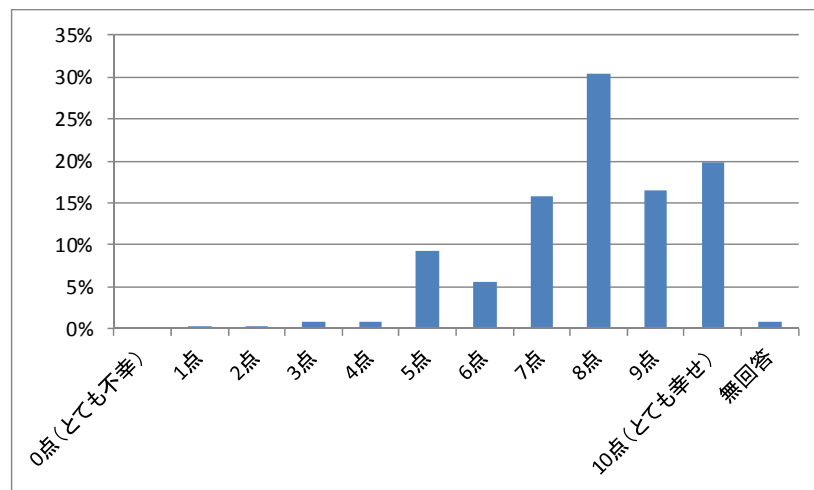


④ 理想とする幸福感

「とても幸せ」(10点) から「とても不幸」(0点) の間で回答者にとって最も理想的な状態を聞いたところ、平均値は 7.93、標準偏差は 1.63 だった。

分布を見たところ、回答が最も多かったのは 8 点だった (図 1-4①)。

図 1-4① 理想とする幸福感の分布



現在の幸福感別に理想の幸福感を見ると、現在の幸福感が高い回答者は理想的な状態も「10点（とても幸せ）」に近い状態を選択する傾向にあり、逆に現在の幸福感が低い回答者は理想的な状態も低い傾向にある。また現在の幸福感が3点以下の人たちは、回答者が少ないものの、ばらつきが大きい傾向がある（表1-4①）。

表 1-4① 現在の幸福感別、理想の幸福感

	平均値	標準偏差	回答者数
現在の幸福感 0 点	7.18	2.93	11
現在の幸福感 1 点	6.46	2.89	28
現在の幸福感 2 点	7.17	2.09	35
現在の幸福感 3 点	6.86	2.16	140
現在の幸福感 4 点	7.06	1.70	237
現在の幸福感 5 点	6.90	1.72	819
現在の幸福感 6 点	7.66	1.28	485
現在の幸福感 7 点	8.15	1.21	739
現在の幸福感 8 点	8.54	1.13	868
現在の幸福感 9 点	8.88	1.03	351
現在の幸福感 10 点	9.06	1.46	322
無回答	8.00	2.83	2
全体	7.93	1.63	4037

年齢別に理想の幸福感と現在の幸福感の差を見ると（表1-4②）、30代に理想の幸福感が最も高くなり、その後、年齢が上がるにつれて理想の状態は低下していく傾向にある。また理想の幸福感と現在の幸福感の差は20代が最も大きく、60代以降は小さい。

表 1-4② 年齢別、理想の幸福感と現在の幸福感の差

	(1) 理想の 幸福感	(2) 現在の 幸福感	(1) - (2)
15~19 歳	8.00	6.64	1.36
20-29 歳	8.09	6.54	1.55
30-39 歳	8.19	6.86	1.33
40-49 歳	8.05	6.66	1.39
50-59 歳	7.98	6.57	1.41
60-69 歳	7.72	6.68	1.04
70 歳以上	7.49	6.85	0.64
全年齢	7.93	6.68	1.25

⑤ 幸福感を判断する際に重視した事項

幸福感を判断する際に重視した項目を複数選択で挙げてもらったところ、「健康状況」が選択される割合が最も高かった（全体の約 78%）。次いで「家計の状況（所得・消費）」（約 73%）、「家族関係」（約 70%）、「自由な時間・充実した余暇」（約 56%）と続く。「地域コミュニティとの関係」や「社会貢献」は選択する回答者は少ない（表 1-5）。

表 1-5 幸福感を選択する際に重視した事項

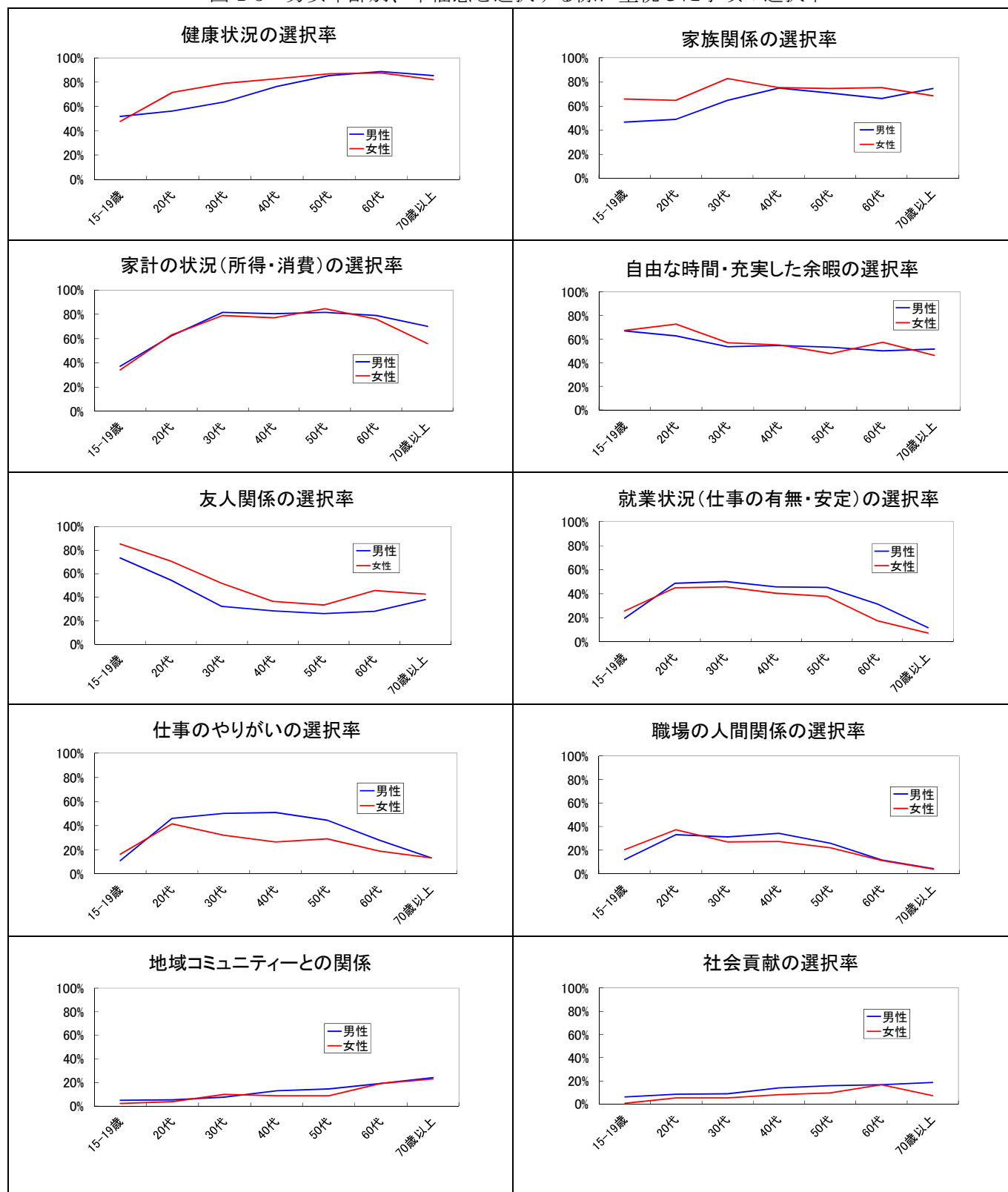
	選択率 (%)
健康状況	78.6
家計の状況（所得・消費）	72.9
家族関係	70.2
自由な時間・充実した余暇	55.6
友人関係	42.1
就業状況（仕事の有無・安定）	34.8
仕事のやりがい	31.0
職場の人間関係	21.9
地域コミュニティとの関係	12.7
社会貢献	11.0
その他	2.3

男女年齢別に、幸福感を選択する際に重視した事項の選択率を見たところ、グラフの形状に違いが見られた。

まず年齢に着目すると、10代で選択率が低く 20代以降選択率が上がるのが「健康状態」「家計の状況」「就業状況」「仕事のやりがい」「職場の人間関係」である。ただ「就業状況」や「仕事のやりがい」「職場の人間関係」は 60代以降低下する傾向にある。また、とりわけ 10代で選択率が高いのが「友人関係」である。

次に、性別に着目すると「友人関係」はどの年代でも男性に比べ女性の方が選択率が高い。「健康状況」や「家族関係」は若い年代において男女差が顕著であり、女性の方が選択率が高い。他方、男性の方が全般的に選択率が高いのは「仕事のやりがい」「就業状況（仕事の有無・安定）」「社会貢献」である（図 1-5）。

図 1-5 男女年齢別、幸福感を選択する際に重視した事項の選択率



⑥ 感情経験

調査日の前日に様々な感情を感じたかどうかを 0（全く感じなかった）から 10（常に感じていた）の尺度で聞いたところ、以下のような結果となった（表 1-6①）。

なお、この質問項目に関しては 10 問全てに回答していない回答者、及び 10 問全てに「10」あるいは「0」と回答した回答者は除外して集計した。

肯定的な感情としては「幸せ」「穏やかさ」を感じる人が多い一方で、否定的な感情としては「心配」「ストレス」を感じる人が多い。最頻値を見ると、「喜び」「穏やかさ」「心配」「幸せ」「ストレス」「たくさん笑った」に関しては、真ん中となる「5」を回答する者が一番多かったのに対し、「悲しみ」「憂うつ」「怒り」「肉体的苦痛」は「0」を選択する者が一番多かった。

表 1-6① 調査日前日の感情経験

	平均値	標準偏差	中央値	最頻値
喜び	5.86	2.23	6	5
穏やかさ	5.96	2.20	6	5
心配	4.64	2.62	5	5
悲しみ	2.67	2.54	2	0
幸せ	6.02	2.22	6	5
憂うつ	3.28	2.76	3	0
怒り	3.01	2.61	3	0
ストレス	4.21	2.84	4	5
肉体的苦痛	3.16	2.79	3	0
たくさん笑った	5.48	2.48	5	5

（備考）有効回答者数：3840 人

年齢別に各感情経験の平均値を並べたのが表 1-6②であり、それを肯定的な感情、否定的感情に分けて図示したのが図 1-6①、図 1-6②である。なお、肯定的な感情とは「喜び」「穏やかさ」「幸せ」「たくさん笑った」の 4 項目であり、否定的な感情とは「心配」「悲しみ」「憂うつ」「怒り」「ストレス」「肉体的苦痛」の 6 項目である。

これらの図表から明らかなように、肯定的感情に関しては、「たくさん笑った」経験は年齢とともに減ることが分かる（図 1-6①）。また、否定的感情に関しては「ストレス」は年齢が上がるにつれて感じるものが少なくなるが、「肉体的苦痛」は年齢が上がると多く感じている（図 1-6②）。

表 1-6② 年齢別、調査日前日の感情経験の平均値

	15-19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上
喜び	6.06	5.82	5.85	5.75	5.68	5.94	6.14
穏やかさ	6.04	5.71	5.72	5.69	6.00	6.18	6.45
心配	4.82	4.89	4.67	4.94	4.71	4.27	4.26
悲しみ	2.94	2.70	2.32	2.75	2.66	2.62	2.86
幸せ	6.23	5.81	6.04	5.88	5.88	6.19	6.31
憂うつ	3.94	3.89	3.34	3.36	3.24	2.84	2.80
怒り	3.26	3.20	3.20	3.23	2.93	2.79	2.60
ストレス	4.27	4.65	4.67	4.77	4.33	3.50	3.21
肉体的苦痛	2.77	3.00	2.84	3.13	3.39	3.00	3.78
たくさん笑った	6.65	5.75	5.59	5.43	5.27	5.27	5.18
有効回答数	226	503	534	667	765	689	456

図 1-6① 年齢別、調査日前日の肯定的な感情経験

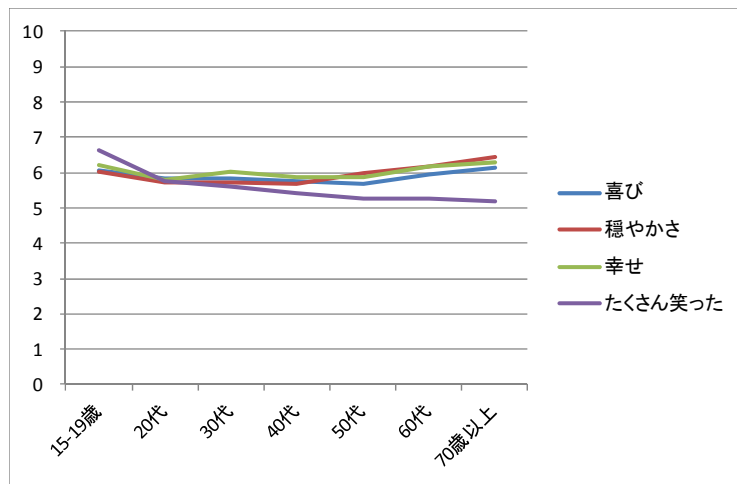
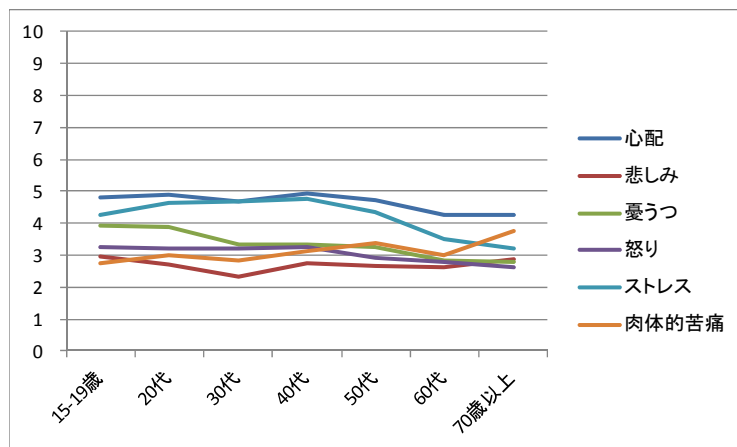


図 1-6② 年齢別、調査日前日の否定的な感情経験



男女別に肯定的な感情、否定的な感情の平均値を求めたところ、肯定的な感情経験が否定的な感情経験を上回っている。また、男女別に見ると、否定的な感情の平均値には男女間であまり差はないが、肯定的な感情の平均値は女性の方が高い。感情経験バランス（肯定的感情の平均値から否定的感情の平均値を引いたもの）は女性の方が高い（表 1-6③）。

表 1-6③ 男女別、感情経験バランス平均値

		平均値	標準偏差	有効 回答者数
全体	肯定的な感情	5.83	1.96	3840
	否定的な感情	3.49	2.05	
	感情経験バランス	2.33	3.31	
男性	肯定的な感情	5.59	1.89	1770
	否定的な感情	3.48	1.97	
	感情経験バランス	2.11	3.14	
女性	肯定的な感情	6.03	2.00	2070
	否定的な感情	3.50	2.12	
	感情経験バランス	2.53	3.45	

⑦ 様々な心の機能

回答者自身について、あるいは回答者自身が人生で感じたことについて、「全くそう思わない」を 0 点、「非常にそう思う」を 10 点とし、11 段階で聞いた。

これらの質問は、「エウダイモニア」を測ることを目的としている（エウダイモニアとは、ギリシャの哲学者のアリストテレスが定義した最高善としての幸福を指し、OECD の主観的幸福度のガイドラインでは、人生の意義や幸福と関わる心の機能的側面を捉える指標に対する呼称として用いられている）。

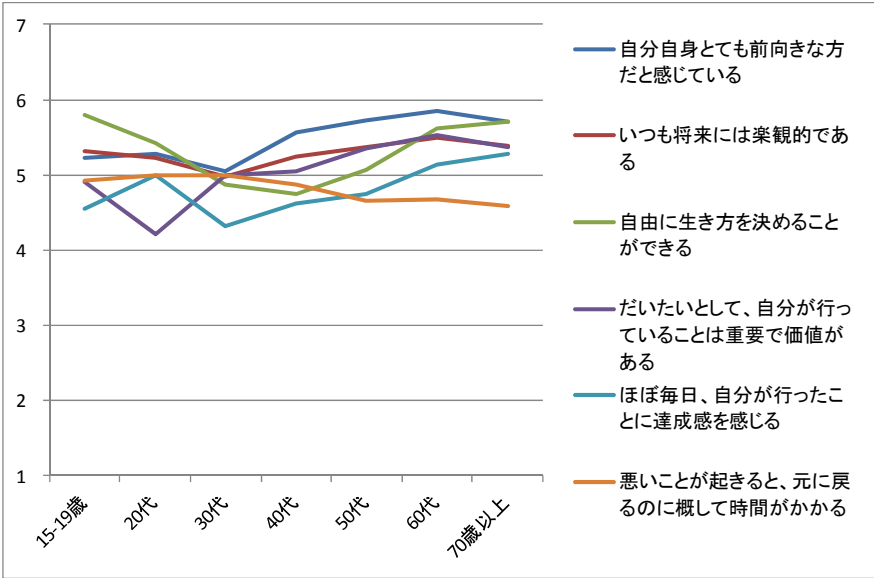
表 1-7 は、平均値、標準偏差、回答者数を、男女別に示したものである。男女を比較して見ると「自分自身とても前向きな方だと感じている」と「悪いことが起きると、元に戻るのに概して時間がかかる」は女性の平均値が高い。しかし、それ以外は、男性の方が平均値は高い。

表 1-7 男女別、様々な心の機能

	全体			男性			女性		
	平均値	標準偏差	回答数	平均	標準偏差	回答数	平均	標準偏差	回答数
自分自身とても前向きな方だと感じている	5.54	2.45	4033	5.48	2.35	1834	5.59	2.53	2199
いつも将来には楽観的である	5.30	2.35	4025	5.34	2.27	1831	5.26	2.41	2194
自由に生き方を決めることができる	5.25	2.51	4027	5.32	2.45	1834	5.20	2.55	2193
だいたいとして、自分が行っていることは重要で価値がある	5.17	2.28	4023	5.18	2.26	1830	5.17	2.30	2193
ほぼ毎日、自分が行ったことに達成感を感じる	4.72	2.24	4023	4.74	2.19	1833	4.70	2.28	2190
悪いことが起きると、元に戻るのに概して時間がかかる	4.79	2.40	4027	4.74	2.32	1833	4.83	2.47	2194

年齢別に見ると、「自由に生き方を決めることができる」に関して、10代で平均値が一番高く、その後年齢が上がるにつれて下がり、40代で平均値が最も低くなり、その後、再度上昇している（図 1-7）。その他の項目に関しては、20代あるいは30代に平均値の底があり、それ以降の年代では高くなる傾向を示している。

図 1-7 年齢別、様々な心の機能



⑧ 過去一週間の気持ち

過去一週間に回答者が感じたかもしれない気持ちを、「全く感じなかった」を 0 点、「常に感じた」を 10 点として、聞いた。表 1-8①に示すように、女性の方が、元気があり、穏やかであり、孤独を感じていないことが明らかになった。

表 1-8① 過去一週間の気持ち

	全体			男性			女性		
	平均	標準偏差	回答数	平均	標準偏差	回答数	平均	標準偏差	回答数
元気いっぱいであった	5.64	2.33	4026	5.51	2.27	1834	5.75	2.37	2192
穏やかであった	5.90	2.20	4030	5.79	2.10	1835	6.00	2.27	2195
孤独であった	2.64	2.66	4022	2.86	2.62	1832	2.47	2.68	2190

男女年齢別の平均値を見ると、10代から60代までは女性の方が「元気がいっぱいであった」「穏やかであった」と感じるが多く、「孤独であった」と感じることは少なかったというように、男性よりもポジティブな回答傾向にあるが、70歳以上に関しては男性の方がポジティブな回答傾向にある（表 1-8②）。

表 1-8② 男女年齢別、過去一週間の気持ちの平均値

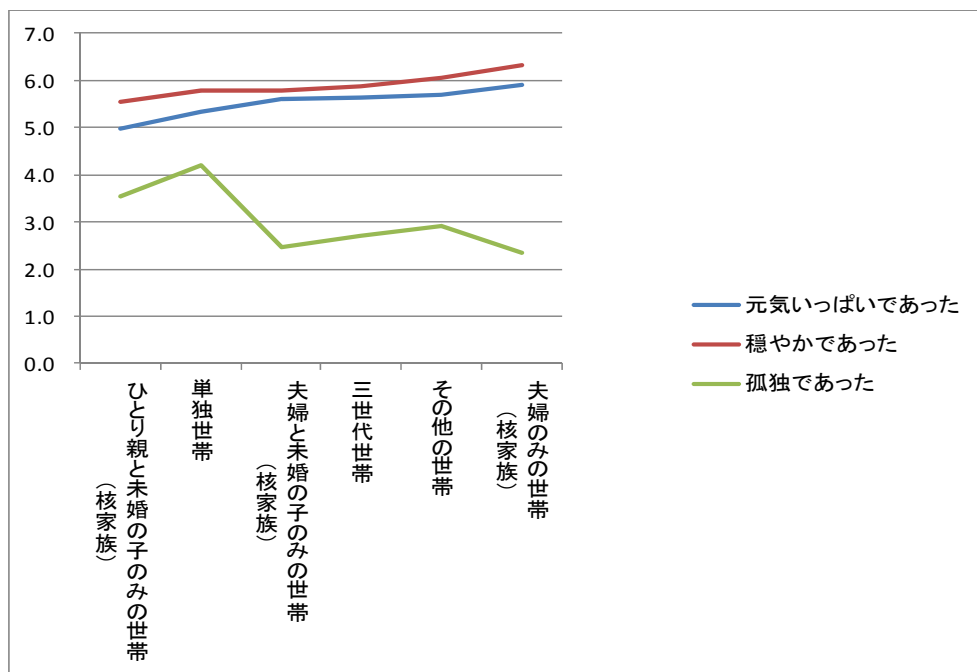
	元気いっぱいであった			
	全体	男性	女性	男性－女性
15-19 歳	6.08	5.84	6.31	-0.47
20-29 歳	5.41	5.08	5.69	-0.61
30-39 歳	5.34	5.40	5.51	-0.11
40-49 歳	5.55	5.40	5.65	-0.25
50-59 歳	5.53	5.44	5.61	-0.17
60-69 歳	5.90	5.71	6.09	-0.38
70 歳以上	5.93	6.03	5.83	0.20
全年齢	5.64	5.51	5.75	-0.25

	穏やかであった			
	全体	男性	女性	男性－女性
15-19 歳	5.97	5.86	6.09	-0.22
20-29 歳	5.68	5.49	5.83	-0.34
30-39 歳	5.47	5.37	5.59	-0.22
40-49 歳	5.65	5.51	5.76	-0.25
50-59 歳	5.91	5.74	6.05	-0.30
60-69 歳	6.21	5.99	6.42	-0.42
70 歳以上	6.44	6.50	6.39	0.11
全年齢	5.90	5.79	6.00	-0.21

	孤独であった			
	全体	男性	女性	男性－女性
15-19 歳	2.93	3.33	2.53	0.79
20-29 歳	2.94	3.26	2.77	0.49
30-39 歳	2.43	2.62	2.32	0.30
40-49 歳	2.59	2.85	2.41	0.44
50-59 歳	2.61	2.95	2.32	0.63
60-69 歳	2.42	2.61	2.22	0.39
70 歳以上	2.84	2.73	2.95	-0.22
全年齢	2.64	2.86	2.47	0.39

世帯類型ごとに過去一週間の気持ちに違いはあるのだろうか。世帯類型別に平均値を見ると、「元気いっぱいであった」と「穏やかであった」に関しては、世帯類型ごとの違いは乏しいが「孤独であった」は世帯類型ごとに大きな差がある。とりわけ、「単独世帯」や「ひとり親と未婚の子のみの世帯」において、孤独を感じるスコアが高い（図 1-8）。

図 1-8 世帯類型別、過去一週間の気持ちの平均値



⑨ 不安

不安を引き起こす項目について、どの程度不安を感じるかを、「常を感じる」から「全く感じない」まで5段階で聞いた。「常を感じる」と「少し感じる」という肯定回答を合わせた割合が一番多かったのは「老後の生活費」であった。次いで、「自然災害」「子どもの将来」という順番になっている（表 1-9①）。

表 1-9① 不安を引き起こす項目 (%)

	常 に 感 じ る	少 し 感 じ る	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 感 じ な い	全 く 感 じ な い	無 回 答	感 じ る	感 じ な い
失業	13.0	22.8	20.6	19.9	20.4	3.3	37.0	41.7
食の安全	18.2	37.3	20.6	18.7	4.1	1.1	56.1	23.1
子どもの将来	22.5	32.1	22.6	10.8	8.9	3.1	56.4	20.3
治安	11.2	34.3	25.7	22.0	5.3	1.4	46.2	27.7
自然災害	27.6	40.0	17.4	11.2	2.7	1.1	68.4	14.0
放射能汚染	19.3	34.6	20.7	16.2	7.9	1.3	54.6	24.4
老後の生活費	36.3	34.8	14.0	9.8	4.0	1.0	71.9	13.9
過労死	8.2	15.6	26.7	26.2	21.5	1.7	24.3	48.5
孤独死	9.1	18.5	26.4	24.2	20.6	1.2	27.9	45.4

(備考)「感じる」「感じない」は無回答を除いた有効回答のみを使って算出。

また、年齢別に見たところ、15-19 歳は不安を感じる割合が低く、「失業」以外の 8 項目で、あらゆる年代の中で最も不安を感じる割合が低かった（表 1-9②）。また、項目には、年代差の大きな項目と小さな項目があった。例えば、年代差が最も大きいのは「子どもの

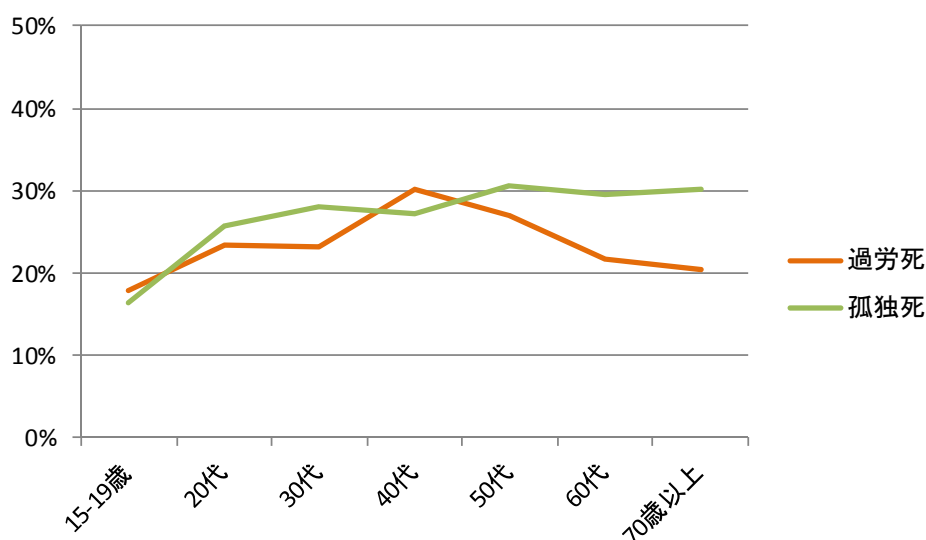
将来」であり、最も不安を感じていた 50 代と最も不安を感じていなかった 10 代とでは約 47 ポイントの差がある。また、最も年代差が小さいのは「過労死」であり、最も不安を感じていた 40 代と最も不安を感じていなかった 10 代とでは約 12 ポイント差がある。

なお、死に関する項目である「過労死」と「孤独死」に着目した（図 1-9①）。ともにその他の項目に比べ不安を感じる割合はそれほど高くはないものの、40 代を境に対称的な回答になっている。「過労死」は 10 代以降、不安を感じる割合が増加し 40 代がピークとなり、それ以降は低下している。他方、「孤独死」は 15～19 歳以降、割合が増加し、40 代で若干低まり、50 代以降では高くなっている。

表 1-9② 年齢別、不安を引き起こす項目の「不安を感じる」割合（％）

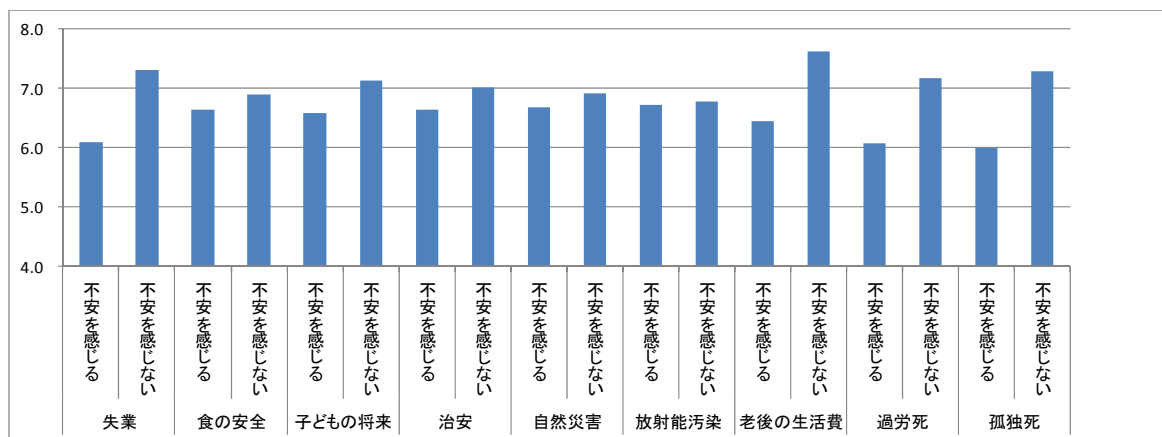
	失業	食の安全	子どもの将来	治安	自然災害	放射能汚染	老後の生活費	過労死	孤独死
15-19 歳	26.6	40.1	18.5	29.1	54.8	38.7	37.1	17.9	16.5
20-29 歳	43.5	49.4	39.8	42.7	63.8	40.3	67.6	23.3	25.8
30-39 歳	44.0	60.2	60.8	49.2	73.3	54.3	80.6	23.2	28.1
40-49 歳	44.3	56.7	62.7	50.0	71.8	56.3	82.6	30.2	27.2
50-59 歳	43.3	58.3	65.9	44.5	70.2	56.1	80.1	27.1	30.5
60-69 歳	28.8	61.6	63.1	50.2	69.9	63.7	70.4	21.7	29.5
70 歳以上	17.1	53.7	51.8	46.2	64.1	59.2	57.3	20.5	30.1
全体	37.0	56.1	56.4	46.2	68.4	54.6	71.9	24.3	27.9

図 1-9① 年齢別、「過労死」と「孤独死」に不安を感じる割合（％）



また、不安を感じるか否かによって、現在の幸福感がどれほど違うかを見たところ、「失業」「老後の生活費」「過労死」「孤独死」に関しては不安を感じるか否かによって幸福感の差が大きいことが分かる（図 1-9②）。

図 1-9② 不安の有無別、現在の幸福感



⑩ 夜の治安

近隣での夜の一人歩きについても、どの程度安全かを、「とても安全であると感じる」から「安全だと全く感じない」の 5 件法で聞いた。最も多かったのは「やや安全だと感じる」の 36.5%である、「とても安全である」の 11.3%と合わせると 5 割弱が、夜の一人歩きを安全と感じている。

本設問は、24 年度調査では聞いていない。しかしながら平成 23 年度に実施した生活の質に関する調査（訪問留置調査）で同じ質問をしている。なお、この調査と今回調査は対象者が異なっており、パネルデータではない。調査対象者が異なるものの、結果を比較してみたところ、両者はほぼ同じであり、「とても安全である」と「やや安全である」を合わせると今回調査では 47.8%だったが、平成 23 年度調査では 45.2%であった。

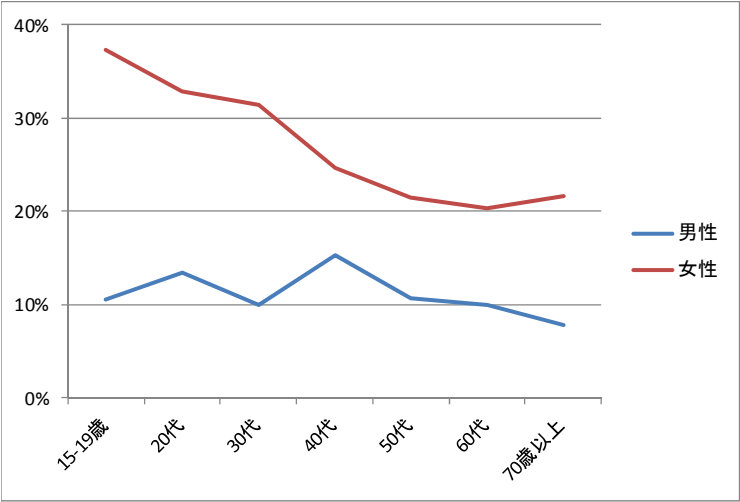
さらに、今回調査について、男女年齢別に見たところ、男女差、年齢差が如実に表れる結果となった（表 1-10①）。まず、男女差に関しては、男性では「とても安全だと感じる」が 18.3%を占めるのに対し、女性では 5.6%と約 3 倍開きがある。このように、男性の方が、夜の一人歩きを安全だと感じている。

表 1-10① 男女年齢別、近隣での夜の一人歩きの安全感（%）

		とても 安全だと 感じる	やや 安全だと 感じる	どちらとも いえない	あまり 安全だと 感じない	安全だと 全く 感じない	合計
男性	15-19 歳	21.9	32.5	35.1	10.5	0.0	100.0
	20-29 歳	19.4	40.1	24.8	13.5	2.3	100.0
	30-39 歳	15.7	36.7	33.6	10.0	3.9	100.0
	40-49 歳	16.7	37.4	28.8	15.3	1.8	100.0
	50-59 歳	17.9	42.1	25.9	10.7	3.3	100.0
	60-69 歳	19.7	45.8	22.9	10.0	1.6	100.0
	70 歳以上	18.2	46.5	26.7	7.8	0.8	100.0
	全年齢	18.3	41.2	27.3	11.1	2.1	100.0
女性	15-19 歳	6.1	20.9	27.0	37.4	8.7	100.0
	20-29 歳	3.4	33.2	24.7	32.9	5.8	100.0
	30-39 歳	3.7	29.8	28.3	31.4	6.8	100.0
	40-49 歳	5.1	30.7	33.4	24.6	6.1	100.0
	50-59 歳	6.5	36.8	30.6	21.5	4.6	100.0
	60-69 歳	6.0	39.0	31.3	20.4	3.3	100.0
	70 歳以上	9.3	31.0	33.3	21.7	4.7	100.0
	全年齢	5.6	33.0	30.2	25.7	5.4	100.0

次に、年齢差であるが、これは男性と女性では逆の傾向を示している。つまり、男性では、10代20代は、「安全だと感じない」という回答が比較的少ないのに対して、女性の場合は10代20代では「安全だと感じない」という回答が多い傾向にある（図1-10）。

図 1-10 男女年齢別、近隣での夜の一人歩きが「あまり＋全く安全だと感じない」割合



また、都市規模との関連を見てみよう。「とても安全だと感じる」と「やや安全だと感じる」を合わせた数値を見てみると、都市規模であまり差はないものの「安全だと感じる」割合は、人口100万人以上の市で最も高かった（表1-10②）。また、「安全だと感じる割合」が最も低いのは、人口5万人以上・10万人未満の市区町村であった。

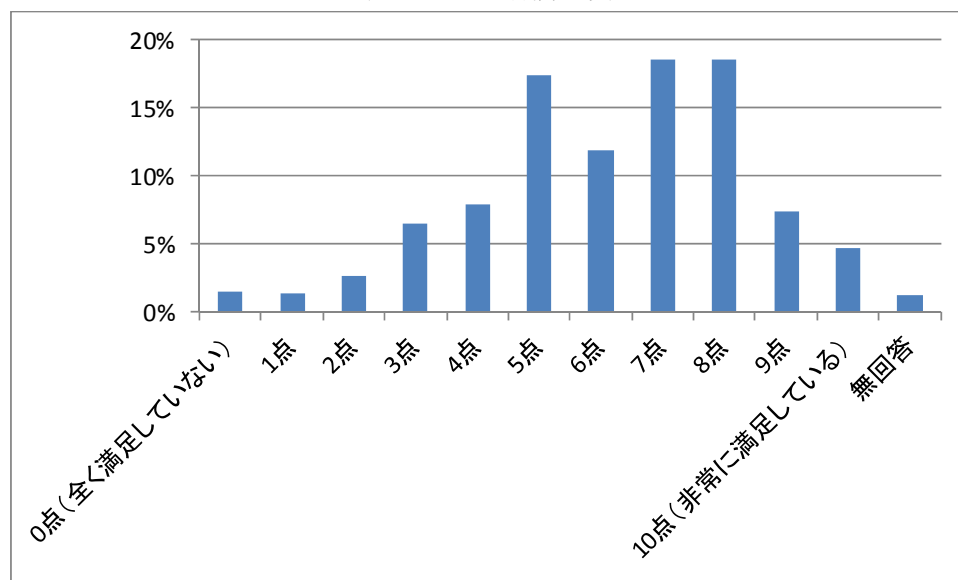
表 1-10② 都市規模別、近隣での夜の一人歩きの安全感 (%)

	とても安全だと感じる	やや安全だと感じる	どちらともいえない	あまり安全だと感じない	安全だと全く感じない	感じる	感じない
人口 100 万人以上の市	11.9	39.0	27.0	19.1	3.1	50.8	22.2
人口 20 万人以上・100 万人未満の市	9.8	36.7	30.7	19.7	3.1	46.5	22.8
人口 10 万人以上・20 万人未満の市	11.9	37.2	27.9	18.7	4.3	49.1	23.0
人口 5 万人以上・10 万人未満の市町村	10.0	35.2	30.9	19.2	4.7	45.2	23.9
人口 5 万人未満の市町村	14.2	35.7	26.9	18.2	5.0	49.9	23.2
全都市町村	11.4	36.8	28.9	19.1	3.9	48.2	23.0

⑪ 生活満足度

「あなたは全体として最近の生活にどの程度満足していますか」という問いに「全く満足していない」の 0 点から「非常に満足している」の 10 点までの尺度で答えてもらったところ、平均値は 6.18、標準偏差は 2.20 であった(図 1-11)。

図 1-11 生活満足度



男女年齢別に生活満足度の平均値を見たところ、どの年代でも女性の平均値が高い。それぞれ年齢別に見ると、男性では 20 代、30 代の、女性では 40 代の生活満足度が低い(表 1-11)。

表 1-11 男女年齢別、生活満足度

	男性			女性		
	平均値	標準偏差	回答者数	平均値	標準偏差	回答者数
15-19 歳	6.35	2.20	116	6.80	2.06	116
20-29 歳	5.60	2.37	221	6.15	2.30	293
30-39 歳	5.72	2.29	228	6.20	2.27	317
40-49 歳	5.98	2.15	282	6.10	2.28	409
50-59 歳	5.92	2.13	360	6.21	2.20	425
60-69 歳	6.15	2.02	368	6.44	2.05	364
70 歳以上	6.48	2.12	254	6.72	2.08	263
全年齢	6.02	2.18	1829	6.31	2.20	2187

⑫ 生活の局面別満足度

生活の各局面における満足度を 0 から 10 の尺度で聞いたところ、「家族生活」「住居」「子育て」に関する満足度の平均値が相対的に高かった(表 1-12①)。

男女別に傾向を見ると、16 の局面中 4 つの項目(「医療サービス」「将来の安全・安心感」「地域社会への帰属感」「生活における時間配分」)を除いて、女性の満足度の方が高く、特に「自分の学歴」「人間関係」「人生で達成しているもの」「仕事」に関しては、女性の方が 0.2 ポイント以上高く、満足度が高い傾向にある。

表 1-12① 生活の局面別満足度

	全体			男性			女性		
	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数
仕事	5.42	2.53	3227	5.31	2.52	1545	5.52	2.55	1682
住居	6.51	2.45	3991	6.43	2.33	1810	6.57	2.55	2181
生活水準(消費生活)	5.83	2.42	4005	5.74	2.35	1821	5.90	2.47	2184
人生で達成しているもの	5.31	2.26	3976	5.18	2.23	1820	5.41	2.29	2156
自分の学歴	5.33	2.42	3998	5.17	2.41	1824	5.46	2.42	2174
人間関係	6.18	2.14	4017	6.00	2.10	1832	6.32	2.17	2185
家族生活	6.83	2.24	3947	6.73	2.19	1792	6.90	2.29	2155
子育て	6.40	2.40	2515	6.29	2.40	1144	6.49	2.39	1371
子育て支援サービス	5.00	2.31	2067	4.97	2.33	974	5.02	2.29	1093
健康	5.94	2.34	3976	5.88	2.27	1815	5.99	2.41	2161
医療サービス	5.51	2.16	3150	5.58	2.09	1444	5.46	2.23	1706
看病、介護、身の回りの世話等の外部サポート体制	4.97	2.17	2177	4.91	2.12	1002	5.01	2.22	1175
地域社会への帰属感	4.98	2.00	3938	5.00	2.02	1803	4.96	1.98	2135
将来の安全・安心感	4.43	2.35	3992	4.45	2.34	1819	4.41	2.35	2173
好きなことを行う時間の長さ	5.30	2.56	4009	5.28	2.50	1825	5.32	2.61	2184
生活における時間配分	5.26	2.36	4002	5.28	2.29	1825	5.25	2.42	2177

生活の局面別満足度と現在の幸福感の相関を見ると（表 1-12②）、どの項目も 0.3 以上の相関がみられた。相関が最も高いものは「家族生活」の満足度で、次いで「生活水準（消費生活）」、次いで「人生で達成しているもの」と続く。幸福感を判断する際に重視した事項として「健康状態」は最も多くの回答者が選択していたが、「健康」の満足度と現在の幸福感の相関は、その他の項目に比べれば高くない。

表 1-12② 局面別生活満足度と現在の幸福感の相関係数

	現在の幸福感との相関係数
家族生活	.616**
生活水準（消費生活）	.564**
人生で達成しているもの	.557**
人間関係	.527**
子育て	.512**
将来の安全・安心感	.496**
健康	.467**
仕事	.457**
住居	.442**
医療サービス	.405**
生活における時間配分	.392**
子育て支援サービス	.379**
自分の学歴	.374**
地域社会への帰属感	.371**
看病、介護、身の回りの世話等の外部サポート体制	.364**
好きなことを行う時間の長さ	.342**

** 1%水準

⑬ ライフイベントの有無

家族構成の変化や就職や病気などの出来事（ライフイベント）は、幸福感に影響を与えることが知られている。今回調査（25 年度調査）では、新規の設問として、各人が前回調査から今回調査までの 1 年間にどのようなライフイベントを経験したかを聞いた。

以下では、世帯付属票、個人票ごとに、これらライフイベントの状態について記述する。

まず世帯付属票に関して述べる。この 1 年間（平成 25 年 2 月から平成 26 年 1 月）に世帯構成に変化があったかどうかを聞いたところ、変化があったのは 1932 世帯中の 275 世帯（14.2%）であった。変化の内容をより詳細に聞いたところ（表 1-13①）、最も多かったのは「世帯員の転出」であり、世帯構成員の変化があった約半数（49.1%）がこれに該当した。その他の項目である「転入」「誕生」「死亡」に関しては 15～17%程度であった。世帯構成に変化がありながらも、世帯員の数に変化がない世帯も約 15%あった。しかし、これら一連の質問項目は、無回答の比率が高く、読み取りには注意が必要である。

表 1-13① 世帯付属票で「世帯構成に変化あり」と回答した 275 世帯中の具体的な内容

	該当する(%)	該当しない(%)	無回答(%)
世帯員が転入した	16.4	51.6	32.0
世帯員が誕生した	17.8	47.3	34.9
世帯員が転出した	49.1	28.7	22.2
世帯員が死亡した	15.6	50.9	33.5
世帯員の数に変化はなかった	15.6	41.8	42.5

また、世帯付属票におけるライフイベントの選択状況を見ると（表 1-13②）、最も多く経験されたライフイベントは「世帯の収入や資産が 1 割以上減少した」の 18.5%であった。その他、世帯の 1 割以上が経験しているのは「学校等に入学した世帯員がいる」（12.3%）、「新たに仕事についた世帯員がいる」（11.3%）、「職場または仕事を変えた世帯員がいる」（10.9%）であった。

表 1-13② 世帯付属票におけるライフイベントの選択状況、1932 世帯中の割合

	該当する(%)	該当しない(%)	無回答(%)
新たに仕事についた世帯員がいる	11.3	84.6	4.1
職場または仕事を変えた世帯員がいる	10.9	84.9	4.1
仕事をやめた（希望退職した、定年退職した）世帯員がいる	8.3	87.4	4.3
失業した（解雇された、退職勧告があった）世帯員がいる	3.1	92.3	4.6
倒産・破産した世帯員がいる	1.1	94.4	4.6
世帯の収入や資産が 1 割以上増加した	6.9	88.0	5.1
世帯の収入や資産が 1 割以上減少した	18.5	76.7	4.8
金銭的トラブルを経験した世帯員がいる （ローンやクレジット問題を含む）	3.4	92.0	4.6
学校等に入学した世帯員がいる	12.3	83.5	4.2
学校等を卒業した世帯員がいる	9.8	85.9	4.3
病気が治癒した、体調が良くなった世帯員がいる	6.0	89.3	4.7
手術や長期の療養が必要な重い病気にかかった、 介護が必要になった世帯員がいる	7.6	88.1	4.3
うつ状態など精神的な問題があった世帯員がいる	4.9	90.6	4.5
不登校や出社拒否になった世帯員がいる	1.6	93.8	4.6
事故や災害にあった世帯員がいる	3.7	91.7	4.6
その他の特別な出来事を経験した世帯員がいる	1.3	93.2	5.4

次に、個人票の設問である、この 1 年間におきた回答者自身の変化やライフイベントについて記述する。まず、回答者自身の変化として、最も多かったのは「あなた、もしくは配偶者の子どもと同居した」の 2.9%で、次いで 2.8%と僅差の「あなたの子どもが生まれた」が続いている（表 1-13③）。

表 1-13③ 個人票における、回答者自身の変化、回答者 4066 人中の割合

	該当 する(%)	該当 しない(%)	無回答(%)
あなたが結婚した（再婚を含む）	1.4	98.0	0.6
あなたの子どもが生まれた	2.8	96.6	0.6
あなた、もしくは配偶者の親と同居した	1.8	97.4	0.8
あなた、もしくは配偶者の子どもと同居した	2.9	96.3	0.8
あなたが離婚した	0.3	99.0	0.7
あなたの配偶者と死別した	1.2	98.2	0.7

個人票における回答者自身によるライフイベントの選択状況についても、世帯付属表で聞いた世帯員に起きたライフイベントと同様「収入や資産が 1 割以上減少した」が 13.7%と突出して多かった。次いで多かったのは「新たに仕事についた」の 7.2%である。収入・資産の増減や、就職・転職に関する質問項目において「該当する」が選択される傾向にある（表 1-13④）。

表 1-13④ 個人票における、回答者自身のライフイベントの選択状況、回答者 4066 人中の割合

	該当 する(%)	該当 しない(%)	無回答(%)
新たに仕事についた	7.2	92.0	0.8
職場または仕事を変えた	6.8	92.4	0.8
仕事をやめた（希望退職した、定年退職した）	5.4	93.8	0.8
失業した（解雇された、退職勧告があった）	1.5	97.6	0.9
倒産・破産した	0.7	98.3	1.0
収入や資産が 1 割以上増加した	6.9	87.8	5.4
収入や資産が 1 割以上減少した	13.7	81.5	4.8
金銭的トラブルがあった（ローンやクレジット問題を含む）	2.4	96.4	1.2
学校等に入学した	3.8	95.2	1.1
学校等を卒業した	3.1	95.7	1.2
病気が治癒した、体調が良くなった	4.7	94.2	1.1
手術や長期の療養が必要な重い病気にかかった、 介護が必要になった	3.1	95.7	1.1
うつ状態など精神的に問題があった	3.9	95.0	1.1
不登校や出社拒否になった	1.0	97.9	1.1
事故や災害にあった	2.7	96.2	1.1
その他の特別な出来事があった	3.3	94.5	2.2

この 1 年間に回答者自身に起きた変化の有無によって、現在の幸福感がどれくらい違うかを検証した。表 1-13⑤に示すように、該当者の方が非該当者よりも幸福感が高かったのは「あなたが結婚した」と「あなたの子どもが生まれた」であった。特に、「あなたの子どもが生まれた」は該当者の平均値は 7.56、非該当者の平均値は 6.65 であり、約 0.9 ポイントという大きな差があり、子どもが誕生した人の現在の幸福感はきわめて高いと言える。他方、「あなたの配偶者と死別した」も、該当者と非該当者で約 0.9 ポイント差があり、配偶者を亡くすことの現在の幸福感への影響は極めて大きいと言える。

表 1-13⑤ 個人票における回答者自身の変化の有無別、現在の幸福感

	該当する			該当しない			平均値の 差(1)－(2)
	平均値(1)	回答者数	標準偏差	平均値(2)	回答者数	標準偏差	
あなたが結婚した(再婚を含む)	6.76	54	2.06	6.68	3979	1.95	0.08
あなたの子どもが生まれた	7.56	112	2.13	6.65	3921	1.94	0.91
あなた、もしくは配偶者の親と同居した	6.60	73	2.09	6.68	3955	1.95	－0.08
あなた、もしくは配偶者の子どもと同居した	6.65	118	2.01	6.68	3910	1.95	－0.03
あなたが離婚した	6.54	13	2.22	6.68	4017	1.95	－0.14
あなたの配偶者と死別した	5.83	48	2.55	6.69	3984	1.95	－0.86

この 1 年間に回答者自身が経験したライフイベントに着目すると(表 1-13⑥)、総じて該当者の方が非該当者よりも、現在の幸福感の平均値は低い。最も差が大きかったのが、「失業した(解雇された、退職勧告があった)」であり該当者の幸福感は 5.35(非該当者は 6.7 で、両者の差は約 1.4)であった。他にも、1 ポイント以上の差があったのは、「不登校や出社拒否になった」「倒産・破産した」「金銭的トラブルがあった(ローンやクレジット問題を含む)」の 3 項目であった。

逆に、該当者の方が非該当者よりも現在の幸福感の平均値が高かったのは 2 項目だけであり、一つは「病気が治癒した、体調が良くなった」、もう一つは「収入や資産が 1 割以上増加した」である。表から、収入・資産の増減に関しては、収入・資産の増加した人の幸福感が高いというよりも、収入・資産の減少した人の幸福感が低い傾向にあることがわかる。

表 1-13⑥ 個人票におけるライフイベントの経験の有無別、現在の幸福感

	該当する			該当しない			平均値の 差(1)-(2)
	平均値 (1)	回答者 数	標準 偏差	平均値 (2)	回答 者数	標準 偏差	
新たに仕事についた	6.35	294	2.09	6.71	3733	1.94	-0.36
職場または仕事を変えた	6.34	276	1.94	6.71	3751	1.95	-0.37
仕事をやめた（希望退職した、 定年退職した）	6.36	219	2.00	6.70	3806	1.95	-0.34
失業した（解雇された、退職勧告 があった）	5.35	63	2.02	6.70	3960	1.94	-1.36
倒産・破産した	5.60	30	2.25	6.69	3988	1.95	-1.09
収入や資産が1割以上増加した	6.81	278	1.91	6.69	3561	1.96	0.12
収入や資産が1割以上減少した	6.28	553	2.09	6.76	3308	1.92	-0.48
金銭的トラブルがあった（ロー ンやクレジット問題を含む）	5.44	96	2.08	6.71	3912	1.94	-1.27
学校等に入学した	6.57	152	2.09	6.68	3862	1.95	-0.11
学校等を卒業した	6.23	126	2.20	6.70	3883	1.95	-0.46
病気が治癒した、体調が良くなった	6.86	191	2.04	6.67	3824	1.95	0.19
手術や長期の療養が必要な重い病 気にかかった、介護が必要になった	6.03	126	2.14	6.70	3887	1.94	-0.67
うつ状態など精神的に問題があ った	6.06	109	2.37	6.70	3905	1.94	-0.63
不登校や出社拒否になった	5.61	41	2.44	6.69	3972	1.95	-1.08
事故や災害にあった	6.06	109	2.37	6.70	3905	1.94	-0.63
その他の特別な出来事があった	6.67	136	2.07	6.68	3833	1.95	-0.02

(2) 収入、住居との関係

① 本人収入

回答者自身の年間収入（税・社会保険料込み）別に現在の幸福感及び生活満足度の平均値を計算したところ、以下のような結果となった（表 2-1①、表 2-1②）。年間収入が「全くない（0 円）」回答者の中には学生や専業主婦も含まれると考えられることから、調査の直近一週間に少しでも仕事をしていた回答者だけに限って計算を行った結果も併せて掲載した。年間収入が「全くない（0 円）」回答者については、仕事の有無によってかなり傾向が異なることが分かる。仕事をしていない回答者に限って見ると、回答者自身の収入が増えるほど現在の幸福感も生活満足度も高い傾向にある。また、回答のばらつきも収入が上がるにつれ少なくなるようである。

表 2-1① 回答者の収入別、現在の幸福感

	全回答者			仕事をしていない回答者		
	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数
全くない（0 円）	6.66	2.14	498	6.83	1.79	24
1 円以上 100 万円未満	6.63	1.99	893	6.61	1.94	556
100 万円以上 200 万円未満	6.42	2.03	706	6.38	2.07	493
200 万円以上 300 万円未満	6.57	1.92	612	6.49	1.92	444
300 万円以上 400 万円未満	6.56	1.79	418	6.54	1.76	346
400 万円以上 500 万円未満	6.97	1.91	274	6.93	1.94	249
500 万円以上 600 万円未満	7.35	1.64	182	7.36	1.68	163
600 万円以上 700 万円未満	7.13	1.75	141	7.15	1.75	133
700 万円以上 800 万円未満	6.90	1.63	93	6.92	1.62	83
800 万円以上 900 万円未満	6.93	1.91	58	6.93	1.93	57
900 万円以上 1000 万円未満	7.43	1.54	37	7.51	1.46	35
1000 万円以上 1500 万円未満	7.30	1.58	53	7.29	1.59	52
1500 万円以上	7.41	1.74	22	7.17	1.65	18
無回答	6.34	1.98	71	6.18	1.93	34
総数	6.68	1.95	4,058	6.68	1.91	2687

表 2-1② 回答者の収入別、生活満足度

	全回答者			仕事をしていない回答者		
	平均値	標準偏差	回答数	平均値	標準偏差	回答数
全くない（0 円）	6.22	2.37	495	5.67	2.26	24
1 円以上 100 万円未満	6.21	2.21	881	6.16	2.22	548
100 万円以上 200 万円未満	5.85	2.31	705	5.76	2.32	491
200 万円以上 300 万円未満	6.10	2.19	603	5.95	2.22	434
300 万円以上 400 万円未満	5.86	2.04	416	5.80	1.99	344
400 万円以上 500 万円未満	6.56	2.00	268	6.47	2.01	243
500 万円以上 600 万円未満	6.69	1.96	179	6.71	1.96	161
600 万円以上 700 万円未満	6.51	1.91	141	6.50	1.94	133
700 万円以上 800 万円未満	6.36	2.10	91	6.40	2.04	81
800 万円以上 900 万円未満	6.39	2.18	57	6.38	2.20	56
900 万円以上 1000 万円未満	6.83	2.18	36	7.00	1.89	34
1000 万円以上 1500 万円未満	6.85	1.83	53	6.83	1.84	52
1500 万円以上	7.50	1.47	22	7.50	1.42	18
無回答	6.07	2.14	69	5.75	1.87	32
総数	6.18	2.20	4,016	6.12	2.16	2651

② 世帯収入

世帯付属表の記入者によって報告された世帯全体の年間収入（税・社会保険料込み）と世帯構成員の現在の幸福感及び生活満足度との関係を見ると、世帯収入が高い世帯にいる回答者ほど、現在の幸福感も生活満足度も高い（表 2-2①、表 2-2②）。世帯収入が「全くない（0 円）」と答えた世帯数が少ないため、以下ではこれらの世帯と「1 円以上 100 万円未満」の世帯を合わせて平均値を計算している。たとえば世帯収入が「100 万円未満」の世帯と「1500 万円以上」の世帯を比較すると、両指標とも 2 ポイント以上の差が存在する。また、世帯収入が少ないほど、これら指標の標準偏差が大きいことから、回答にばらつきが増えることが分かる。このばらつきを世帯内のばらつきと世帯間のばらつきに分けて見ると、現在の幸福感も生活満足度も世帯収入が低いほど世帯間のばらつきが大きい傾向にあり、世帯内のばらつきに関しては世帯収入との間に明確な関係が存在しない（表には非掲載）。なお、ばらつきの計算の際には、世帯構成員全員が回答したサンプルに限定して分析を行った。

表 2-2① 世帯収入別、現在の幸福感

	平均値	標準偏差	回答者数
100 万円未満	5.47	2.27	81
100 万円以上 200 万円未満	5.96	2.23	214
200 万円以上 300 万円未満	6.29	1.93	350
300 万円以上 400 万円未満	6.35	1.95	534
400 万円以上 500 万円未満	6.51	1.92	446
500 万円以上 600 万円未満	6.71	1.95	510
600 万円以上 700 万円未満	6.92	1.84	393
700 万円以上 800 万円未満	7.06	1.84	355
800 万円以上 900 万円未満	6.86	1.82	295
900 万円以上 1000 万円未満	6.91	1.78	268
1000 万円以上 1500 万円未満	7.17	1.92	419
1500 万円以上	7.50	1.58	123
無回答	6.33	1.92	70
全体	6.68	1.95	4058

表 2-2② 世帯収入別、生活満足度

	平均値	標準偏差	回答者数
100 万円未満	5.04	2.54	78
100 万円以上 200 万円未満	5.35	2.57	211
200 万円以上 300 万円未満	5.72	2.14	350
300 万円以上 400 万円未満	5.81	2.19	527
400 万円以上 500 万円未満	6.13	2.23	439
500 万円以上 600 万円未満	6.19	2.19	506
600 万円以上 700 万円未満	6.23	1.99	391
700 万円以上 800 万円未満	6.47	2.28	349
800 万円以上 900 万円未満	6.39	1.99	293
900 万円以上 1000 万円未満	6.44	1.99	266
1000 万円以上 1500 万円未満	6.81	2.08	414
1500 万円以上	7.24	1.69	123
無回答	5.80	2.10	69
全体	6.18	2.20	4016

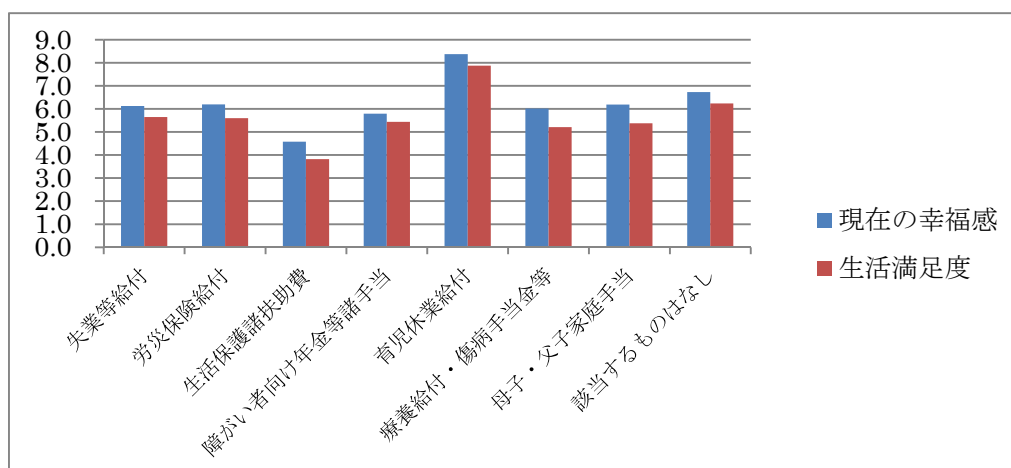
③ 社会保障給付

回答者個人が社会保障給付を受けているかどうかを複数回答で聞いたところ、いずれも受けていないと回答した人の割合が 86.0%であった（表 2-3）。しかし、どの選択肢も選択していない回答者がいることから、どの社会保障給付も受けていない回答者の割合はこれより高いと考えられる（前回調査における回答者の割合は 92.2%、今回調査のそれは 86.0%）。また、回答者個人の収入あるいは世帯収入から判断して、記入ミスと考えられる回答も存在したが、そのまま計上している。受けている社会保障給付別に現在の幸福感及び生活満足度を見ると、育児休業給付を受けている回答者は現在の幸福感も生活満足度も高い一方、生活保護諸扶助費を受けている回答者は特に生活満足度が低い（図 2-3）。

表 2-3 受けている社会保障給付

	今回調査 (25 年度調査) 回答者数 (割合：%)	前回調査 (24 年度調査) 回答者数 (割合：%)
総数	4066 (100%)	7717 (100%)
失業等給付	76 (1.9%)	186 (2.4%)
労災保険給付	62 (1.5%)	180 (2.3%)
生活保護諸扶助費	17 (0.4%)	40 (0.5%)
障害者向け年金等諸手当	56 (1.4%)	131 (1.7%)
育児休業給付	20 (0.5%)	32 (0.4%)
療養給付・傷病手当金等	31 (0.8%)	69 (0.9%)
児童扶養手当（ひとり親家庭対象 (*24 年度調査では母子・父子家庭手当)	50 (1.2%)	70 (0.9%)
いずれも該当なし	3495 (86.0%)	6404 (83.0%)
回答計	3763 (92.5%)	7112 (92.2%)

図 2-3 社会保障給付と現在の幸福感及び生活満足度



④ 生活費のやりくりの困難さ

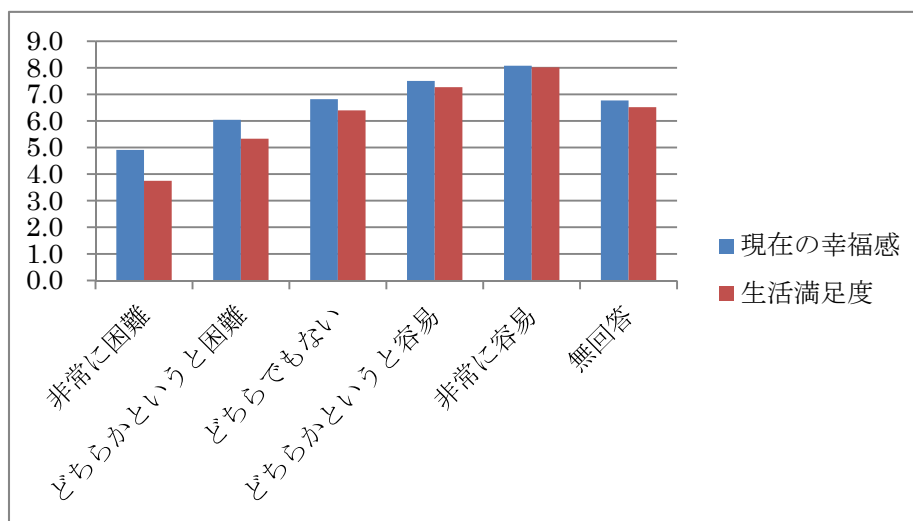
家族全員の総収入について考えたとき、必要不可欠な生活費をやりくりすることは毎月どの程度容易、または困難か聞いたところ、40 パーセント近くの回答者が「どちらでもない」と回答した一方、「非常に困難」との回答も 8 パーセント近くに上った（表 2-4）。「非常に困難」及び「どちらかという困難」の回答を合わせると、約 32 パーセントの回答者が生活費のやりくり困っている。

表 2-4 生活費のやりくりの困難さ

	今回調査 (25 年度調査) 回答者数 (%)	前回調査 (24 年度調査) 回答者数 (%)
非常に困難	286 (7.0%)	586 (7.6%)
どちらかという困難	1045 (25.7%)	1944 (25.2%)
どちらでもない	1632 (40.1%)	3015 (39.1%)
どちらかという容易	862 (21.2%)	1653 (21.4%)
非常に容易	218 (5.4%)	381 (4.9%)
無回答	23 (0.6%)	138 (1.8%)
総数	4066 (100.0%)	7717 (100.0%)

また、生活費のやりくりが大変であるほど生活満足度も現在の幸福感も低いという結果になった（図 2-4）。

図 2-4 生活費のやりくりの困難さと現在の幸福感及び生活満足度



⑤ 住居費負担

住宅ローンまたは家賃、光熱費、住居のための保険、固定資産税といった住居にかかる総費用に関する負担についても聞いたところ、生活費に関する質問への回答と比較すると、家計にとって負担であるという回答が多い。「非常に困難」及び「どちらかというと困難」の回答を合わせると、半数以上の回答者が住居に関する費用に関して負担に感じている（表 2-5①）。

表 2-5① 住居費負担

	今回調査 (25 年度調査) 回答者数(%)	前回調査 (24 年度調査) 回答者数(%)
非常に困難	706 (17.4%)	1445 (18.7%)
どちらかというと困難	1554 (38.2%)	2979 (38.6%)
どちらでもない	1214 (29.9%)	2248 (29.1%)
どちらかというと容易	411(10.1%)	664 (8.6%)
非常に容易	150(3.7%)	276 (3.6%)
無回答	31(0.8%)	105 (1.4%)
総数	4066(100.0%)	7717 (100.0%)

また、住居のタイプ別に住宅費の負担を見たところ、持家に住んでいる回答者の 54.3% が住居にかかる総費用の負担が「非常に困難」あるいは「どちらかというと困難」と回答しているのに対し、借家に住んでいる回答者は 65. 2%が困難であると感じているという結果になった（表 2-5②）。

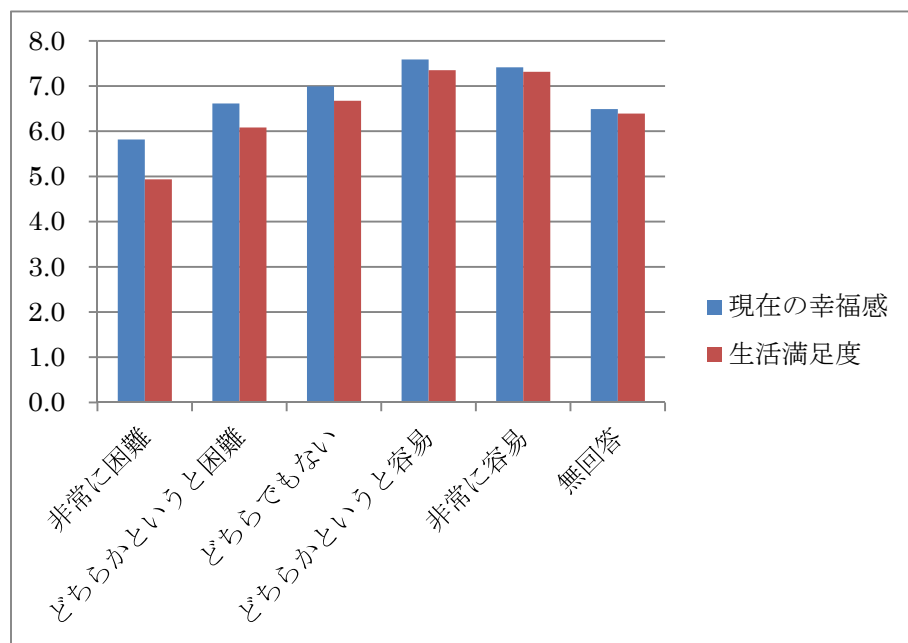
表 2-5②住居のタイプ別に見た住居費負担感

	持家世帯		借家世帯	
	回答者数	構成比(%)	回答者数	構成比(%)
非常に困難	550	16.3	146	24.1
どちらかというと困難	1282	38.0	249	41.1
どちらでもない	1030	30.5	158	26.1
どちらかというと容易	359	10.6	32	5.3
非常に容易	132	3.9	14	2.3
無回答	23	0.7	7	1.1
総数	3376	100.0	606	100.0

注：住居のタイプは世帯付属表に世帯主が記入した回答による。「持家世帯」とは「持家（一戸建て）」「持家（集合住宅）」を指し、「借家」とは「民間の借家（一戸建て）」「民間の借家（集合住宅）」、及び「公営の借家（UR、住宅供給公社、県営住宅等）」を指している。

住居費の負担の困難さと現在の幸福感及び生活満足度を見ると、住居にかかる費用の負担が「非常に困難」であると回答した回答者の生活満足度は他のグループに比べて特に低い（図 2-5）。

図 2-5 住居費負担感と現在の幸福感及び生活満足度



⑥ 近隣の環境

回答者が住んでいる周りの環境について質問したところ、以下のような結果となった（表 2-6）。一番不満が多いのは、「街頭でのゴミや廃棄物」であり、約 23 パーセントの回答者が「非常に不満」あるいは「どちらかといえば不満」と回答している（前回調査では約 21%）。一方、「騒音」や「公園や緑地」へのアクセスに関しては約 26 パーセント近くの回答者が「全く不満はない」と回答している。

表 2-6 近隣の環境（回答者比率（同 24 年度調査時比率：％））

	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答
騒音	3.8(4.5)	14.8(12.6)	22.6(27.3)	32.5(25.9)	25.5(28.6)	0.8(1.1)
大気汚染	3.2(4.2)	12.8(12.2)	29.8(31.7)	31.5(27.1)	21.5(23.6)	1.2(1.3)
公園や緑地が近くにない	4.4(4.2)	11.1(10.9)	24.6(27.7)	32.1(28.0)	26.9(27.7)	0.9(1.5)
水質	2.6(2.4)	9.2(8.6)	31.1(33.6)	33.0(29.5)	22.8(24.3)	1.3(1.7)
犯罪、暴力、破壊行為	2.2(2.6)	10.2(8.5)	31.8(33.1)	36.0(31.1)	19.0(22.9)	1.0(1.8)
街頭でのゴミや廃棄物	4.9(5.3)	18.5(15.7)	30.4(32.2)	32.7(28.4)	12.7(17.1)	0.8(1.2)

⑦ 経済的理由で行うことができないと感じること（物質的剥奪）

回答者の家庭で経済的理由によって行うことができない項目について聞いたところ、最も「できないと感じる」という回答が多かったのは、「予期せず、急に必要になった 5 万円の料金を支払うこと」であり、全体の 47.8%の回答者が「感じる」と答えている（表 2-7①）。表には掲載していないものの、「できないと感じる」という回答は 40 代で最も多く、40 代の回答者のうち 51%（354 人）が「予期せず、急に必要になった 5 万円の料金を支払う」ことができないと感じている。次に「できないと感じる」という割合が多かったのは「年 1 回、1 泊以上の国内旅行または海外旅行をすること」であり、全体の 42.0%が経済的理由から年 1 回の旅行が困難であると感じており、40 代の場合 51%（352 人）がそう感じると答えている。

表 2-7① 物質的剥奪（回答者比率：％）

	感じる	感じない	無回答
年 1 回、1 泊以上の国内旅行または海外旅行をすること （親族などへの家の宿泊を除く）	42.0	57.3	0.8
お肉、お魚を一日おきに食べる（菜食主義の場合同等のもの）	11.1	87.9	0.9
予期せず、急に必要になった 5 万円の料金を支払うこと	47.8	51.2	1.0
友達や家族に最低月一回、食事か飲み物をご馳走すること	31.0	67.8	1.2
寒い時に十分な暖を取る	15.6	83.5	1.0
新しい衣類を買うこと	28.5	70.6	0.9
自家用車を所有すること	35.0	63.6	1.4

（備考）回答者数：4066 人（全ての問いに無回答であった回答者は 19 人）。

7 つの項目のいずれか一つでも経済的理由によってできないと回答した回答者は 2646 人おり、全体の 65%となった。経済的理由によってできない項目が全くない回答者と、一つでもある回答者の現在の幸福感と生活満足度を比較したところ、以下のような結果となった（表 2-7②）。経済的理由によってできない項目が一つもない回答者の現在の幸福感の平均値は 7.36、一つでも経済的理由によって行うことが困難に感じている回答者の現在の幸福感は 6.31 であり、その差は約 1 ポイントとなっている。

表 2-7② 物質的剥奪と現在の幸福感及び生活満足度

現在の幸福感			
	平均値	標準偏差	有効回答数
経済的理由で行うことができない項目がない	7.36	1.73	1419
経済的理由で行うことができない項目が一つでもある	6.31	1.97	2603
全体	6.68	1.95	3970
生活満足度			
経済的理由で行うことができない項目がない	7.02	1.86	1407
経済的理由で行うことができない項目が一つでもある	5.71	2.23	2574
全体	6.18	2.19	3929

（３）家族、社会との関係

① 続柄（世帯における地位）

世帯主から見た続柄別に現在の幸福感を見ると、世帯主本人や子どもの幸福感は相対的に低く、配偶者の幸福感は相対的に高い（図 3-1）。

しかしながら、表 3-1 に示すように、続柄には、回答者数にかなりのばらつきがあるため、続柄に基づく幸福感の読み取りには注意が必要である。例えば、最も回答者の多いのは「世帯主本人」（37.0%）であり、次いで「配偶者」（32.1%）、「子ども」（24.8%）であった（表 3-1）。これら三者を合わせると 9 割を超える。

図 3-1 続柄別の現在の幸福感

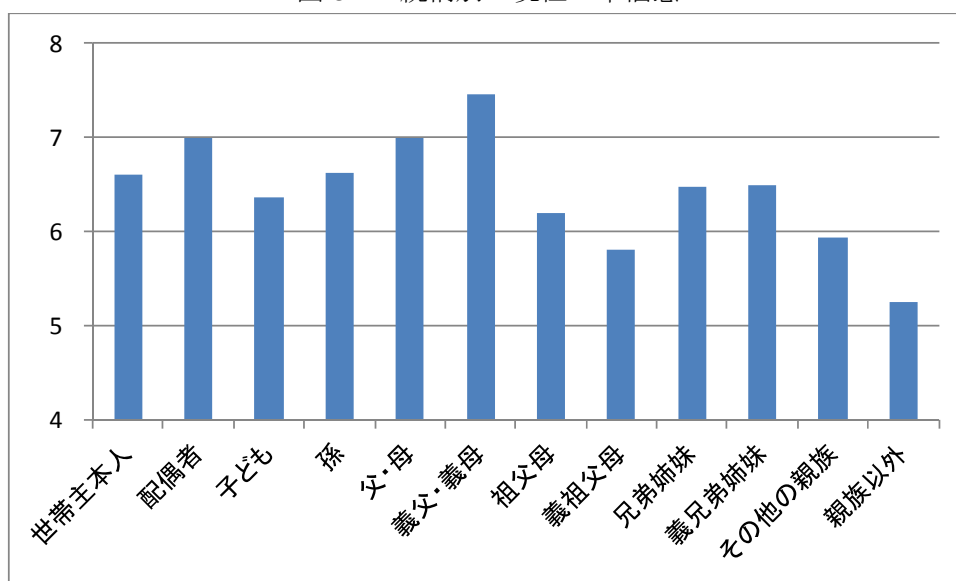


表 3-1 世帯主から見た続柄

	回答者数	構成比 (%)
世帯主本人	1506	37.0
配偶者	1307	32.1
子ども	1009	24.8
孫	47	1.2
父・母	106	2.6
義父・義母	28	0.7
祖父母	5	0.1
義祖父母	5	0.1
兄弟姉妹	19	0.5
義兄弟姉妹	4	0.1
その他の親族	16	0.4
親族以外	8	0.2
無回答	6	0.1
合計	4066	100.0

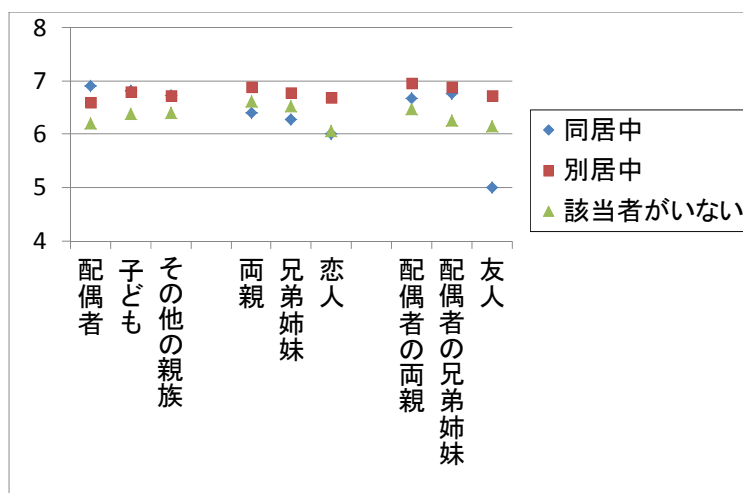
② 社会的接触頻度

以下の 9 類型の人々に関して、直接会う頻度を聞いたところ、配偶者に関しては「同居中」が 6 割を超え最も多い。別居しているのは約 5%と少数である。また回答者の約 3 割に「該当者がいない」。子どもに関しては、同居中が 5 割弱を占め、最も多い。別居しているのは約 2 割で、「該当者がいない」のは約 3 割である。自分の両親や配偶者の両親に関しては、別居の場合の接触頻度は「月一、二回」あるいは「年数回」がそれぞれ 1 割程度であった。兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹、その他の親族に関しては、「年数回」の頻度が最も多く約 3 割が該当する。友人に関しては、「月一、二回」と「年数回」をあわせると 5 割を超える。「恋人」は、配偶者のいない人（本設問で配偶者に関して「該当者がいない」を選択した人）のみを見たところ、「該当者がいない」が 74.0%と最も多く、次いで多いのは別居で「最低週一回」の頻度だった（表 3-2）。接触頻度別の幸福感は図 3-2 の通りである。

表 3-2 社会的接触頻度 (%)

	同居中	別居						不明で音信不在	該当者がいない	無回答
		毎日	2、3日に一回	最低週一回	月一、二回	年数回	それ以下			
配偶者	64.1	3.2	0.3	0.6	0.7	0.5	0.2	0.1	28.7	1.6
子ども	48.5	4.9	1.8	2.3	5.7	6.2	0.9	0.1	28.2	1.4
両親	25.8	5.6	3.3	5.4	13.5	11.9	3.4	0.2	28.6	2.3
配偶者の両親	6.7	2.1	1.4	2.7	10.4	16.4	6.4	0.2	50.6	3.2
兄弟姉妹	12.5	3.2	2.4	4.2	16.1	34.2	15.2	1.0	9.1	2.1
配偶者の兄弟姉妹	0.5	0.8	0.8	2.0	9.3	33.2	19.3	0.7	31.1	2.3
その他の親族	1.1	0.7	0.8	2.0	7.5	37.0	39.2	0.4	9.1	2.1
友人	0.2	8.6	7.5	10.4	26.8	27.3	11.6	0.3	5.5	1.7
恋人	0.3	1.1	1.2	2.8	2.0	0.5	0.8	0.1	86.7	4.5
恋人（配偶者に関して「該当者がいない」を選択した人のみ）	0.4	3.1	3.8	9.0	5.9	1.1	0.4	0.3	74.0	2.0

図 3-2 社会的接触頻度別の現在の幸福感



(備考) 「音信不明で所在不明」及び無回答を除き、算出。

恋人は「配偶者」に「該当者がいない」人のみ、算出。

③ 地域活動やボランティア活動の頻度

近年、地域活動といった人々との関わりやボランティア活動など利他的行動と幸福感との関連が言及されている。そこで地域活動やボランティア活動についてどれくらいの頻度で行っているかを「全くしない」から「よくする」までの4件法で聞いた。

近所の人との挨拶は「よくする」が半数を超えており、「たまにする」をあわせれば9割近くが行っている。地域の高齢者の声かけは、地域活動（防災訓練、町内活動等）への参加、地域行事への参加は、「たまにする」と「よくする」を合わせると3～4割程度である。ボランティア活動への参加については、「全くしない」が半数を超えている（表3-3①）。

表 3-3① 地域活動やボランティア活動の頻度（％）

	全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	無回答
近所の人との挨拶	2.4	8.8	35.1	53.2	0.5
地域の高齢者への声かけ	25.0	32.4	28.8	13.0	0.8
地域活動（防災訓練、町会活動等）への参加	37.3	28.1	22.3	11.4	0.8
地域行事への参加	35.4	28.8	24.3	10.8	0.7
ボランティア活動への参加	51.7	29.5	12.5	5.5	0.7

ある行動の活動頻度が高い人は別の行動の活動頻度も高いのだろうか。相関係数を算出してみたところ、地域活動（防災訓練、町会活動等）への参加と地域行事への参加は0.8以上の高い相関があることが明らかになった。また地域活動への参加とボランティア活動への参加も0.5と高い相関にあるといえる（表3-3②）。

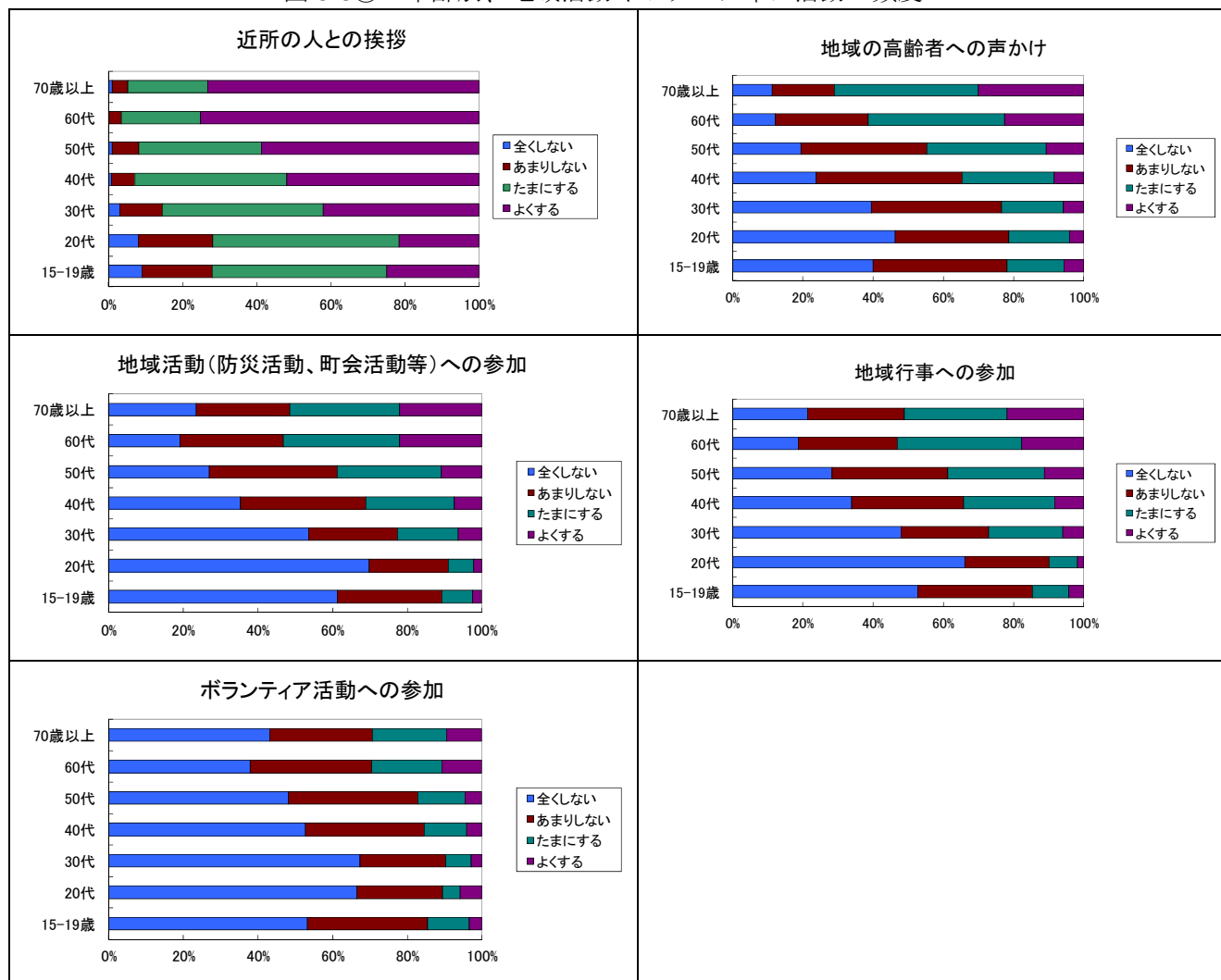
表 3-3② 地域活動やボランティア活動間の相関

	近所の人 との挨拶	地域の高齢者 への声かけ	地域活動（防災 訓練、町会活動 等）への参加	地域行事 への参加	ボランティア 活動への参加
近所の人との挨拶	1	.472**	.396**	.392**	.257**
地域の高齢者への声かけ		1	.518**	.502**	.439**
地域活動（防災訓練、町会活動等）への参加			1	.837**	.595**
地域行事への参加				1	.587**
ボランティア活動への参加					1

** 1%水準

年齢別に地域活動やボランティア活動の頻度を見たところ、図 3-3①のような結果となった。ボランティア活動への参加を除き、その他の活動では年齢が上がるほど活動頻度が高くなる傾向にある。特に 20 代の活動頻度は低い傾向にある。

図 3-3① 年齢別、地域活動やボランティア活動の頻度



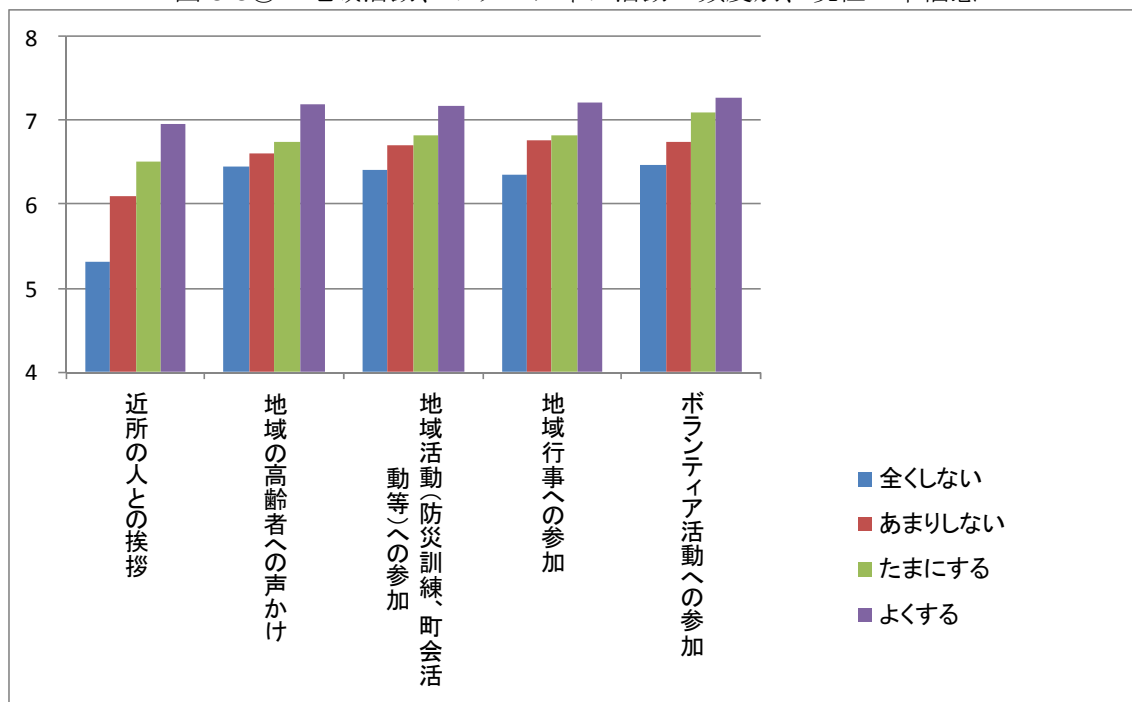
都市規模別に地域活動やボランティア活動の頻度を見たところ、表 3-3③のような結果となった。地域活動（防災訓練、町会活動等）への参加、地域行事への参加に関しては、都市規模との関連が見られる。例えば、地域活動（防災訓練、町会活動等）への参加を「全くしない」回答者の割合は、人口 100 万人以上の市では 47.0%であるのに対して、人口 5 万人未満の市町村では 28.9%と約 20 ポイントの差がある。

表 3-3③ 都市規模別、地域活動やボランティア活動の頻度

		全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	計
近所の人 との挨拶	人口 100 万人以上の市	2.7	9.4	34.0	53.9	100.0
	人口 10 万人以上・20 万人未満の市	2.9	7.6	34.6	54.9	100.0
	人口 20 万人以上・100 万人未満の市	2.2	10.0	37.1	50.7	100.0
	人口 5 万人以上・10 万人未満の市町村	2.1	7.9	37.9	52.1	100.0
	人口 5 万人未満の市町村	2.4	8.4	31.8	57.4	100.0
	全体	2.4	8.8	35.2	53.5	100.0
地域の 高齢者 への 声かけ	人口 100 万人以上の市	30.0	32.6	26.4	11.0	100.0
	人口 10 万人以上・20 万人未満の市	24.9	29.7	32.5	13.0	100.0
	人口 20 万人以上・100 万人未満の市	26.5	35.6	26.4	11.5	100.0
	人口 5 万人以上・10 万人未満の市町村	23.9	33.3	31.5	11.4	100.0
	人口 5 万人未満の市町村	20.1	30.4	30.4	19.1	100.0
	全体	25.2	32.7	29.0	13.1	100.0
地域活動 (防災訓練、 町会活動等) への参加	人口 100 万人以上の市	47.0	26.6	18.7	7.6	100.0
	人口 20 万人以上・100 万人未満の市	41.1	30.2	19.9	8.8	100.0
	人口 10 万人以上・20 万人未満の市	34.1	26.9	24.1	14.9	100.0
	人口 5 万人以上・10 万人未満の市町村	34.6	29.3	24.1	12.0	100.0
	人口 5 万人未満の市町村	28.9	27.5	27.7	15.9	100.0
	全体	37.6	28.3	22.5	11.5	100.0
地域行事 への参加	人口 100 万人以上の市	45.8	28.2	18.9	7.1	100.0
	人口 20 万人以上・100 万人未満の市	39.5	33.0	19.5	7.9	100.0
	人口 10 万人以上・20 万人未満の市	32.7	26.1	27.5	13.6	100.0
	人口 5 万人以上・10 万人未満の市町村	31.0	27.8	30.0	11.2	100.0
	人口 5 万人未満の市町村	26.1	26.5	30.7	16.7	100.0
	全体	35.6	28.9	24.5	10.9	100.0
ボラン ティア活動 への参加	人口 100 万人以上の市	58.0	27.6	9.2	5.2	100.0
	人口 20 万人以上・100 万人未満の市	53.6	30.3	11.2	5.0	100.0
	人口 10 万人以上・20 万人未満の市	50.8	28.3	14.6	6.3	100.0
	人口 5 万人以上・10 万人未満の市町村	52.5	28.8	14.1	4.6	100.0
	人口 5 万人未満の市町村	44.9	33.0	15.1	7.1	100.0
	全体	52.1	29.7	12.6	5.6	100.0

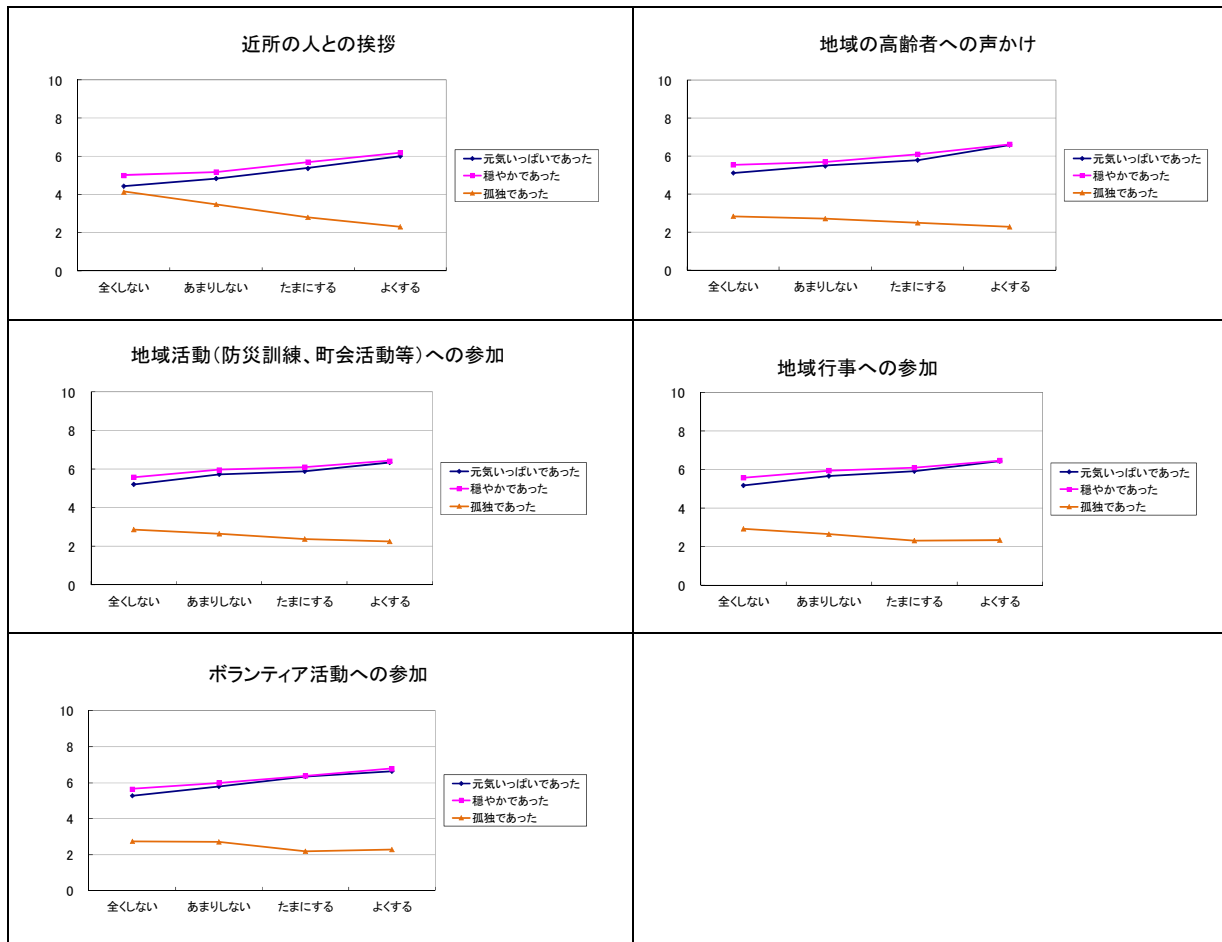
幸福感との関連はどうか。地域活動やボランティア活動の頻度別に現在の幸福感の平均値を見たところ、参加頻度が高くなるほど現在の幸福感の平均値は高い傾向にある。特に近所の人との挨拶を「全くしない」回答者の幸福感は極めて低い（図 3-3②）。

図 3-3② 地域活動、ボランティア活動の頻度別、現在の幸福感



また、地域活動やボランティア活動をしている人の心のありようはどのような状態なのだろうか。地域活動やボランティア活動の頻度別に過去一週間の気持ち（「全く感じなかった」は 0 点～「常に感じた」は 10 点とする）の平均値で見ると、どの活動においても、頻度が高い人では、「元気いっぱい」「穏やかであった」と感じていて、「孤独を感じる」傾向は低くなっている。なお、近所の人との挨拶を「全くしない」と答えた人では孤独を感じる程度が強いと言える（図 3-3③）。

図 3-3③ 地域活動やボランティア活動の頻度別、過去一週間の気持ち



④ 組織への信頼

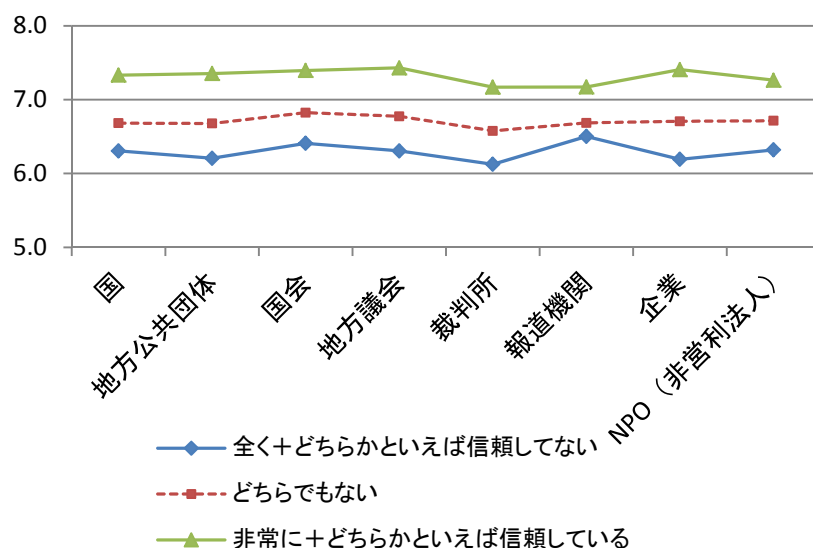
以下の8つの組織に対する信頼を聞いたところ、どの質問項目でも最も多かったのは「どちらでもない」であった。中でも、企業、NPO（特定非営利法人）に関しては半数以上が「どちらでもない」を選んでいる。「非常に信頼している」と「どちらかといえば信頼している」を合わせた肯定回答が2割を超えるのは、国、地方公共団体、裁判所である（表3-4）。

表3-4 組織への信頼の回答割合（％）

	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちらで もない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答
国	11.9	28.3	36.1	21.4	1.9	0.5
地方公共団体	8.1	24.3	43.1	22.1	1.5	0.9
国会	19.5	31.4	36.0	11.3	1.1	0.7
地方議会	12.2	27.9	44.6	13.2	1.1	1.0
裁判所	5.9	13.3	48.2	27.8	3.7	1.1
報道機関	12.9	27.2	44.4	13.7	0.8	1.0
企業	6.2	19.9	57.5	14.4	1.0	1.0
NPO（非営利法人）	8.4	19.7	56.9	12.7	1.3	1.0

現在の幸福感との関連はいずれも、信頼度が高い方が幸福感も高い。ただし報道機関については、その他の機関と比べ、信頼度が高くて低くても幸福感の高低の差が小さい（図3-4）。

図3-4 組織への信頼の程度別、現在の幸福感

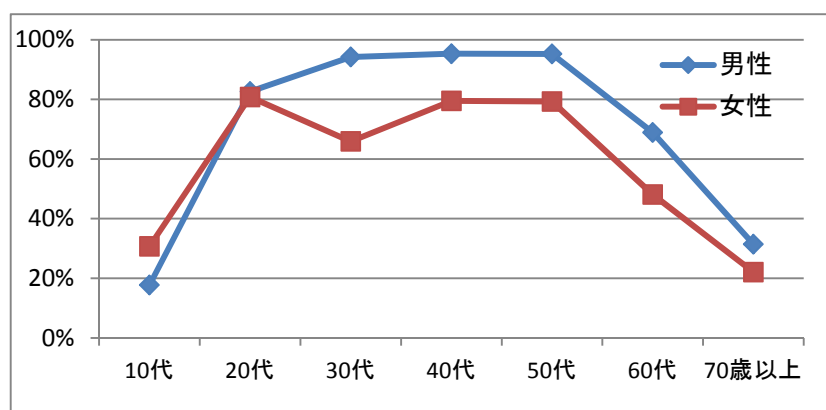


（４）雇用・仕事の質

① 就業の有無

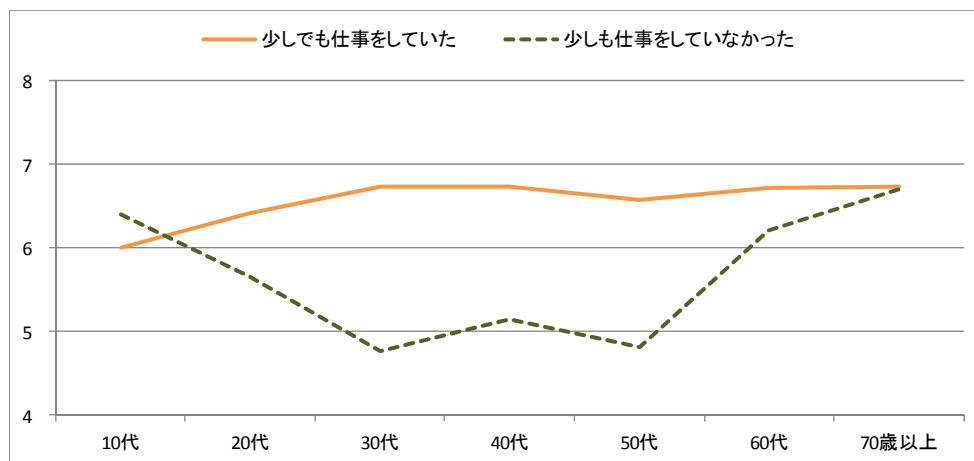
仕事の有無は幸福感や生活の質に大きな影響を及ぼすだろう。性別・年齢別に「少しでも仕事をしていた」と回答した人の割合を見ると、女性については、仕事をしていた人の割合が 30 代で低下する、いわゆる M 字型カーブが確認できる（図 4-1①）

図 4-1① 男女年齢別、「少しでも仕事をしていた」と回答した人の割合



現在の幸福感について、男女別・年齢別に見ると、男性で「少しも仕事をしなかった」と回答した人、なかでも 30 代と 50 代は著しく低いことが分かる⁸（図 4-1②）。

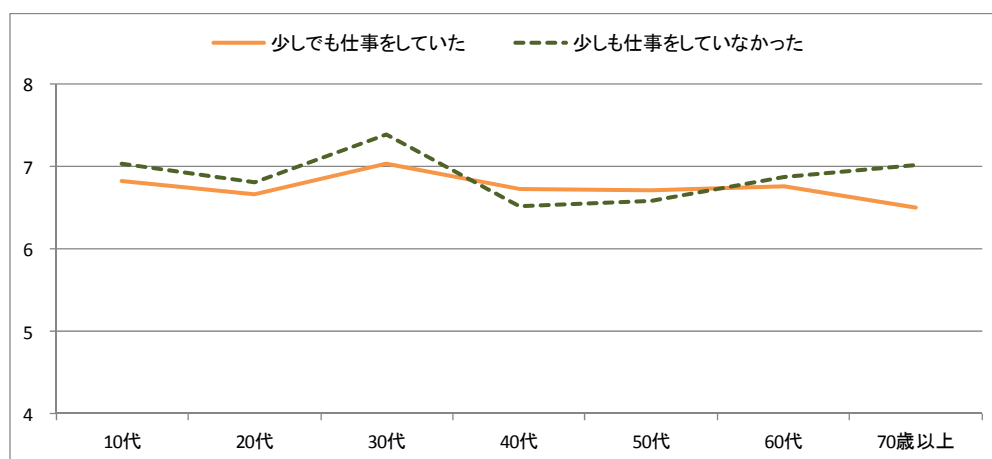
図 4-1② 男性、仕事の有無・年齢別、現在の幸福感



⁸ 全サンプルを用いて、仕事の有無別に現在の幸福感の平均値に統計的有意差があるか検証するために t 検定を行ったところ、有意差はなかった。

女性は、仕事をしていたか否かで男性ほど幸福感の違いがないが、総じて「少しでも仕事をしていなかった」人の幸福感が高く、40代、50代のみが「少しでも仕事をしていない人」の幸福感が高い（図4-1③）。

図4-1③ 女性、仕事の有無・年齢別、現在の幸福感



② 従業上の地位

「少しでも仕事をしていた」と回答した人の7割近くが男女ともに常用雇用であると回答している（表4-2①、表4-2②）。幸福感、年齢との関係を見ると、男女とも会社などの役員の幸福感は高く、女性は自営業の役員の幸福感も高い（表4-2③）。

表4-2① 回答者の従業上の地位（回答者数）

	男性	女性	合計
常用雇用	895	889	1784
臨時・日雇い	80	161	241
会社などの役員	112	45	157
自営業主	160	43	203
自営業主の手伝い	38	112	150
内職	5	34	39
合計	1290	1284	2574

表4-2② 回答者の従業上の地位（構成比）

	男性	女性	合計
常用雇用	69.4%	69.2%	69.3%
臨時・日雇い	6.2%	12.5%	9.4%
会社などの役員	8.7%	3.5%	6.1%
自営業主	12.4%	3.3%	7.9%
自営業主の手伝い	2.9%	8.7%	5.8%
内職	0.4%	2.6%	1.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

表 4-2③ 従業上の地位別の現在の幸福感、年齢

	男性		女性		全体	
	幸福感	年齢(歳)	幸福感	年齢(歳)	幸福感	年齢(歳)
常用雇用	6.7	45.5	6.7	42.5	6.7	44.0
臨時・日雇	5.8	44.5	6.7	42.4	6.4	43.1
会社などの役員	7.3	53.0	7.0	49.7	7.2	52.1
自営業主	6.7	56.3	6.7	57.3	6.7	56.5
自営業の手伝い	6.4	50.3	7.0	54.5	6.8	53.4
内職	6.8	68.2	6.1	55.2	6.2	56.9
全体	6.7	47.6	6.7	44.6	6.7	46.1

③ 正規・非正規の状況

雇用形態の違いがもたらす生活の質への影響を見るため、「常用雇用」または「臨時・日雇」と回答した人に、さらに勤め先での呼称を聞いたところ、正規の職員・従業員と回答した人は男性で 75.3%、女性で 36.5%と大差があった。なお、女性で最も多いのはパート 36.8%で、正規の職員・従業員とほぼ同じ割合だった（表 4-3①、表 4-3②）。

現在の幸福感、本人年収指数、世帯年収指数⁹の関係をみると、男女ともに嘱託と回答した人の幸福感が高い。それ以外では、男性の場合は正規の職員・従業員の幸福感、本人年収、世帯年収は高い¹⁰。女性の場合は、正規の職員・従業員とパートの幸福感が高い（表 4-3③）。

表 4-3① 正規・非正規の状況（回答者数）

	男性	女性	合計
正規の職員・従業員	722	377	1099
パート	32	380	412
アルバイト	95	148	243
派遣社員	14	20	34
契約社員	47	65	112
嘱託	37	23	60
その他	12	21	33
全体	959	1034	1993

⁹ 年収指数とは年収に関する選択肢を示している。つまり、0=全くない(0)円、1=1 円以上 100 万円未満、2=100 万円以上 200 万円未満、3=200 万円以上 300 万円未満、4=300 万円以上 400 万円未満、5=400 万円以上 500 万円未満、6=500 万円以上 600 万円未満、7=600 万円以上 700 万円未満、8=700 万円以上 800 万円未満、9=800 万円以上 900 万円未満、10=900 万円以上 1,000 万円未満、11=1,000 万円以上 1,500 万円未満、12=1,500 万円以上を指す。

¹⁰ 該当の勤め先の呼称と他の呼称の間で、現在の平均値に差が出るかを調べるために、ダミー変数を作成し t 検定を行ったところ、男性の場合は、正規の職員・従業員では 0.1%水準で有意、アルバイトは 1%水準で有意、契約社員も 1%水準で有意だった。なお、女性はこの呼称であっても、統計的有意差はなかった。

表 4-3② 正規・非正規別、構成比と年齢

	男性		女性		全体	
	構成比	年齢(歳)	構成比	年齢(歳)	構成比	年齢(歳)
正規の職員・従業員	75.3%	44.4	36.5%	40.4	55.1%	43.0
パート	3.3%	55.3	36.8%	49.2	20.7%	49.7
アルバイト	9.9%	38.5	14.3%	29.7	12.2%	33.1
派遣社員	1.5%	48.3	1.9%	40.7	1.7%	43.8
契約社員	4.9%	51.0	6.3%	40.2	5.6%	44.8
嘱託	3.9%	60.9	2.2%	51.0	3.0%	57.1
その他	1.3%	54.0	2.0%	41.0	1.7%	45.7
役員を除く雇用者合計	100.0%	45.3	100.0%	42.4	100.0%	43.8

表 4-3③ 男女別、正・非正規別の現在の幸福感、本人年収指数、世帯年収指数

	男性			女性		
	幸福感	本人年収	世帯年収	幸福感	本人年収	世帯年収
正規の職員・従業員	6.75	5.64	7.38	6.75	3.97	7.90
パート	6.25	2.25	5.20	6.75	1.51	6.28
アルバイト	6.09	1.90	6.66	6.63	1.34	6.79
派遣社員	5.71	3.00	4.71	6.35	2.50	6.20
契約社員	5.91	3.19	5.53	6.54	2.58	6.50
嘱託	6.89	3.67	6.25	7.09	2.09	6.48
その他	5.92	3.17	5.50	6.43	2.05	6.48
役員を除く雇用者合計	6.60	4.89	7.04	6.71	2.50	6.96

④ 仕事の質

「仕事の要求の強さ」や「自分で決めることができる範囲」、「キャリアアップ」など以下の表に示したような仕事の質にかかわる 10 の質問について、少しでも仕事をしていた人に聞いた。「そう思う」という回答が「そう思わない」という回答より明確に多かったのは「自分の仕事は要求が厳しく、ストレスが多い」「仕事の仕方については、自分で決めることができる範囲が大きい」である。

逆に「そう思わない」が明確に多かったのは「賃金は良い」「仕事は単調で退屈である」「将来のキャリアアップにつながる仕事である」「常に締め切りに追われている」「危険もしくは不健康な環境で働いている」である。「職場の人間関係にはストレスが多い」と「自己啓発や生活の時間が確保しやすい職場環境にある」は「そう思わない」と「そう思う」がほぼ同程度であった（表 4-4）。

表 4-4 仕事の質の状況 (%)

	全く そう 思わない	どちら かとい えば そう 思わ ない	ど ちら でも ない	ど ちら かとい えば そう 思 う	非 常 に そう 思 う	無 回 答	合 計	そう 思わ ない	そう 思 う
自分の仕事は要求が厳しく、 ストレスが多い	10.1	18.8	25.5	28.0	12.2	5.4	100.0	30.6	42.5
賃金は良い	17.8	22.5	32.8	17.9	3.2	5.8	100.0	42.8	22.4
仕事の仕方については、自分で 決めることができる範囲が大 きい	8.6	15.8	28.0	31.3	10.7	5.5	100.0	25.9	44.5
仕事は単調で退屈である	25.4	31.4	29.2	6.8	1.7	5.5	100.0	60.0	9.0
将来のキャリアアップにつな がる仕事である	19.4	18.0	33.0	18.4	5.7	5.6	100.0	39.5	25.4
常に締め切りに追われている	21.6	17.5	28.2	19.4	7.7	5.6	100.0	41.4	28.7
危険もしくは不健康な環境で 働いている	33.0	21.7	24.2	11.8	3.9	5.4	100.0	57.9	16.5
職場は、子育てや介護をしてい る人にとって仕事と両立しやす い環境が整っている方である	16.6	18.7	33.5	20.2	5.1	5.9	100.0	37.5	26.9
職場の人間関係にはストレス が多い	12.7	20.7	30.5	20.8	9.6	5.7	100.0	35.4	32.2
自己啓発や生活の時間が確保 しやすい職場環境にある	10.3	18.3	36.7	23.2	5.7	5.8	100.0	30.4	30.7

(備考)「そう思わない」「そう思う」の算出は、無回答を除いた回答を母数として算出した割合。

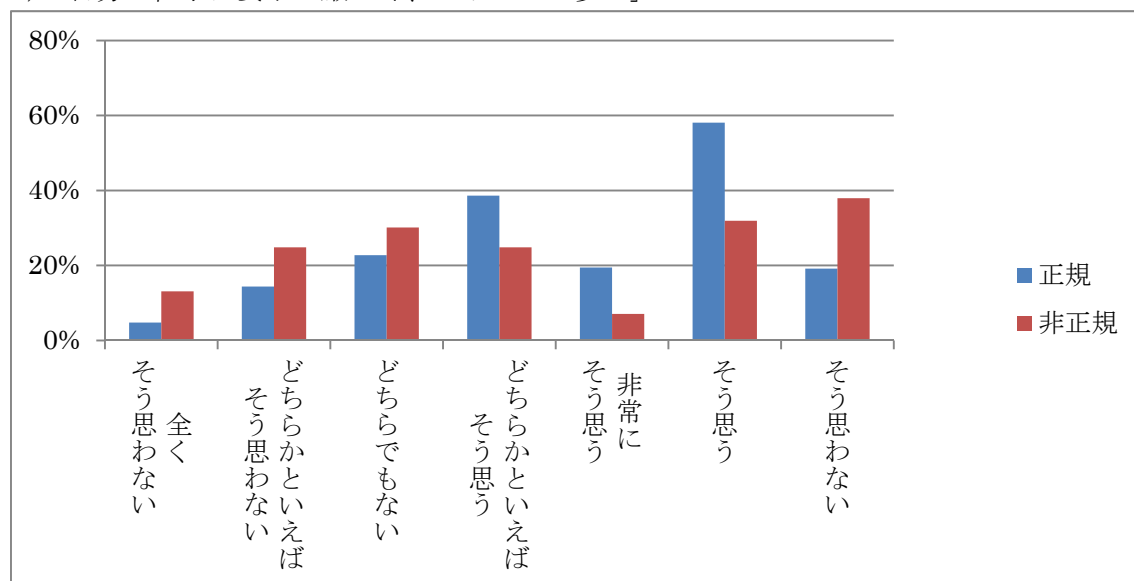
常用雇用、臨時・日雇と回答した人のうち、正規・非正規別に仕事の質をどのように考えているかをクロス集計した。正規の職員等の方が明確に質の高さを評価したのは「仕事の仕方については、自分で決めることができる範囲が大きい」「将来のキャリアアップにつながる仕事である」である。

非正規の職員等が質を高く評価したのは「自分の仕事は要求が厳しく、ストレスが多い(否定的項目であり「そう思わない」の回答者が質を高く評価している)」、「常に締め切りに追われている(否定的項目)」、「危険もしくは不健康な環境で働いている(否定的項目)」、「職場の人間関係にはストレスが多い(否定的項目)」、「自己啓発や生活の時間の確保がしやすい職場環境にある」である(図 4-4①)。

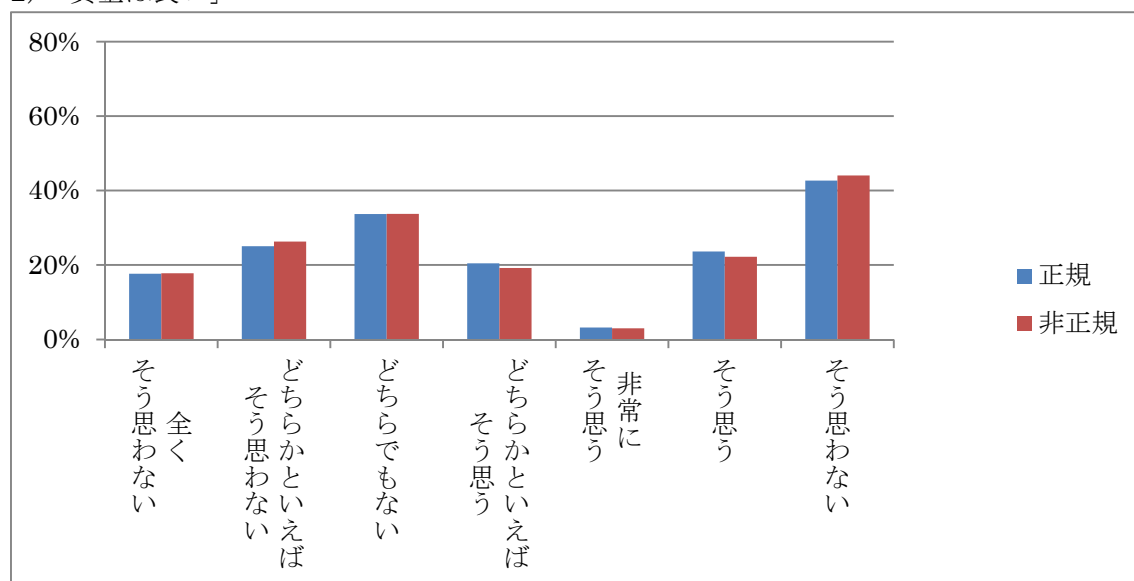
なお、本人の年収を見ると、明らかに正規の職員等の方が年収の高い回答者が多い(図 4-4②)。

図 4-4① 雇用の質

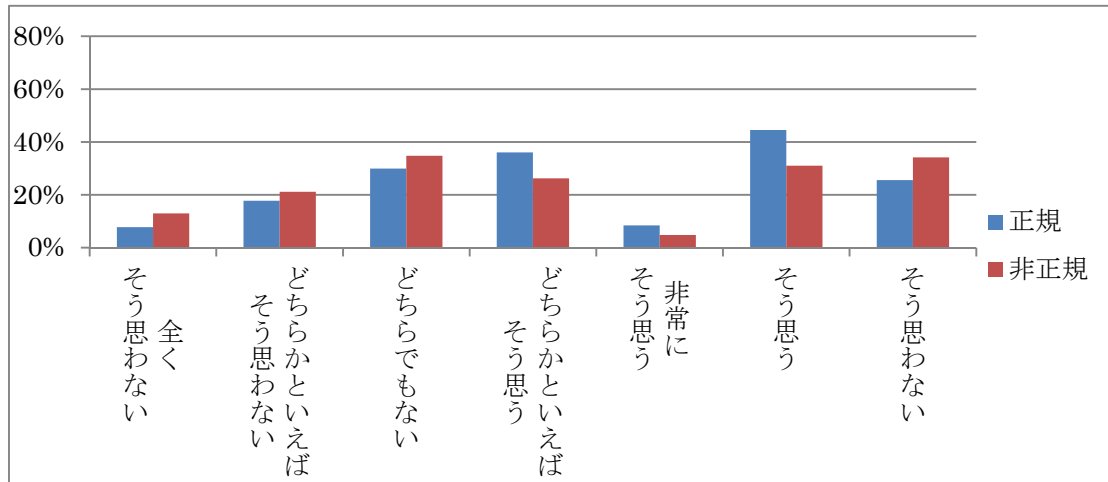
1) 「自分の仕事は要求が厳しく、ストレスが多い」



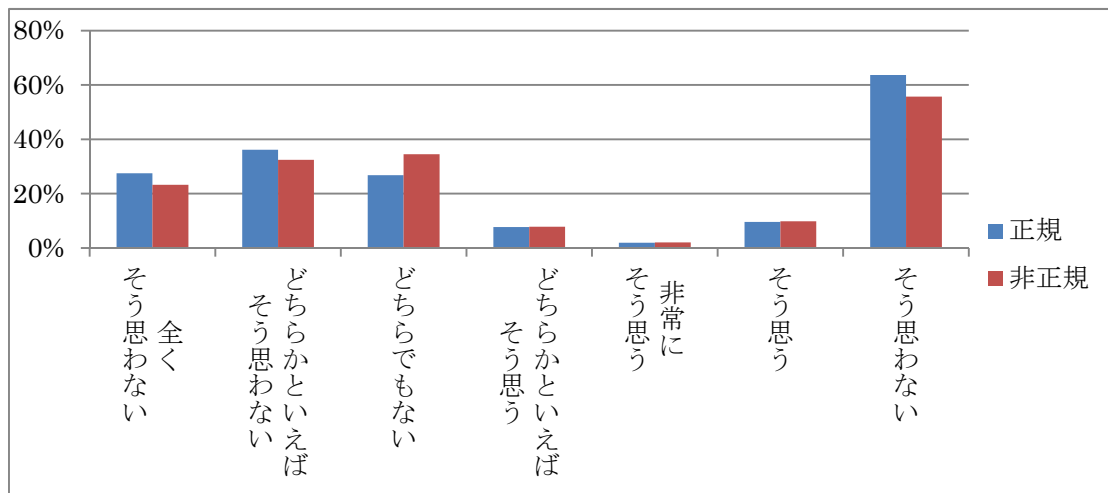
2) 「賃金は良い」



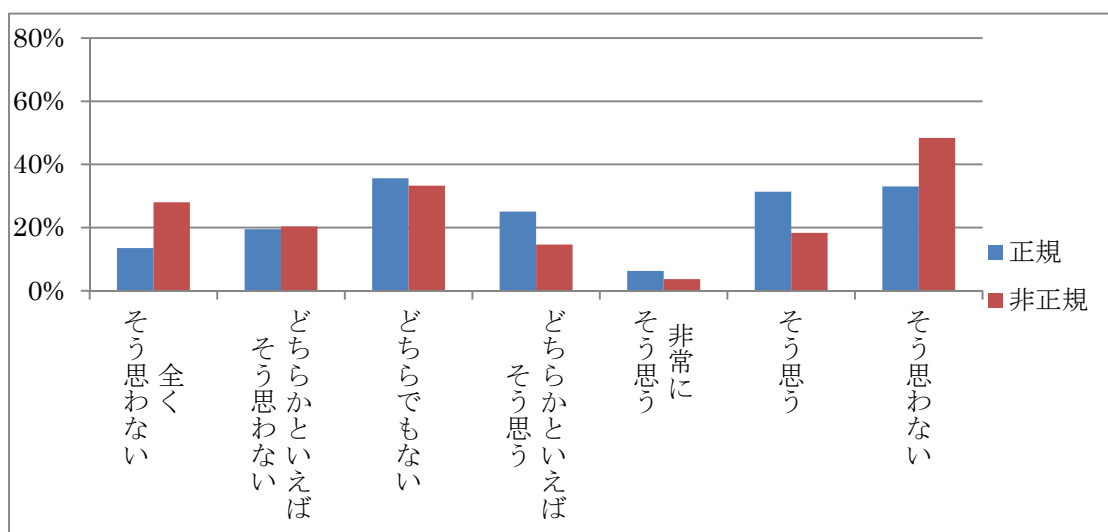
3) 「仕事の仕方については、自分で決めることができる範囲が大きい」



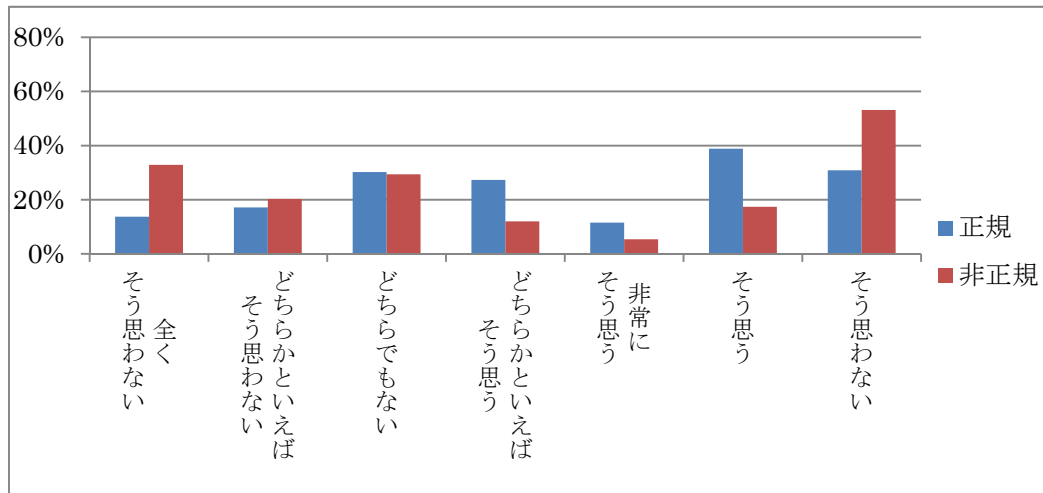
4) 「仕事は単調で退屈である」



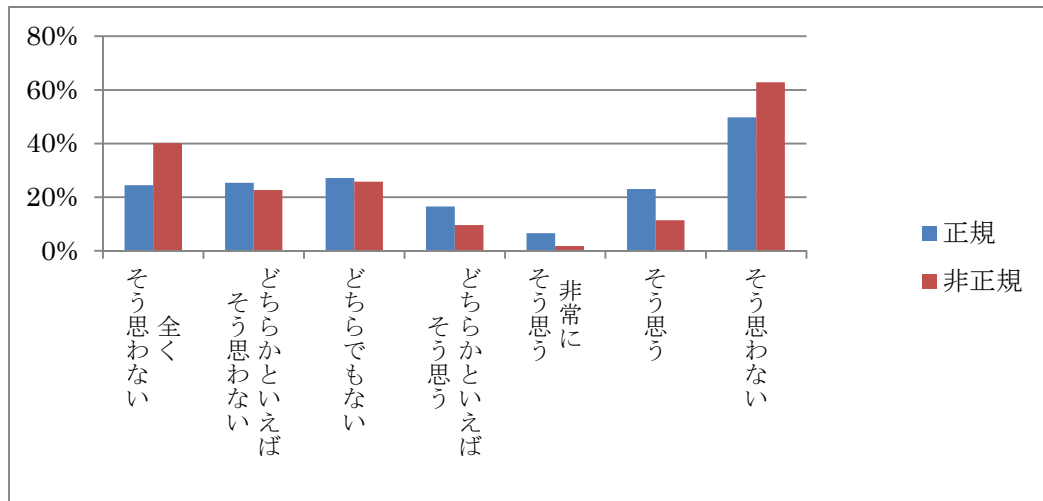
5) 「将来のキャリアアップにつながる仕事である」



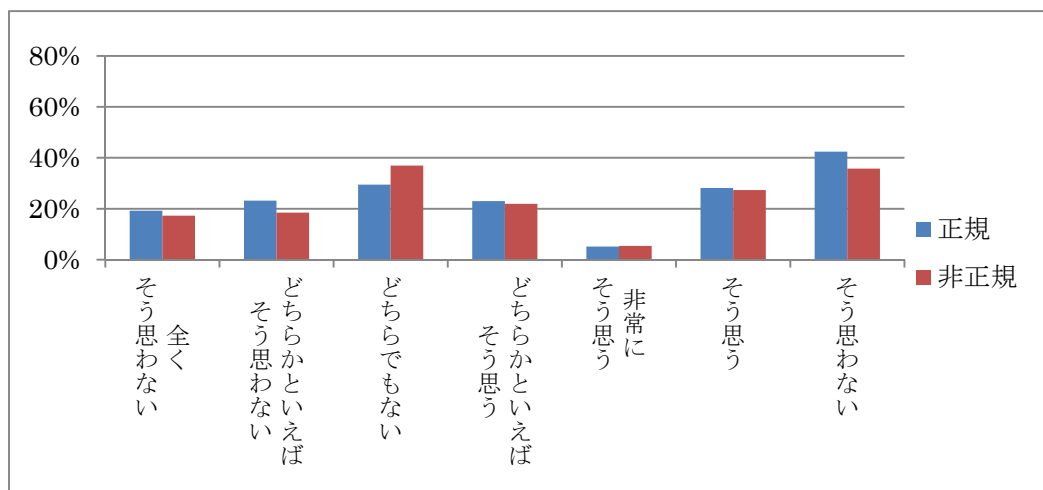
6) 「常に締め切りに追われている」



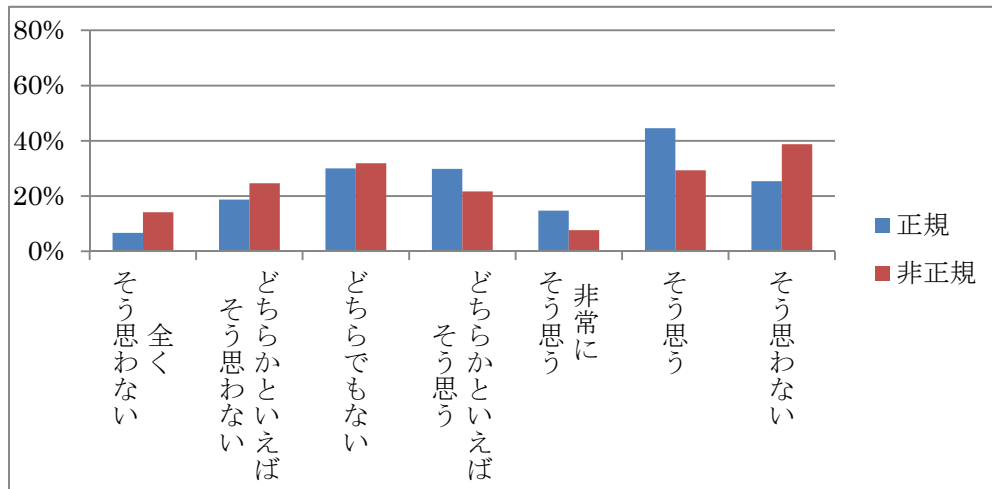
7) 「危険もしくは不健康な環境で働いている」



8) 「職場は、子育てや介護している人にとって仕事と両立しやすい環境が整っている方である」



9)「職場の人間関係にはストレスが多い」



10)「自己啓発や生活の時間の確保がしやすい職場環境にある」

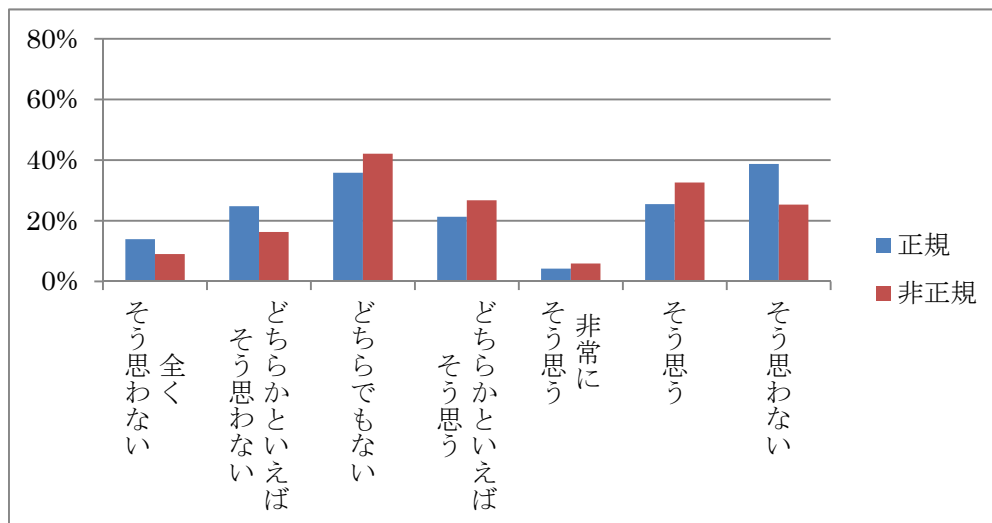
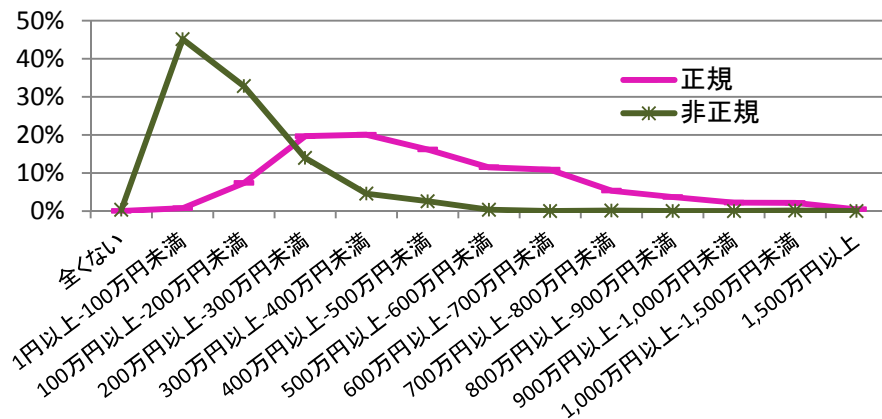


図 4-4② 正規・非正規別の本人の年収の分布



⑤ 労働時間

先週 1 週間の労働時間について質問した。従業上の地位別に労働時間の分布を見ると、国際的に長時間労働の節目となる週 50 時間以上の割合は、全体（少しでも仕事をしていた人）で 24%を超えている。特に、自営業主、会社などの役員で、その割合は大きい（表 4-5 ①）。

表 4-5① 従業上の地位別、労働時間の分布

	常用雇用	臨時・日雇	会社などの役員	自営業主	自営業の手伝い	内職	全体
35 時間未満	27.3%	79.6%	24.0%	30.4%	57.7%	86.1%	35.1%
35 時間以上 40 時間未満	9.3%	6.0%	6.5%	8.9%	8.5%	5.6%	8.7%
40 時間以上 50 時間未満	38.2%	10.6%	33.1%	22.5%	15.5%	5.6%	32.2%
50 時間以上	25.1%	3.8%	36.4%	38.2%	18.3%	2.8%	24.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

常用雇用、臨時・日雇と回答した者のうち、男女別に正規・非正規別に、労働時間の分布を見ると、正規の職員の労働時間は男女ともに長く、週 50 時間以上労働する人の割合は、男性で 46.8%、女性で 20.7%となっている（表 4-5②）。

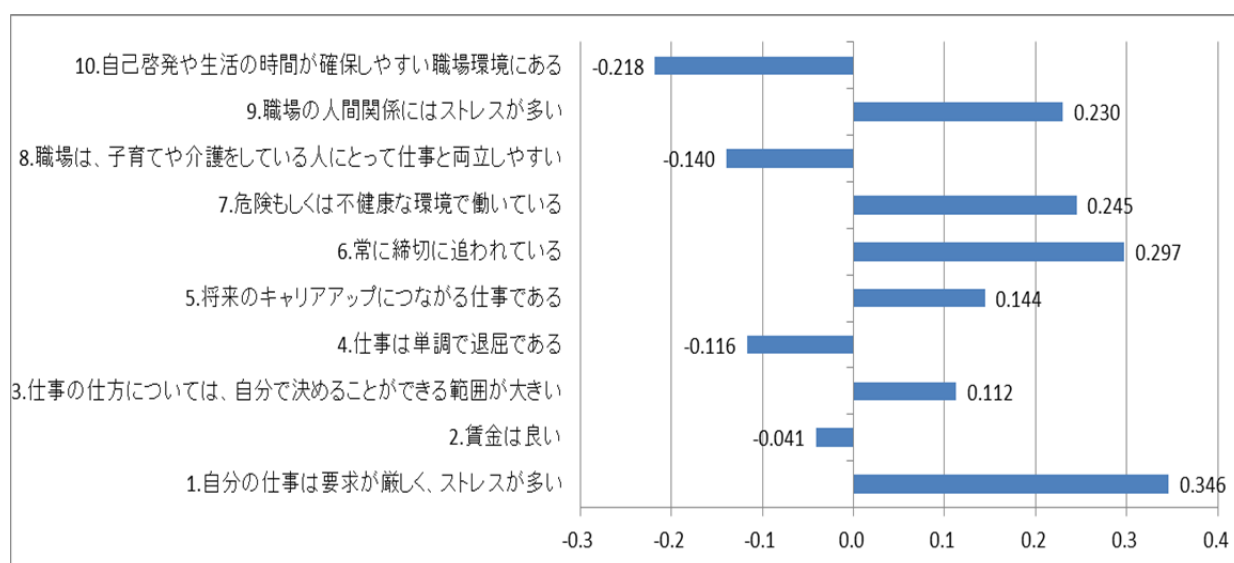
表 4-5② 男女別、正規・非正規別、労働時間の分布

	男性		女性		全体	
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
35 時間未満	3.5%	53.2%	9.3%	71.6%	5.5%	66.8%
35 時間以上 40 時間未満	5.7%	7.3%	12.8%	10.2%	8.1%	9.4%
40 時間以上 50 時間未満	44.1%	30.9%	57.1%	14.9%	48.5%	19.1%
50 時間以上	46.8%	8.6%	20.7%	3.2%	37.9%	4.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	5.5%	66.8%

労働時間と仕事の質の評価の関係について考察する。仕事の質に関する回答と、労働時間をそれぞれ指数化¹¹し、相関係数を計算したところ、全ての項目で統計的に有意であった。そのうち「自分の仕事は要求が厳しく、ストレスが多い」「仕事の仕方については、自分で決めることができる範囲が大きい」「将来のキャリアアップにつながる仕事である」「常に締め切りに追われている」「危険もしくは不健康な環境で働いている」「職場の人間関係にはストレスが多い」に関しては、正の相関関係があり、労働時間が長いほどそう思っている人が多いことがわかった。

逆に、労働時間が長いほどそう思っている人が減るのは「賃金は良い」「仕事は単調で退屈である」「職場は、子育てや介護をしている人にとって仕事と両立しやすい環境が整っている方である」「自己啓発や生活の時間が確保しやすい職場環境にある」である。

図 4-5 労働時間と仕事の質の相関係数



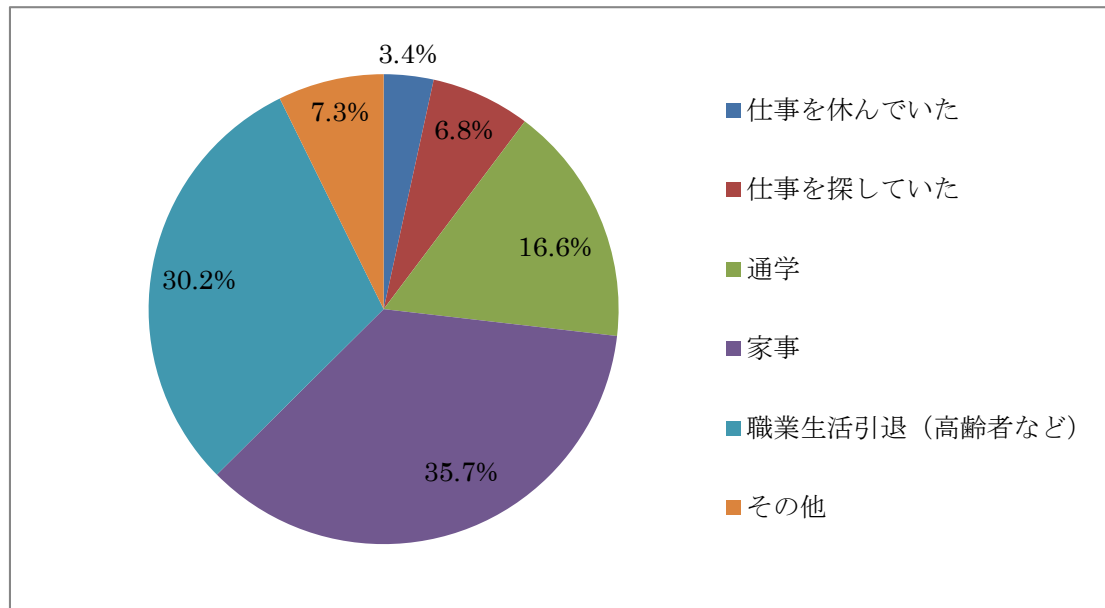
⑥ 非就業の状態

「少しも働かなかった」と回答した人に、理由を聞いたところ、35.7%が家事、ほぼ同数の30.2%が職業生活引退をあげた。通学は16.6%、仕事を探していた人（失業）は6.8%であった（図 4-6）。

非就業者のうち男女別に回答者の構成を見ると、女性では家事が最も多く、男性では職業生活引退が最も多い（表 4-6①）。

¹¹ 仕事の質については「全くそう思わない」を1、「どちらかといえばそう思う」を2、「どちらでもない」を3、「どちらかといえばそう思う」を4、「非常にそう思う」を5として指数化。
労働時間については、「15 時間未満」を 7.5 とし、それ以降は「15 時間以上～19 時間未満」は 17.5、「20 時間以上～24 時間未満」を 22.5 というように、選択肢の中央値を用いて指数化した。なお、「75 時間以上」は 77.5 としている。

図 4-6 非就業の状態



（備考）無回答は除く。

表 4-6① 非就業の状態（回答者数）

	男性	女性	全体
仕事を休んでいた	8	30	38
仕事を探していた	36	40	76
通学	106	78	184
家事	22	375	397
職業生活引退 （高齢者など）	211	124	335
その他	27	54	81
合計	410	701	1111

非就業の状態と現在の幸福感の関係をしてみると、男性の場合、幸福感が最も高いのは「職業生活引退」であり、女性の場合は「家事」である。男女ともに「仕事を探していた」の幸福感は低い（表 4-6②）。

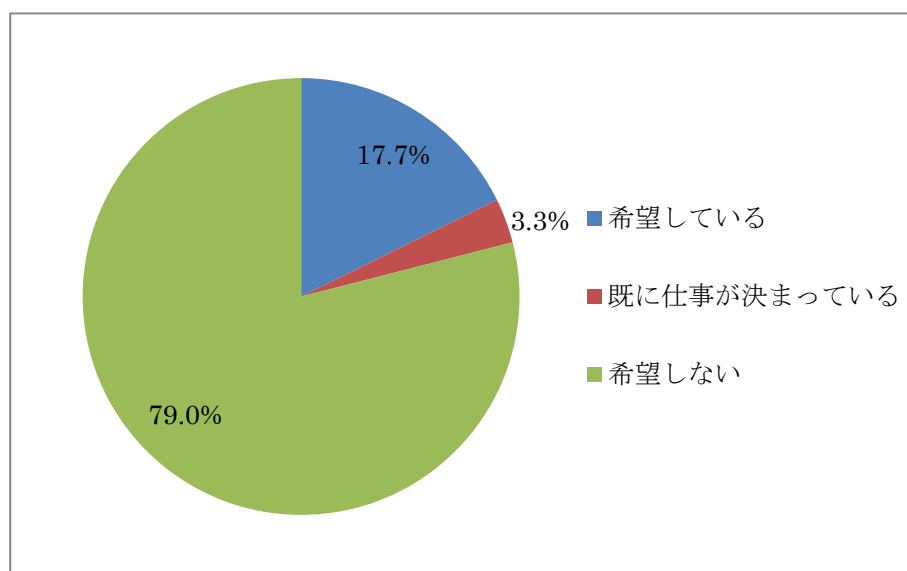
表 4-6② 男女別、非就業の状態別、現在の幸福感と年齢

	男性		女性	
	幸福感	年齢（歳）	幸福感	年齢（歳）
仕事を休んでいた	4.4	49.3	7.2	35.1
仕事を探していた	4.6	43.3	5.9	41.0
通学	6.5	18.2	6.9	18.3
家事	5.9	64.9	7.1	53.7
職業生活引退 （高齢者など）	6.6	72.4	6.9	74.2
その他	5.8	52.4	6.5	53.8
合計	6.3	53.6	6.9	51.9

⑦ 非労働力化の内訳

非就業者のうち「仕事を探していた」と回答した人以外の 1035 人を対象に、現在、収入になる仕事に就くことを希望しているかを聞いたところ、514 人が回答し、そのうち 91 人（17.7%）が「希望している」と回答した（図 4-7）。

図 4-7 仕事を探していないものの希望している人



（備考）無回答は除く。

仕事をしたいと希望しながら、現在、仕事を探していないのはなぜか、理由を聞いたところ（複数選択可）、4 割以上（91 人中の 42 人）があげたのが「適当な仕事がない」だった。

仕事を探さない理由別に現在の幸福感を見たところ、「介護のため仕事が続けられそうもない」が 5.3 と低く、次いで低いのは「適当な仕事がありそうにない」と「育児のために仕事が続けられそうもない」である（表 4-7）。

表 4-7 仕事を探さない理由別、現在の幸福感

	現在の幸福感	標準偏差	回答者数
適当な仕事がありそうにない	5.9	1.5	42
家事のため仕事が続けられそうもない	6.4	1.8	13
育児のため仕事が続けられそうもない	5.9	1.5	19
介護のため仕事が続けられそうもない	5.3	1.3	4
その他	5.8	2.0	38

(5) 心身の健康

① 健康状態

自身の健康状態について質問したところ、年齢に応じて、「健康である」と回答する人の割合は 60 歳代までは低下するが 70 歳以上では若干上昇している。また、「健康である」「どちらかといえば健康である」と回答する人の割合は、10 代では 8 割近くから徐々に低下するが、60 歳代ではふたたび増加している（図 5-1①）。また、男女別には回答にほとんど違いがみられない（図 5-1②）。

図 5-1① 健康状態の年齢別推移

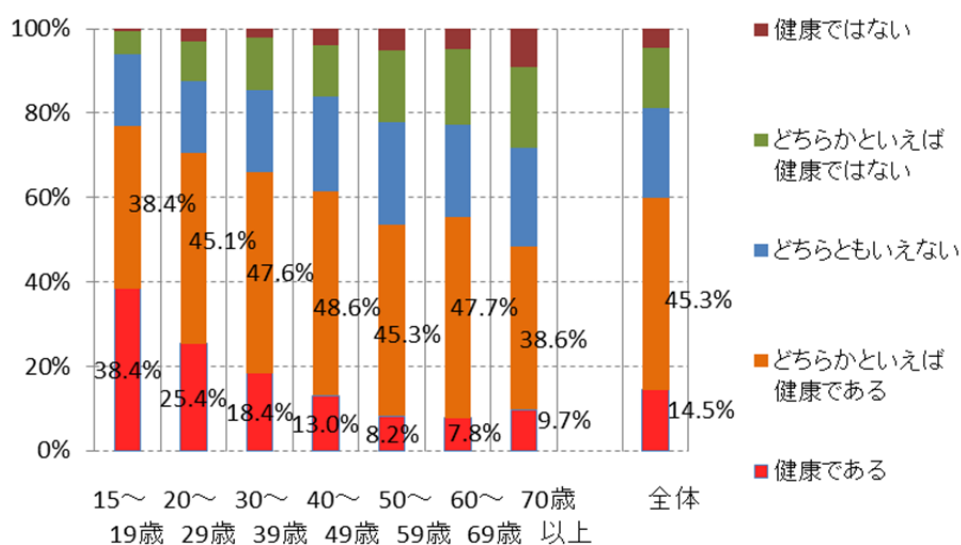
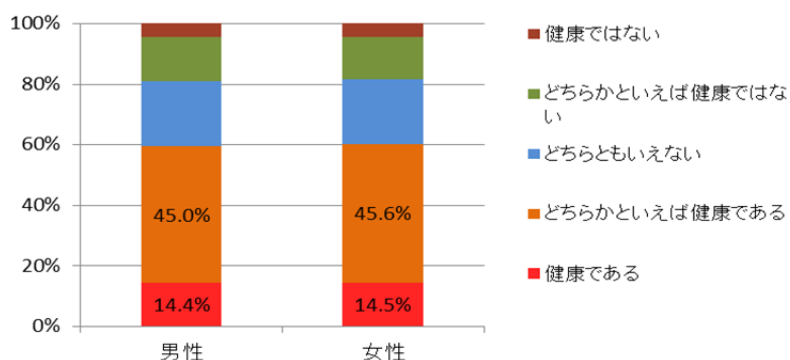


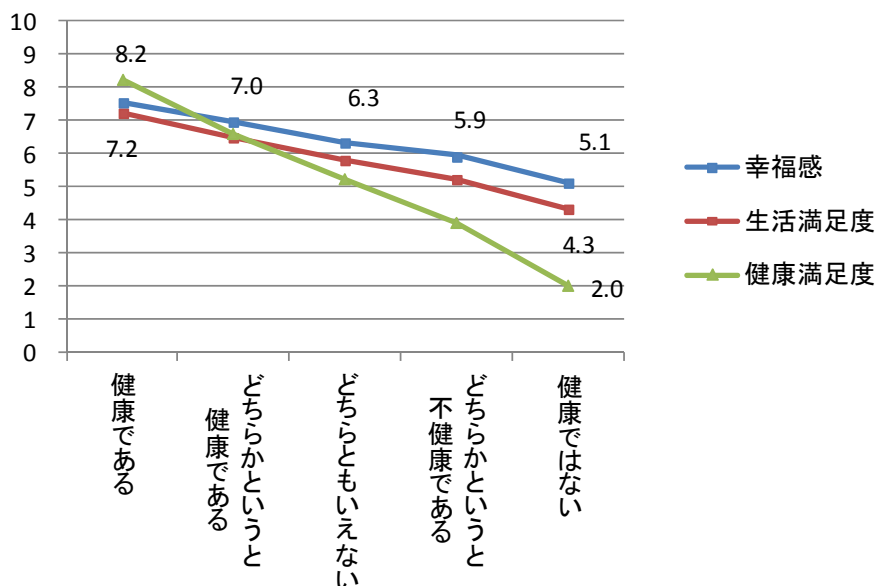
図 5-1② 男女別、健康状態の自己評価



健康の自己評価は、健康の満足度と強い関係があり、「健康である」と回答した人の健康についての満足度は、0～10 の尺度で評価して、平均で 8.2 点と非常に高い一方、「健康ではない」と回答した人の健康満足度は逆に平均で 2 点と非常に低い。また、健康の自己評

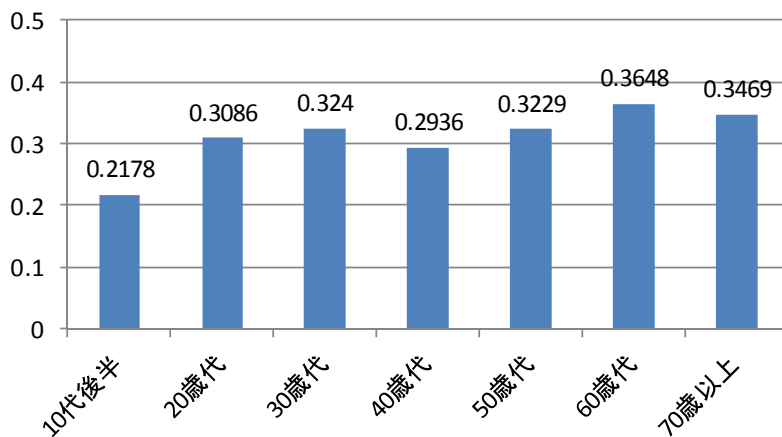
価は、生活満足度、幸福感とも密接な関係があり、健康の自己評価が高い人と低い人で、大きな差が存在する（図 5-1③）。

図 5-1③ 健康状態の自己評価別、健康満足度、生活満足度、幸福感



年齢別に、健康の自己評価（「健康である（5）」から「健康でない（1）」の 5 段階）と幸福感との相関関係の強さを見ると、70 代以上では、60 代以下と比較し相関係数（絶対値）が小さく、関係がやや弱まっており、10 代後半を除くどの年齢層においても幸福感に一定程度の相関を持つが、年齢が高くなるほど相関の程度が強くなるわけではないことも分かる（図 5-1④）。

図5-1④ 年齢別、健康の自己評価と幸福感の相関係数



② 心の健康状態（K6）

過去 30 日の心の健康状態について質問したところ、「神経過敏」は約 11%の人が、「たいてい」、もしくは「いつも」という高い頻度で感じたと回答した（前回調査では約 13%）。「絶望」は約 5%（前回約 6%）、「そわそわしたり、落ち着かない」は約 7%、「気分の沈みこみ」は約 8%、「何をするにも骨折り」は約 7%、「自分は価値のない人間」は、5%の人が、「たいてい」、もしくは「いつも」という頻度で感じていた（表 5-2①）。

表 5-2① 心の健康状態

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
神経過敏に感じましたか	26.5%	32.4%	30.3%	7.8%	3.1%
絶望的に感じましたか	56.6%	24.0%	14.6%	3.4%	1.4%
そわそわしたり、落ち着かなく感じましたか	36.7%	34.0%	22.6%	5.1%	1.5%
気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	39.6%	31.8%	20.5%	6.2%	2.0%
何をするにも骨折りだと感じましたか	39.1%	32.8%	21.2%	5.0%	1.9%
自分は価値のない人間だと思いましたか	56.1%	22.1%	16.7%	3.1%	1.9%

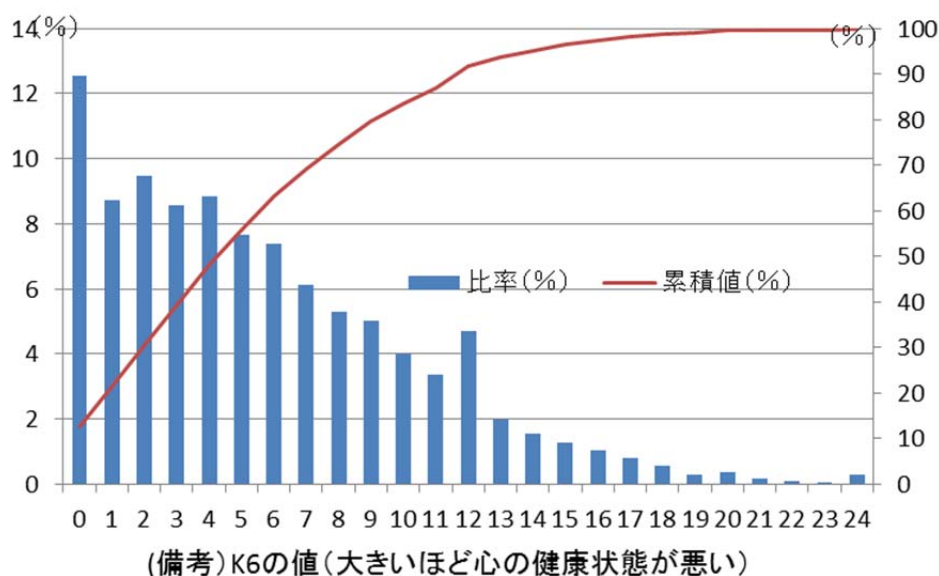
これらの回答を「全くない」を 0、「少しだけ」を 1、「ときどき」を 2、「たいてい」を 3、「いつも」を 4 として指数化し、合計すると心理的ストレスを含む何らかの精神的問題の程度を表す指標として用いられている K6 が計算できる。平成 24 年国民生活基礎調査と比較し、今回調査を含め生活の質に関する調査では、心の健康状態が悪いとする回答者（K6 の得点の高い回答者）の割合が多くなっている。なお、インターネット調査（平成 23 年度実施のインターネットの登録モニターを対象にした調査）は調査手法により得点が高くなるというバイアスがかかる可能性についての指摘もあるが、前回調査（24 年度調査）、今回調査は訪問留置法による調査であり、国民生活基礎調査と比較し高くなったのは、調査手法によるものではなく、幸福感の測定を目的とする生活の質に関する調査の一環として質問したことによる影響も考えられる（表 5-2②）。

表 5-2② 他の調査との比較

	今回調査 (25年度調査)	前回調査 (24年度調査)	インターネット調査(23年 度調査)	2010年国 民生活基 礎調査
0～4点	47%	46%	50%	59%
5～9点	31%	32%	26%	15%
10～14点	15%	17%	17%	6%
15点以上	5%	6%	6%	2%
不詳	2%	-	-	17%
総数	100%	100%	100%	100%

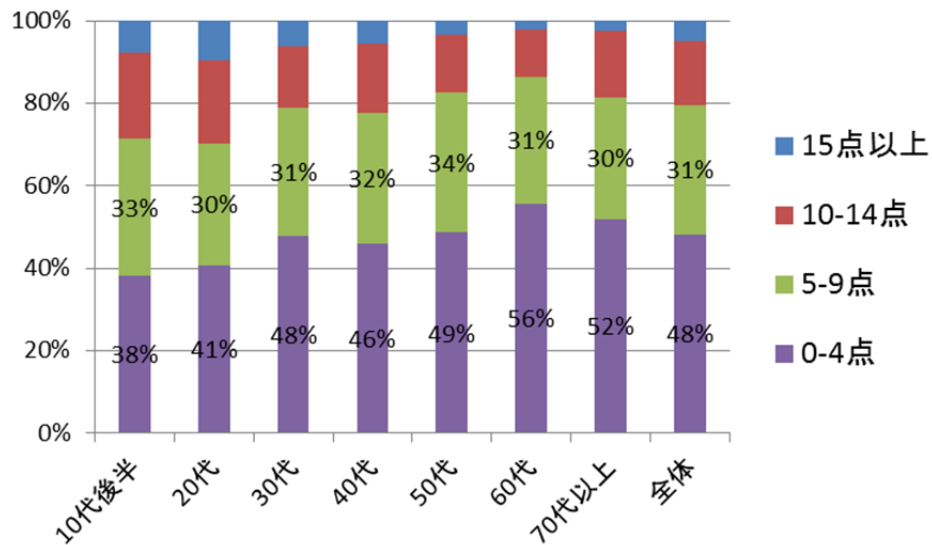
今回調査における K6 の得点の分布を見ると 12 点に一つの山があることが分かる(図 5-2 ①)。

図 5-2① K6 の得点の分布と累積分布



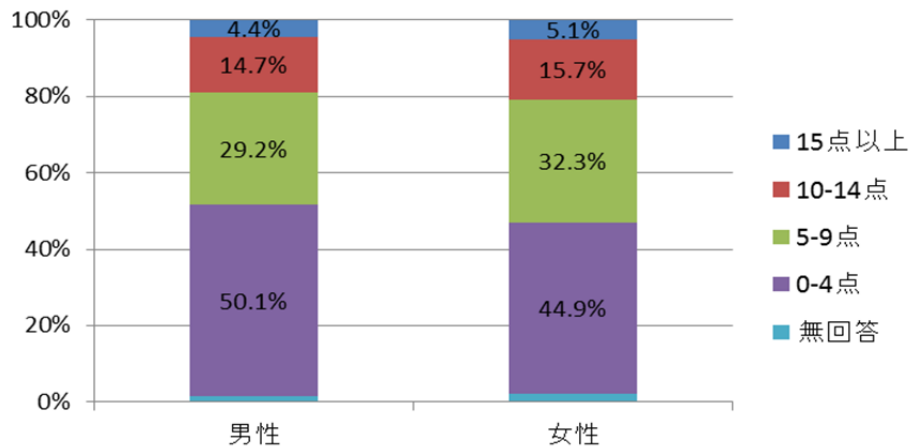
年齢別に見ると、10 代、20 代で K6 の値が高い回答者（10 点以上）の割合が多く、年齢が上がるにつれ、心の健康状態が悪いとする回答が減少している。但し、70 代以上は 60 代と比較し、悪化している（図 5-2②）。

図 5-2② 年齢別の K6 の分布



男女別に K6 の得点の分布を見ると、男女の間で、心の健康に大きな違いがないことが分かる¹²（図 5-2③）。

図 5-2③ 男女別の K6 の得点の分布



仕事の質は、心の健康と密接に関係すると思われるため、仕事の質についての質問において、そう思う（＝どちらかというと思う＋非常にそう思う）と回答した人とそうでない人で、K6 の得点に違いが出るか見たところ、全ての項目で統計学的に有意な違いが存在した¹³（表 5-2③）。

¹² 分布について、適合度検定を行ったところ、男女の間の違いは有意ではなかった。

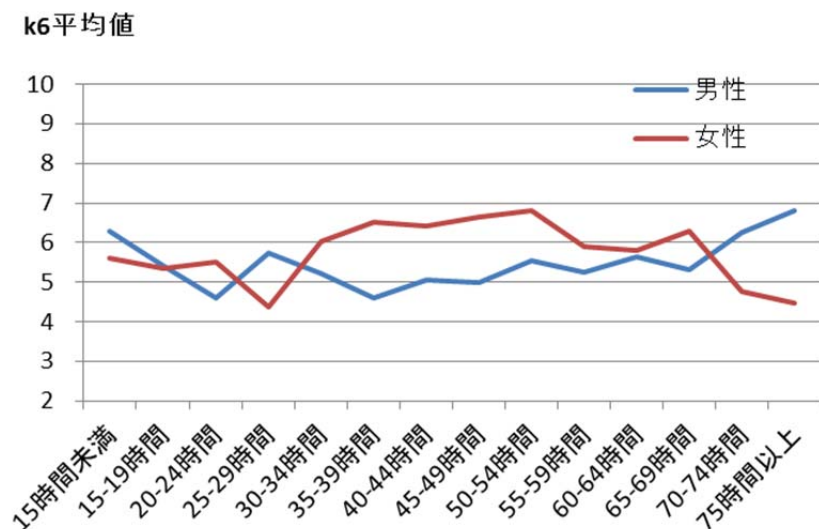
¹³ K6 の平均点について、t 検定を行ったところ、1%水準で有意であった。

表 5-2③ 仕事の質と心の健康

	そう思わない、 どちらでもない		そう思う	
	K6	回答者数	K6	回答者数
自分の仕事は要求が厳しく、ストレスが多い	4.8	1445	6.8	1067
賃金は良い	5.8	1941	5.1	561
仕事の仕方については、自分で決めることができる範囲が大きい	6.1	1397	5.0	1112
仕事は単調で退屈である	5.5	2282	7.3	229
将来のキャリアアップにつながる仕事である	5.8	1872	5.1	635
常に締切に追われている	5.3	1785	6.5	723
危険もしくは不健康な環境で働いている	5.3	2095	7.0	417
職場は、子育てや介護をしている人にとって仕事と両立しやすい環境が整っている方である	5.8	1828	5.1	670
職場の人間関係にはストレスが多い	5.0	1700	7.0	804
自己啓発や生活の時間が確保しやすい職場環境にある	6.1	1739	4.6	762

週当たり労働時間と K6（平均値）との関係について見ると、男女で違いがあり、男性の場合、週当たり労働時間が 40 時間を超えると K6 が徐々に上昇する傾向がみられ、60 時間台後半からその上昇傾向が強くなっている。一方、女性では、30 時間台後半から K6 が急に高くなるが、50 時間台後半からは K6 が逆に低下する傾向がみられる。ただし、女性の場合、65 時間超では回答者数が非常に少なくなることから一部の回答者の影響が強く現れている可能性がある（図 5-2④）。

図 5-2④ 調査前の週当たり労働時間と K6 値の関係



③ 介護等負担の有無

介護負担の有無を質問したところ、同居もしくは別居の家族に要介護認定を受けた方がいるという回答が、2割近くに及んでいる（表 5-3①）。

表 5-3① 介護負担の有無

	いない	同居の家族・ 親族にいる	別居の家族・ 親族にいる	無回答
要介護認定を受けられた方	77.7%	7.3%	11.8%	3.2%
寝たきり状態の方	87.7%	2.2%	4.5%	5.6%
病気療養中の方	76.4%	8.7%	9.4%	5.5%
障害者認定を受けられた方	79.4%	7.5%	7.9%	5.1%

現在の幸福感と介護負担の有無の関係をみると、前回調査における幸福感と同様に、同居の家族・親族に要介護認定を受けた方、寝たきり状態の方、病気療養中の方、障害者認定を受けられた方がいる場合、幸福感が低くなっている（表 5-3②）。

表 5-3② 介護負担の有無と現在の幸福感

今回調査における現在の幸福感

	いない	同居の家族・親 族にいる	別居の家族・親 族にいる
要介護認定を受けられた方	6.7	6.2	6.9
寝たきり状態の方	6.7	6.2	6.7
病気療養中の方	6.8	6.1	6.8
障害者認定を受けられた方	6.7	6.3	6.7

前回調査における現在の幸福感

	いない	同居の家族・親族 にいる	別居の家族・親 族にいる
要介護認定を受けられた方	6.7	6.2	6.8
寝たきり状態の方	6.7	6.0	6.6
病気療養中の方	6.8	5.9	6.7
障害者認定を受けられた方	6.8	6.1	6.8

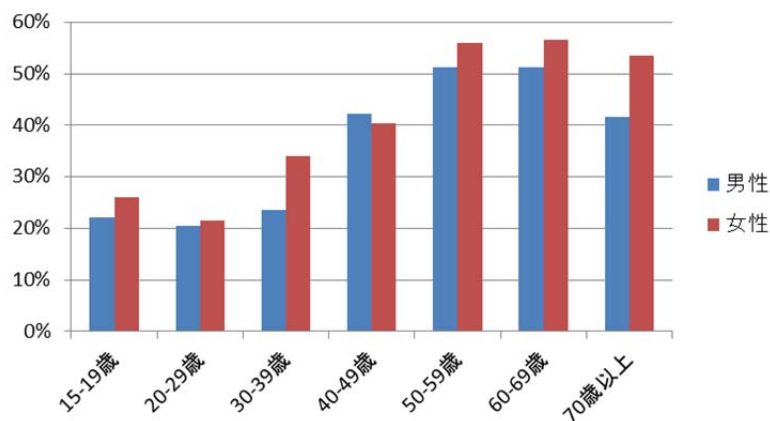
④ 介護等負担感

同居もしくは別居の家族・親族に要介護状態の方がいる方に、現在のご心労を質問したところ、「とても感じている」、「少し感じている」と回答した人は、それぞれ、18%、31%と、前回調査（それぞれ 21%、33%）と近い割合となったが、これらをあわせると 5%ほど低下している（表 5-4）。また、男女年齢別に負担感を見ると、年齢が上がるほど、男女とも負担感を感じていることが分かる（図 5-4）。

表 5-4 介護負担を感じている人の割合

	今回調査	前回調査
とても感じている	18%	21%
少し感じている	31%	33%
どちらともいえない	17%	19%
あまり感じていない	20%	18%
全く感じていない	14%	10%

図 5-4 男女年齢別、介護負担を感じている人（とても＋少し感じている）の割合



4. パネルデータに基づく幸福感等の状況

(1) 幸福感、生活満足度の変化の状況

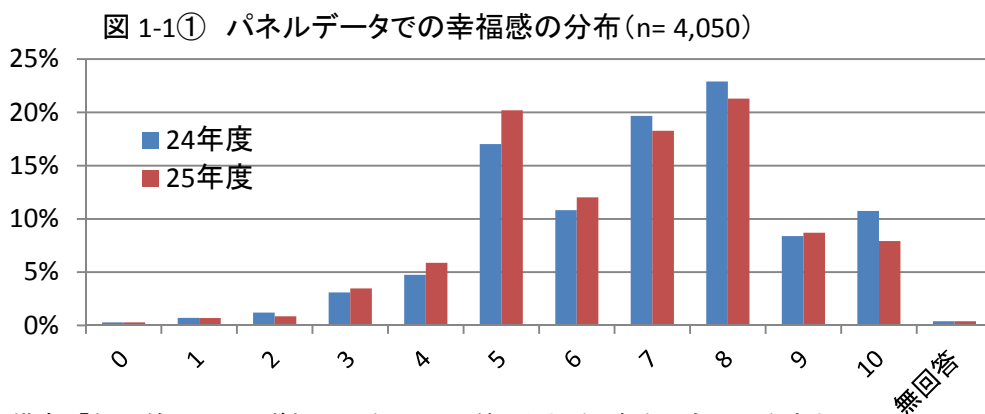
① 生活の質に関する調査における幸福感の状況

今回調査（25 年度調査）回答者を前回調査（24 年度調査）の継続回答者（4,066 人）に限定した二時点パネルデータで幸福感（現在の幸福感）の変化を見ると、平均値が 6.88（24 年度調査）から 6.68（25 年度調査）へ僅かに低下しており、この差は統計的に有意となっている。また、このグループ（今回調査に継続回答した 4,066 人）の前回調査の平均値は 6.88 と、全体の平均（6.69）より若干高い（表 1-1）。

なお、パネルデータにおいて無回答者はそれぞれ両年で異なるため、両年とも幸福感を回答している数は 4,050 人である（図 1-1①）。

表 1-1 平成 23 年度以降の調査結果における幸福感の推移

	今回調査 (25 年度調査)	前回調査 (24 年度調査)	23 年度調査 ¹⁴ (参考)
幸福感（平均値）	6.68	6.69	6.6
（標準偏差）	1.95	2.08	2.1
（回答者数）	4,066 人	7,690 人	6,442 人
（参考）	（今回調査と同じ対象者での比較）		
幸福感（平均値）	6.68	6.88	
（標準偏差）	1.95	1.99	
（回答者数）	4,058 人 （無回答 8 人）	4,058 人 （無回答 8 人）	



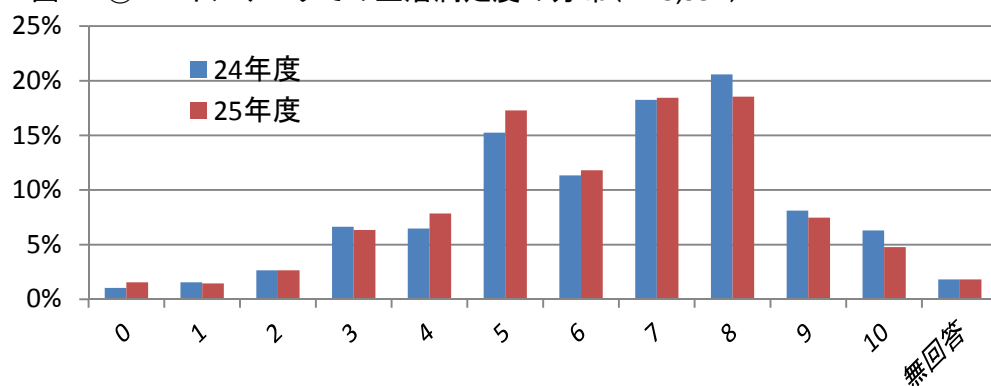
（備考）「無回答」にはいずれかの年のみ回答した場合（各年とも8人）を含む。

¹⁴ 23 年度調査の回答者は、24 年度調査、25 年度調査の回答者とは異なっている（24 年度調査、25 年度調査のように継続性はない）。

24年度と25年度の両年の調査とも対応のあるサンプルに絞って、25年度調査の幸福感の平均値（6.88）と24年度調査の回答者の幸福感の平均値（6.68）の差について、対応のあるサンプルのt検定を行ったところ、有意であった（ $n=4050$ 、 t 値=-7.450、 $df=4049$ 、 $p<.001$ ）。

なお、参考として生活満足度についてもパネルデータを示す（図 1-1②）。

図 1-1② パネルデータでの生活満足度の分布（ $n=3,992$ ）



（備考）「無回答」にはいずれかの年のみ回答した場合（24年度50人、25年度24人）を含む。

② 幸福感の水準別にみた比較

前回調査の幸福感の水準別に、前回調査から今回調査の幸福感との差が有意であるかを確認したところ、前回調査において0～6と幸福感が平均を下回った回答群では今回調査時の幸福感は有意に上昇しており、8～10と平均を上回って回答した群では、今回調査時の幸福感は有意に低下している（表 1-2）。

この調査においては、比較的幸福感が高い層（数値では8～10）での回答者数が多い特徴があるが、この回答者数の多い幸福感の高かった群において幸福感が低下している影響が、全体の平均値の低下に反映されている可能性が高いと考えられる。

表1-2 24年度の幸福感（0～10の11段階別）と25年度平均値との差

24年度(a)	25年度平均(b)	a-b	(標準偏差)		回答数(n)
10	8.542	1.458	(0.080)	(a>b)****	437
9	8.123	0.877	(0.075)	(a>b)****	341
8	7.468	0.532	(0.047)	(a>b)****	931
7	6.569	0.431	(0.052)	(a>b)****	800
6	6.055	-0.055	(0.073)	有意差なし	440
5	5.585	-0.585	(0.059)	(a<b)****	692
4	4.855	-0.855	(0.104)	(a<b)****	193
3	4.460	-1.460	(0.264)	(a<b)****	126
2	3.469	-1.469	(0.264)	(a<b)****	49
1	3.690	-2.690	(0.444)	(a<b)****	29
0	2.917	-2.917	(0.444)	(a<b)****	12

（備考）**** $p<.001$ 。

③ 性別・年齢階層別にみた比較

現在の幸福度の差について、性別・年齢階層別に見ると、特に男性 10 代の低下が著しい（図 1-3①、図 1-3②）。

図 1-3① 男性、年齢別、現在の幸福度の平均値（25 年度調査と 24 年度調査の比較）

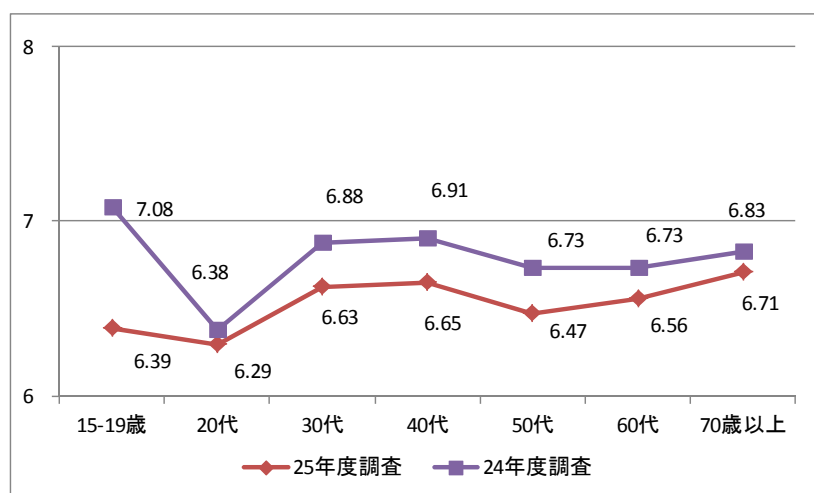
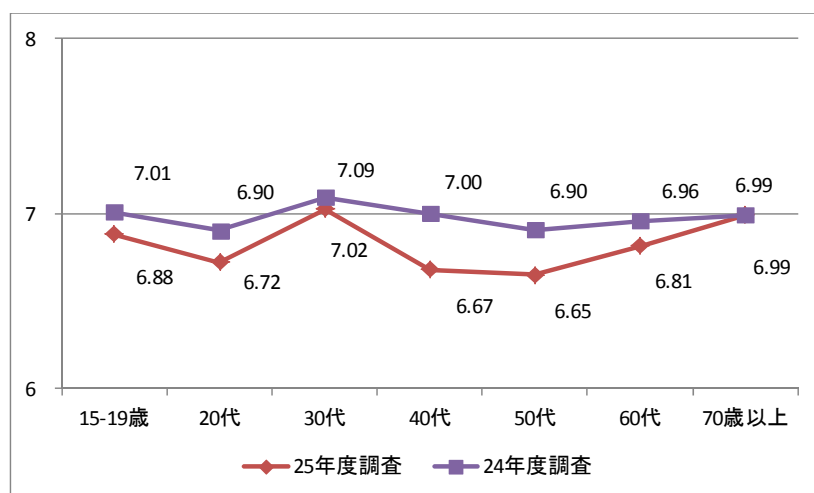


図 1-3② 女性 年齢別、現在の幸福度の平均値（25 年度調査と 24 年度調査の比較）

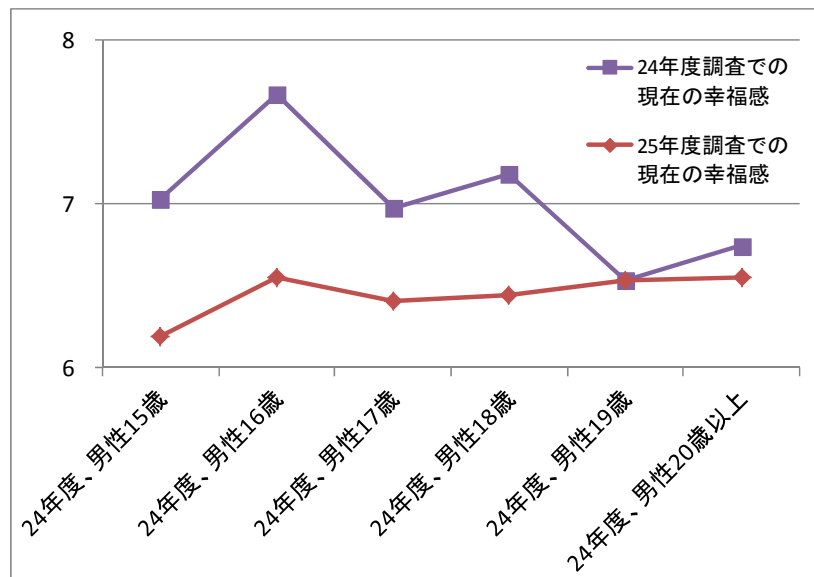


なお、図 1-3①、図 1-3②で分析軸とした年齢階層は、調査年度の年齢であるため（つまり、平成 24 年度調査の 19 歳は「15-19 歳」に区分されるが、翌年 20 歳になった人たちは「20 代」の区分に入るため）、回答者の内訳は僅かであるが異なっている。

男性 15-19 歳の幸福度の低下を考えるにあたり、24 年度調査で回答者が回答した年齢ごとに、24 年度調査の現在の幸福度の平均値と、25 年度調査での現在の幸福度の平均値を求

めた（図 1-3③）。下の図に示すように、24 年度調査での男性 16 歳及び 15 歳で、幸福感の乖離が大きく、24 年度調査での男性 19 歳は 24 年度調査の幸福感和今回調査の幸福感の平均値は同じであった。

図 1-3③ 男性、24 年度調査での年齢別、現在の幸福感の平均値（25 年度調査と 24 年度調査との比較）



では、男性の 15 歳及び 16 歳でなぜ大きく幸福感が下がったのであろうか。それを探るために生活局面別の満足度について考察する。幸福感和生活満足度は相関の高い質問であり、どれか特定の領域の満足度が下がった場合、それが幸福感的低下に影響を与えている可能性はある。なお、ここでは、生活の局面別満足度の項目として 10 項目をとりあげている（※24 年度調査及び 25 年度調査のいずれかの調査でのみ聞いている項目、例えば、24 年度調査の「現在の安全・安心感」、25 年度調査の「自分の学歴」は除いている。また、極端に回答者数の少なかった項目（「仕事」「子育て」「子育て支援サービス」「医療サービス」「看護」「介護」「身の回りの世話等の際の外部サポート体制」）も除いた）。

表 1-3①は、24 年度調査においては「15 歳」、表 1-3②は、24 年度調査においては「16 歳」の男性の生活の局面別満足度を示している。

表 1-3①の（B）・（A）から明らかなように、24 年度調査での 15 歳に関しては、全ての満足度が低下しており、特に「生活における時間配分」「好きなことを行う時間の長さ」「地域社会への帰属感」の満足度の低下が大きい。

また表 1-3②を見ると、24 年度調査での 16 歳に関しては、「生活における時間配分」や「人間関係」の満足度は増加しているものの、「住居」「家族生活」「地域社会への帰属感」の満足度の低下が大きい。

24 年度調査での男性 15 歳（31 人）は、24 年度調査では 28 人が中学校在学中（中学校 3 年生相当）であった。24 年度調査は 2 月～3 月に実施されており、回答者の多くが受験等を終え進路を決め、自分の好きなように時間を使っていた可能性がある。

また、24 年度調査での男性 16 歳（18 人）は、25 年度調査では、16 人が通学中である。進学や就職といった 18 歳の進路選択までにはまだ猶予があるため、時間の使い方や友人関係などの人間関係への満足度が高いことが想定される。

表 1-3① 男性、24 年度調査での 15 歳、局面別満足度の平均値（25 年度調査と 24 年度調査の比較）

	24 年度調査		25 年度調査		(B) - (A)
	回答者数	平均値 (A)	回答者数	平均値 (B)	
住居	29	6.90	27	5.89	-1.01
生活水準（消費生活）	30	6.90	30	6.40	-0.50
人生で達成しているもの	31	5.94	30	5.27	-0.67
人間関係	31	7.13	30	6.37	-0.76
家族生活	30	7.07	29	6.41	-0.65
健康	31	7.97	29	6.62	-1.35
地域社会への帰属感	29	6.24	30	4.60	-1.64
将来の安全・安心感	31	5.77	29	4.52	-1.26
好きなことを行う時間の長さ	31	6.71	30	5.07	-1.64
生活における時間配分	31	6.32	30	4.37	-1.96

表 1-3② 男性、24 年度調査での 16 歳、局面別満足度の平均値（25 年度調査と 24 年度調査の比較）

	24 年度調査		25 年度調査		(B) - (A)
	回答者数	平均値 (A)	回答者数	平均値 (B)	
住居	18	7.72	17	6.59	-1.13
生活水準（消費生活）	18	7.28	18	6.94	-0.33
人生で達成しているもの	17	6.24	18	5.50	-0.74
人間関係	18	6.89	18	7.11	0.22
家族生活	17	7.59	16	6.69	-0.90
健康	17	7.76	18	7.67	-0.10
地域社会への帰属感	18	6.56	18	5.67	-0.89
将来の安全・安心感	18	5.94	18	5.50	-0.44
好きなことを行う時間の長さ	18	6.67	18	6.28	-0.39
生活における時間配分	18	5.78	18	6.67	0.89

(2) 年収と幸福感との関係

表 2-1 収入・資産の変化と幸福感の変化

幸福感に影響を与える要因の一つとして、資産・収入の変化との関係に注目し、前回調査以降、本人の資産・収入が1割以上増加（もしくは減少）したとする回答者に対し、幸福感にどの程度影響するかを尋ねたところ、何らかの影響があるとする回答が8割近くとなっている（表 2-1）。また、資産・収入が増加したとする回答者よりも、資産・収入が減少したとする回答者において幸福感に影響する割合（少し影響する、かなり影響する、全て影響するの合計）が1割弱高くなっている。

収入・資産面の変化が幸福感の変化に(の)	構成比(%)	回答者数
→ 全てである。	6.2%	46
→ とても影響を及ぼす	34.2%	254
→ 少し影響を及ぼす	38.0%	282
→ どちらともいえない	9.7%	72
→ あまり影響を及ぼさない	10.0%	74
→ 全く影響を及ぼさない	2.0%	15
総 数	100.0%	743

(注) 1. 「過去1年間に収入・資産が1割以上増加した」「過去1年間に収入・資産が1割以上減少した」との回答者に対し、続けて尋ねた結果である。

2. 選択肢のうち「全てである」とは「全面的に影響を及ぼす」という意味である。

次に、幸福感の変化（前回 24 年度調査時点からの変化）に対し、性別、年齢、健康意識や生活費のやりくり難の変化、前回調査以降のライフイベントの有無等を変数として加え、資産・収入の増減や不安、生活環境への満足等との関係を見ることとした。利用した主な変数の記述統計量は表 2-2 のとおりである。また、全体の幸福感の変化とともに、24 年調査時点で幸福感の高かった人、平均近くの人、低かった人の 3 グループ別の幸福感の変化についても同様に関係を確認した（表 2-3）。

表2-2 主な変数の記述統計量

	平均	(標準偏差)	対象数	最少	最大
1. 幸福感の変化(前回調査からの変化)	-0.201	(1.715)	4050	-10	9
1-1.幸福感の変化(H24幸福感: 0~3)	1.708	(1.922)	216	-3	9
1-2.幸福感の変化(H24: 同4~7)	0.117	(1.586)	2125	-6	6
1-3.幸福感の変化(H24: 同8~10)	-0.837	(1.545)	1709	-10	2
2. 健康感の変化(悪化-1、変化なし0、改善1)	-0.140	(0.688)	4012	-1	1
3. 生活費やりくり難(変化)(困難の増加+)	0.024	(0.803)	3992	-4	3
4. ライフイベント(イベントに該当2、それ以外1)					
(1) 本人の結婚	1.048	(0.213)	4023	1	2
(2) 子の誕生	1.032	(0.176)	4021	1	2
(3) 離婚	1.027	(0.162)	4022	1	2
(4) 配偶者と死別	1.034	(0.182)	3977	1	2
5. 収入・資産の変化					
(5) 収入・資産の増加(増加1、それ以外0)	0.073	(0.259)	3847	0	1
(6) 収入・資産の減少(減少1、それ以外0)	0.144	(0.351)	3869	0	1
6. 以下の事柄に対する不安(変化)(不安の増大+)					
(1) 失業	-0.263	(1.242)	3815	-4	4
(2) 食品の安全	0.107	(1.158)	3962	-4	4
(3) 子どもの将来	-0.153	(1.199)	3829	-4	4
(4) 治安	-0.012	(1.164)	3939	-4	4
(5) 自然災害	-0.006	(1.100)	3964	-4	4
(6) 放射能汚染	-0.030	(1.190)	3952	-4	4
(7) 老後の生活費	-0.118	(1.019)	3970	-4	4
(8) 過労死	-0.182	(1.243)	3929	-4	4
(9) 孤独死	-0.154	(1.242)	3961	-4	4
7. 住んでいる周りの環境(変化)(不満の増加+)					
(1) 騒音	0.056	(1.069)	4007	-4	4
(2) 大気汚染	0.026	(1.069)	3986	-4	4
(3) 公園や緑地が近くにない	0.042	(1.069)	3996	-4	4
(4) 水質	0.031	(0.996)	3980	-4	4
(5) 犯罪、暴力、破壊行為	0.061	(1.040)	3980	-4	4
(6) 街頭でのゴミや廃棄物	0.054	(1.095)	4007	-4	4

表 2-2 によると、幸福感の低かったグループでは平均で幸福感が上昇し、平均的なグループでは大きな変化がなく、高かったグループでは平均で幸福感が低下している。対象人数としては、幸福感の高いグループがはるかに多いことから、幸福感の高かった層での低下が全体の平均値の低下として反映されている可能性がある。

表 2-3 の推計結果によると、健康状態の変化、生活費のやりくり難に加え、失業や孤独死に対する不安、さらに身の周りの生活環境では、「犯罪、暴力、破壊行為」や「街頭でのゴミや廃棄物」が幸福感の低下に有意に相関している。

また、幸福感の水準別にみた推計結果も健康状態の変化、生活費のやりくり難は平均以上の幸福感を持つ層に有意に相関するが、本人の資産・収入の変化は、減少した場合において、幸福感の低い層でより一層幸福感が低下する傾向が認められる。

ライフイベントについては、子の誕生は幸福感を高める関係にあるが、特に幸福感が平均以上に高い層で有意となっている。不安要因については、幸福感の比較的高い層において、失業、食の安全、老後の生活費や孤独死への不安が幸福感の低下と相関がみられた。また、身の周りの生活環境については、「犯罪、暴力、破壊行為」や「街頭でのごみや廃棄物」に加え、「騒音」「公園や緑地が近くにない」は幸福感の高い層で幸福感の変化と相関が強い。

表2-3 幸福感の変化と各要因の変化との関係

△幸福感	推計1 推計値 (標準偏差)	推計1-1(幸福感0~3) 推計値 (標準偏差)	推計1-2 (幸福感4~7) 推計値 (標準偏差)	推計1-3 (幸福感8~10) 推計値 (標準偏差)
性別 (女性=0、男性=1)	0.068 (0.036)	0.078 (0.177)	-0.001 (0.050)	0.242 (0.056) ****
年齢	0.001 (0.001)	-0.003 (0.005)	0.002 (0.002)	0.002 (0.002) **
健康状態 (状態の変化) (悪化-1、変化なし0、改善+1)	0.152 (0.027) ****	0.044 (0.120)	0.137 (0.036) ****	0.130 (0.042) ***
生活費やりくり(困難度の変化)	-0.115 (0.024) ****	0.121 (0.084)	-0.130 (0.035) ****	-0.072 (0.040) *
収入・資産の増加 (有1、無0)	0.036 (0.071)	0.236 (0.250)	0.069 (0.101)	0.006 (0.103)
収入・資産の減少 (有1、無0)	-0.040 (0.053)	-0.828 (0.199) ****	-0.140 (0.071) **	-0.050 (0.092)
本人の結婚 (有1、無し0)	0.063 (0.194)	0.935 (0.551) *	0.024 (0.349)	0.155 (0.247)
子の誕生 (有1、無し0)	0.229 (0.128) *	1.018 (0.690)	0.568 (0.254) **	0.407 (0.164) **
離婚 (有1、無し0)	0.275 (0.357)	-0.014 (0.388)	0.711 (0.288) **	-0.453 (0.633)
配偶者と死別 (有1、無し0)	-0.199 (0.254)	-1.384 (0.440) ***	-0.413 (0.404)	-0.283 (0.307)
以下の事象に対する不安(変化) (不安の増大+)				
(1)失業	-0.043 (0.016) ***	-0.127 (0.082)	-0.052 (0.021) **	-0.036 (0.024)
(2)食品の安全	0.031 (0.018) *	-0.034 (0.095)	0.062 (0.026) **	0.026 (0.027) **
(3)子どもの将来	-0.005 (0.018)	-0.044 (0.083)	-0.038 (0.025) **	0.043 (0.026)
(4)治安	-0.004 (0.019)	-0.153 (0.091) *	0.025 (0.028)	0.001 (0.028)
(5)自然災害	0.057 (0.022) ***	0.098 (0.111)	0.053 (0.031) *	0.039 (0.031)
(6)放射能汚染	-0.002 (0.019)	-0.045 (0.072)	0.020 (0.026)	-0.007 (0.029)
(7)老後の生活費	-0.035 (0.021)	0.103 (0.110)	-0.037 (0.030) **	-0.083 (0.030) ***
(8)過労死	-0.007 (0.019)	-0.053 (0.078)	-0.038 (0.026)	0.003 (0.030)
(9)孤独死	-0.055 (0.018) ***	0.078 (0.071)	-0.040 (0.025)	-0.059 (0.027) **
住んでいる周りの環境(変化) (不満の増加+)				
(1)騒音	-0.039 (0.022)	-0.064 (0.076)	-0.027 (0.031)	-0.065 (0.032) **
(2)大気汚染	0.014 (0.022)	0.036 (0.080)	0.029 (0.030)	0.005 (0.034)
(3)公園や緑地が近くにない	-0.035 (0.021) *	-0.050 (0.082)	-0.023 (0.028) **	-0.070 (0.031) **
(4)水質	-0.005 (0.024)	-0.141 (0.095)	-0.003 (0.033)	-0.001 (0.038)
(5)犯罪、暴力、破壊行為	-0.058 (0.023) **	0.083 (0.103)	-0.074 (0.032) **	-0.053 (0.035)
(6)街頭でのごみや廃棄物	0.060 (0.020) ***	-0.038 (0.103)	0.028 (0.029)	0.094 (0.032) ***
サンプル数	n=3262	n=164	n=1668	n=1410
対数尤度	-6176.1523	-317.96716	-3089.1723	-2408.8204
LRテスト	Wald $\chi^2(25)=132.39$ p<.001	Wald $\chi^2(24)=$ p<0.05	Wald $\chi^2(25)=101.78$ p<.001	Wald $\chi^2(25)=95.29$ p<.001

- (注) 1. 被説明変数には、幸福感(0~11段階)の前回調査との差分を用いた。また、合わせて24年度調査時の幸福感が0~3(幸福感が低い層)、4~7(平均近く)、8~10(幸福感が高い層)についても差分に対する推計を行った。分布はよく用いられる正規分布を仮定し、順序プロビットにより推計した。
2. 説明変数については、既存文献等を参考に性別、年齢、健康状態の変化(3段階)、生活費算段の困難さの変化、さらに過去1年間で結婚、出産など世帯構成員に変更が生じた出来事、世帯年収の増減(それぞれ1割以上の変化なし0に対し増1、減1)の各変数を考慮した。
3. 「生活費のやりくり」がどの程度困難か(5段階)に対する回答を変数として用いた。また、事象に対する不安の変化の程度、身の周りのことに対する不満の程度(それぞれ値の増加は不安、不満の増加)も合わせて確認した。
4. *: p<.10, **: p<.05, ***: p<.001, ****: p<.0001

(3) 地域社会とのつながりと幸福感との関係

幸福感の判断の際に「地域コミュニティとの関係」を重視する人がどの程度いるかを見ると、若年層は5%未満と非常に低いが、30歳代以降は割合が上昇し、50歳代までは1割程度となり、60歳以上では2割前後となるなど高年齢層で重視していることが分かる。また、都市規模別に見ると、人口5万人未満の町村で重視する人が多いが、それ以外の都市規模では、10万人以上の市で若干高いほかは概ね1割強となっており大きな違いはみられない（表3-1）。

表3-1 幸福感判断の際に地域コミュニティとの関係を重視している人の割合

①性別

	男性	女性
24年度	12.5% (n=231)	10.9% (n=242)
25年度	14.2% (n=262)	11.6% (n=256)

②年齢階層別

	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
24年度	4.3%	4.0%	9.8%	8.7%	13.1%	15.9%	20.1%
25年度	3.9%	4.6%	9.1%	10.7%	11.7%	19.2%	23.7%

③都市規模別

	100万人以上の市	20万人以上の市	10万人以上の市	5万人以上の市町村	5万人未満の市町村
24年度	11.3%	10.8%	12.4%	10.9%	13.2%
25年度	12.3%	11.0%	12.6%	11.9%	17.0%

「社会的接触頻度」については、24年度、25年度の両年度で調査項目となっていることから、その変化と幸福感との関係を見ると、配偶者、子ども、友人、恋人との社会的接触頻度は幸福感の上昇と正の相関を有している。一方、回答者の両親や配偶者の両親との接触は幸福感の低下と相関を有しているとの結果になっており、親族においても接触頻度が高いと幸福感が高まるという単純な関係にないことが分かる（表3-2①）。

また、幸福感の高かった人がその後接触頻度を増やしている逆の因果関係がないかを見ると（表3-2②）、24年度調査で幸福感の高かった層では、一部で配偶者や子どもとの接触頻度を増やしていることがうかがわれる。これに対し、友人との接触頻度を低下させている人も増えている傾向もみられる。

表3-2① 社会的接触頻度と幸福感の変化

(対象となる相手側)	相関係数 ρ	回答者数
配偶者	-0.045 **	n=2,804
回答者の子ども	0.015	n=2,829
回答者の両親	-0.099 ***	n=2,783
配偶者の両親	0.017	n=1,858
回答者の兄弟姉妹	-0.042 **	n=3,573
配偶者の兄弟姉妹	0.040 **	n=2,680
その他の親族	0.009 ***	n=3,567
友人	0.068 ***	n=3,732
恋人	0.042	n=353

(注) ρ (スピアマンの順位相関) の符号は、正の場合、接触頻度が高いと幸福感が高い傾向にあることを示す。また、*は相関係数がゼロと有意に異なることを示す(**<.05, ***<.01)。

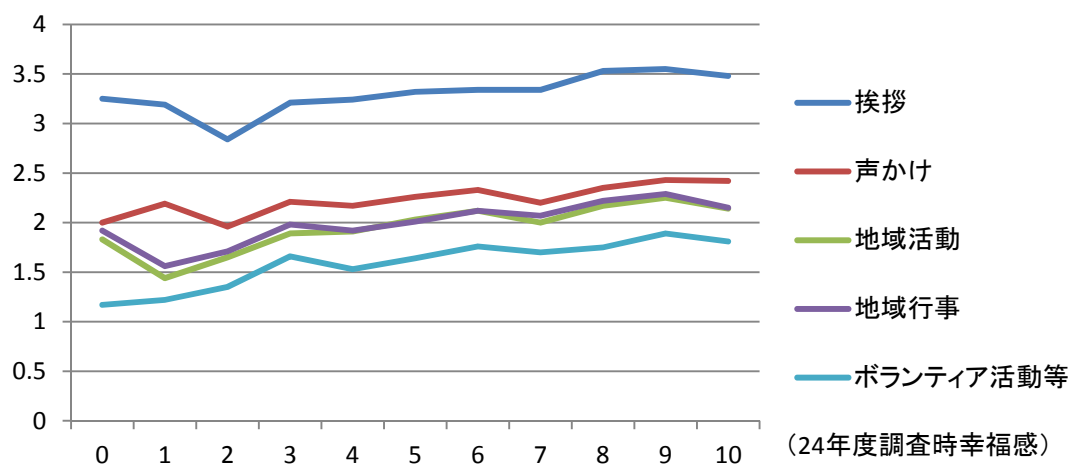
表3-2② 24年度調査時幸福感別の社会的接触頻度の変化

	幸福感0~3		幸福感4~7		幸福感8~10	
	頻度低下(割合)	頻度増加(割合)	頻度低下(割合)	頻度増加(割合)	頻度低下(割合)	頻度増加(割合)
配偶者	10 (4.8%)	100 (90.9%)	56 (4.2%)	1282 (95.8%)	69 (5.4%)	1209 (94.6%)
回答者の子ども	22 (9.7%)	102 (90.3%)	181 (12.9%)	1217 (87.1%)	182 (14.4%)	1078 (85.6%)
回答者の両親	24 (9.3%)	117 (90.7%)	181 (12.6%)	1251 (87.4%)	184 (15.8%)	983 (84.2%)
配偶者の両親	12 (8.9%)	61 (91.1%)	134 (16.0%)	702 (84.0%)	148 (17.4%)	700 (82.6%)
回答者の兄弟姉妹	37 (11.7%)	139 (88.3%)	305 (16.6%)	1527 (83.4%)	279 (18.6%)	1221 (81.4%)
配偶者の兄弟姉妹	21 (11.9%)	78 (88.1%)	213 (17.5%)	1007 (82.5%)	228 (19.1%)	963 (80.9%)
その他の親族	31 (10.4%)	134 (89.6%)	356 (20.3%)	1396 (79.7%)	293 (19.8%)	1183 (80.2%)
友人	37 (12.0%)	135 (88.0%)	448 (24.0%)	1419 (76.0%)	413 (26.4%)	1150 (73.6%)
恋人	2 (9.0%)	10 (90.9%)	25 (24.0%)	79 (76.0%)	29 (31.2%)	63 (68.7%)

(注) 1. 恋人との接触頻度があり幸福感3以下の回答者は12と非常に少ない。

2. () は対象者との接触頻度が低下した割合(%)を示す。

(活動頻度) 図3-1 24年度調査時の幸福感水準別地域活動等頻度



次に、幸福感の程度により地域活動等への参加程度がどの程度異なるかを見ると（図 3-1）、「近所への挨拶」「近所の高齢者への声かけ」は幸福感の高い層ほど活動が盛んになる傾向がみられる。幸福感の程度と地域活動への参加頻度との間には緩やかではあるものの、一定の正の相関がみられる。

このような関係は、大都市、中規模都市、町村など都市規模によっても変わりなく見られるものかについて、幸福感と地域活動、ボランティア活動への参加状況等の変数を用い順序プロビットモデルにより、主な都市規模別に確認する（表 3-3）。

この結果によると、健康状態、自治体への信頼、近所への挨拶といった地域とのコミュニティとの基本的な関係に関わるものは都市規模にかかわらず有意となっている。また、就業状態については、就業していない場合に比べ、幸福感が低くなる関係にあるが、いずれも都市規模においても有意ではなかった。

地域行事、地域活動への参加、ボランティアへの参加頻度の幸福感との相関は、都市規模別に見ると、大都市では幸福感に正に相関する一方、都市規模が小さくなり町村レベルに近づくほど地域的なつながりが強くなることで参加が義務的となり、特に、人口規模の小さい都市や町村でこれらの活動への参加が幸福感と負に相関する可能性を想定した。しかし、実際の推計結果を見ると、ボランティア活動への参加は、人口 100 万人以上の大都市でのみ正に有意となった。また、地域活動は、都市規模によって幸福感との関係が正、または負に有意となる場合があり、都市規模が小さくなるほど地域的なつながりが強くなるとの一義的な関係は確認できなかった。むしろ、防災訓練や町会活動は都市規模とは別の要因が働いている可能性もある。地域行事についても同様であり、人口 10 万人以上の都市でのみ正に相関がみられた。

表3-3 都市規模別にみた地域活動等と幸福感の関係

	①人口100万人以上の市(幸福感:0~10)		②人口20万人以上の市(幸福感:0~10)		③人口10万人以上の市(幸福感:0~10)	
性別(女性=0)	0.053	(0.090)	0.157 **	(0.069)	0.138	(0.093)
年齢	-0.002	(0.003)	-0.004	(0.002)	0.007 **	(0.003)
健康状況	0.216 ****	(0.042)	0.248 ****	(0.035)	0.315 ****	(0.049)
就業状態	-0.042	(0.097)	-0.052	(0.076)	-0.131	(0.105)
資産・収入(増)	0.158	(0.170)	-0.398 ***	(0.133)	0.161	(0.179)
資産・収入(減)	0.123	(0.122)	-0.002	(0.096)	-0.436 ****	(0.146)
子の誕生	0.503 **	(0.248)	0.249	(0.209)	0.600 *	(0.308)
配偶者と死別	-0.566	(0.475)	0.892 *	(0.497)	-1.891 **	(0.748)
自治体への信頼	0.227 ****	(0.052)	0.233 ****	(0.040)	0.181 ****	(0.052)
近所への挨拶	0.145 **	(0.066)	0.114 **	(0.052)	0.050	(0.067)
地域活動	-0.153 *	(0.080)	0.149 **	(0.064)	-0.217 ****	(0.080)
地域行事	0.093	(0.081)	-0.079	(0.063)	0.180 **	(0.078)
ボランティア活動等	0.155 **	(0.066)	-0.043	(0.050)	0.101	(0.064)
対数尤度	n=560 -1075.7446		n=930 -1782.9907		n=523 -1001.9065	
LRテスト	Wald chi2(13) = 85.52 p<.0001		Wald chi2(13) = 132.65 p<.0001		Wald chi2(13) = 96.53 p<.0001	
	④人口5万人以上の市町村(幸福感:0~10)		⑤人口5万人未満の市町村(幸福感:0~10)		⑥都市規模について無回答(幸福感:0~10)	
性別(女性=0)	-0.224 ***	(0.086)	0.155 *	(0.085)	0.142	(0.110)
年齢	-0.004	(0.003)	-0.004	(0.003)	0.003	(0.004)
健康状況	0.245 ****	(0.044)	0.248 ****	(0.040)	0.341 ****	(0.057)
就業状態	-0.210 **	(0.093)	-0.046	(0.093)	0.023	(0.120)
資産・収入(増)	0.255	(0.177)	0.089	(0.158)	-0.010	(0.230)
資産・収入(減)	-0.283 **	(0.120)	-0.421 ****	(0.128)	-0.115	(0.172)
子の誕生	0.050	(0.287)	0.583 **	(0.251)	0.102	(0.343)
配偶者と死別	-0.273	(0.428)	-0.518	(0.334)	-1.042 **	(0.434)
自治体への信頼	0.167 ****	(0.047)	0.224 ****	(0.048)	0.211 ****	(0.064)
近所への挨拶	0.301 ****	(0.062)	0.173 ***	(0.064)	-0.053	(0.086)
地域活動	-0.004	(0.080)	0.189 **	(0.083)	-0.121 **	(0.105)
地域行事	0.035	(0.080)	-0.096	(0.081)	0.112 **	(0.102)
ボランティア活動等	0.030	(0.059)	0.053	(0.058)	0.106	(0.077)
対数尤度	n=612 -1160.4187		n=604 -1165.8142		n=382 -728.0537	
LRテスト	Wald chi2(13) = 100.54 p<.0001		Wald chi2(13) = 114.43 p<.0001		Wald chi2(13) = 65.77 p<.0001	

- (注) 1. 被説明変数として、回答者が11段階で回答した幸福感をとり、その分布としてよく用いられる正規分布を仮定。24年度調査、25年度調査とも回答のあった4066人を対象に順序プロビットモデルにより推計。
2. 説明変数として性別、年齢、健康感(5段階、健康でない-2~健康である2)、就労状態(就労している1、その他0)、本人資産・収入の増減(増1、減1、その他0)等を用いた。
3. 別途相関を確認した変数のうち、「自治体への信頼(-2~2)」「近所への挨拶(1~4)」を用いた。
4. ライフイベント、地域活動、地域行事、ボランティア等への参加の設問は25年度調査のみである。
5. *: p<.10, **: p<.05, ***: p<.001, ****: p<.0001

(4) 就労状況の変化と幸福感

表 4-1 は 24 年度調査から 25 年度調査にむけての就労状況の変化別に、25 年度調査の現在の幸福感の平均値を見たものである。

まず、現在の幸福感の平均値については、就労状況に関係なく、6 ポイント台であり、就労状況の変化による影響は小さいと思われるが、傾向を読み解くと、25 年度調査において「正規雇用」である者の幸福感が相対的に高いと言える。9 類型の中でもっとも平均値が高かったのは、「24 年度調査では働いていなかったが 25 年度調査では正規就労していた (6.92)」であり、次に「24 年度調査でも 25 年度調査でも正規雇用であった者 (6.77)」が高い。

表 4-1 就労状況の推移別 今回調査の現在の幸福感

	25 年度調査での現在の幸福感		
	平均値	標準偏差	回答者数
24 年度調査で正規 →25 年度調査で正規	6.77	1.82	899
24 年度調査で正規 →25 年度調査で非正規	6.55	2.02	40
24 年度調査で正規 →25 年度調査で働いていない (非就労)	6.53	2.47	51
24 年度調査で非正規 →25 年度調査で正規	6.51	2.10	59
24 年度調査で非正規 →25 年度調査で非正規	6.56	1.88	633
24 年度調査で非正規 →25 年度調査で働いていない (非就労)	6.57	2.33	90
24 年度調査で働いていない (非就労) →25 年度調査で正規	6.92	2.52	37
24 年度調査で働いていない (非就労) →25 年度調査で非正規	6.70	1.95	100
24 年度調査で働いていない (非就労) →25 年度調査で働いていない (非就労)	6.68	1.96	952
全体	6.67	1.93	2861

(以上)

平成25年度 生活の質に関する世帯調査【個人調査票】 単純集計表

上段：実数
下段：割合（％）

※回答の構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%にならない場合がある。
※調査対象数が3以下の場合には調査結果の秘密保護の観点から、該当結果を「x」表示とする秘匿措置を施している。
なお、全体（計）からの差し引きにより該当結果が推定できる場合には、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「x」表示としている。

問1 あなたは現在、どの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。
いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	0点 とても 不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても 幸せ	無回答	平均 (点)
4066 100.0	12 0.3	28 0.7	35 0.9	142 3.5	240 5.9	821 20.2	489 12.0	743 18.3	869 21.4	356 8.8	323 7.9	8 0.2	27110 6.68

問2 あなたは今から5年前、どの程度幸せでしたか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、
何点くらいになると思いますか。
いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	0点 とても 不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても 幸せ	無回答	平均 (点)
4066 100.0	19 0.5	32 0.8	58 1.4	174 4.3	252 6.2	858 21.1	579 14.2	749 18.4	751 18.5	326 8.0	262 6.4	6 0.1	26247 6.46

問3 あなたは今から5年後、どの程度幸せだと思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、
何点くらいになると思いますか。
いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	0点 とても 不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても 幸せ	無回答	平均 (点)
4066 100.0	18 0.4	39 1.0	61 1.5	185 4.5	256 6.3	766 18.8	478 11.8	632 15.5	804 19.8	432 10.6	383 9.4	12 0.3	27012 6.66

問4 「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とした場合、あなたはどの程度幸福であることを理想の状態と考えますか。
いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	0点 とても 不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても 幸せ	無回答	平均 (点)
4066 100.0	- -	7 0.2	5 0.1	32 0.8	34 0.8	374 9.2	225 5.5	641 15.8	1238 30.4	672 16.5	809 19.9	29 0.7	31998 7.93

問5 あなたが前問までの幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。
次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

総数	家計の 状況 (所得 ・消費)	就業状況 (仕事の 有無 ・安定)	健康状況	自由な 時間 ・充実 した余暇	仕事の やりがい	社会貢献	家族関係	友人関係	職場の 人間関係	地域 コミュニ ティー との関係	その他	無回答	回答計
4066 100.0	2965 72.9	1414 34.8	3197 78.6	2260 55.6	1262 31.0	448 11.0	2853 70.2	1713 42.1	889 21.9	518 12.7	95 2.3	12 0.3	17626 4.33

問6 次に昨日、どのように感じたかを0から10の尺度でお伺いします。
0はそれぞれの感情を「全く」感じなかったことを意味し、10はその感情を昨日「常に」感じていたことを意味します。
それぞれいずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ1つ）

1. 喜び

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	108 2.7	66 1.6	109 2.7	312 7.7	205 5.0	1139 28.0	466 11.5	625 15.4	580 14.3	188 4.6	233 5.7	35 0.9	23568 5.85

2. 穏やかさ

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	85 2.1	51 1.3	124 3.0	275 6.8	253 6.2	1091 26.8	453 11.1	623 15.3	607 14.9	229 5.6	237 5.8	38 0.9	23957 5.95

3. 心配

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	328 8.1	217 5.3	361 8.9	497 12.2	324 8.0	904 22.2	370 9.1	376 9.2	336 8.3	145 3.6	159 3.9	49 1.2	18681 4.65

4. 悲しみ

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	1225 30.1	394 9.7	500 12.3	514 12.6	252 6.2	643 15.8	145 3.6	104 2.6	123 3.0	40 1.0	67 1.6	59 1.5	10771 2.69

問 6 次に昨日、どのように感じたかを 0 から 10 の尺度でお伺いします。
0 はそれぞれの感情を「全く」感じなかったことを意味し、10 はその感情を昨日「常に」感じていたことを意味します。
それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ 1 つ)

5. 幸せ

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	106 2.6	65 1.6	100 2.5	206 5.1	237 5.8	1159 28.5	430 10.6	591 14.5	610 15.0	247 6.1	258 6.3	57 1.4	24026 5.99

6. 憂うつ

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	932 22.9	413 10.2	473 11.6	460 11.3	258 6.3	653 16.1	235 5.8	235 5.8	178 4.4	83 2.0	91 2.2	55 1.4	13172 3.28

7. 怒り

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	935 23.0	494 12.1	544 13.4	478 11.8	259 6.4	631 15.5	209 5.1	197 4.8	130 3.2	63 1.5	70 1.7	56 1.38	12147 3.03

8. ストレス

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	493 12.1	350 8.6	463 11.4	466 11.5	300 7.4	725 17.8	275 6.8	321 7.9	308 7.6	132 3.2	185 4.5	48 1.2	16898 4.21

9. 肉体的苦痛

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	1025 25.2	414 10.2	423 10.4	461 11.3	249 6.1	676 16.6	207 5.1	191 4.7	163 4.0	74 1.8	116 2.9	67 1.6	12728 3.18

10. たくさん笑った

総数	0 全く感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に感じ ていた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	145 3.6	119 2.9	247 6.1	383 9.4	294 7.2	1074 26.4	395 9.7	455 11.2	426 10.5	206 5.1	286 7.0	36 0.9	21985 5.46

問 7 過去 30 日間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。
それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ 1 つ)

1. 神経過敏に感じましたか

総数	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答
4066 100.0	1069 26.3	1304 32.1	1221 30.0	314 7.7	124 3.0	34 0.8

2. 絶望的に感じましたか

総数	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答
4066 100.0	2282 56.1	969 23.8	585 14.4	137 3.4	56 1.4	37 0.9

3. そわそわしたり、落ち着かなく感じましたか

総数	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答
4066 100.0	1479 36.4	1373 33.8	913 22.5	204 5.0	61 1.5	36 0.9

4. 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか

総数	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答
4066 100.0	1597 39.3	1282 31.5	829 20.4	248 6.1	78 1.9	32 0.8

5. 何をやるにも骨折りと感じましたか

総数	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答
4066 100.0	1575 38.7	1325 32.6	851 20.9	202 5.0	77 1.9	36 0.9

問7 過去30日間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。
 それぞれいずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)

6. 自分は価値のない人間だと思いましたか

総数	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも	無回答
4066 100.0	2265 55.7	891 21.9	678 16.7	127 3.1	75 1.8	30 0.7

問7〔K6(合計値)〕

総数	0～4点	5～9点	10～14点	15～19点	20～24点	無回答	平均 (点)
4066 100.0	1921 47.2	1256 30.9	621 15.3	157 3.9	36 0.9	75 1.8	22328 5.52

問8 あなた自身やあなたが人生で感じたことについてお伺いします。どのように感じたかを示すのに、0から10の尺度を用いてください。
 0は「全くそう思わない」を意味し、10は「非常にそう思う」を意味します。
 それぞれいずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)

1. 自分自身とても前向きな方だと感じている

総数	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常にそ う思う	無回答	平均 (点)
4066 100.0	134 3.3	105 2.6	218 5.3	407 10.0	308 7.6	951 23.4	408 10.0	553 13.6	519 12.8	179 4.4	251 6.2	33 0.8	22341 5.54

2. いつも将来には楽観的である

総数	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常にそ う思う	無回答	平均 (点)
4066 100.0	140 3.4	111 2.7	229 5.6	450 11.1	350 8.6	995 24.5	466 11.5	532 13.1	440 10.8	140 3.4	172 4.2	41 1.0	21314 5.30

3. 自由に生き方を決めることができる

総数	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常にそ う思う	無回答	平均 (点)
4066 100.0	206 5.1	117 2.9	233 5.7	436 10.7	333 8.2	1008 24.8	382 9.4	492 12.1	438 10.8	162 4.0	220 5.4	39 1.0	21161 5.25

4. だいたいとして、自分が行っていることは重要で価値がある

総数	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常にそ う思う	無回答	平均 (点)
4066 100.0	139 3.4	116 2.9	224 5.5	421 10.4	358 8.8	1246 30.6	423 10.4	440 10.8	362 8.9	127 3.1	167 4.1	43 1.1	20816 5.17

5. ほげ毎日、自分が行ったことに達成感を感じる

総数	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常にそ う思う	無回答	平均 (点)
4066 100.0	161 4.0	173 4.3	314 7.7	552 13.6	442 10.9	1111 27.3	440 10.8	358 8.8	280 6.9	100 2.5	92 2.3	43 1.1	18986 4.72

6. 悪いことが起きると、元に戻るのに費して時間がかかる

総数	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常にそ う思う	無回答	平均 (点)
4066 100.0	167 4.1	187 4.6	358 8.8	538 13.2	369 9.1	1094 26.9	372 9.1	383 9.4	291 7.2	83 2.0	185 4.5	39 1.0	19301 4.79

問8〔肯定的感情経験〕

総数	0点	0点台	1点台	2点台	3点台	4点台	5点台	6点台	7点台	8点台	9点台	10点	無回答	平均 (点)
4066 100.0	29 0.7	31 0.8	77 1.9	149 3.7	282 6.9	521 12.8	997 24.5	662 16.3	610 15.0	362 8.9	172 4.2	84 2.1	90 2.2	23100 5.81

問8〔否定的感情経験〕

総数	0点	0点台	1点台	2点台	3点台	4点台	5点台	6点台	7点台	8点台	9点台	10点	無回答	平均 (点)
4066 100.0	115 2.8	334 8.2	555 13.6	641 15.8	654 16.1	548 13.5	570 14.0	271 6.7	124 3.0	58 1.4	22 0.5	14 0.3	160 3.9	13636 3.49

問8〔感情経験バランス(合計値)〕

総数	-10点	-9点台	-8点台	-7点台	-6点台	-5点台	-4点台	-3点台	-2点台	-1点台	-0点台	0点	0点台
1382 100.0	4 0.3	5 0.4	5 0.4	16 1.2	25 1.8	27 2.0	43 3.1	75 5.4	131 9.5	199 14.4	317 22.9	181 13.1	354 25.6

1点台	2点台	3点台	4点台	5点台	6点台	7点台	8点台	9点台	10点	無回答	平均 (点)
404 29.2	407 29.5	407 29.5	377 27.3	306 22.1	255 18.5	163 11.8	101 7.3	38 2.7	14 1.0	212 15.3	8820 7.54

問 9 次に、過去 1 週間にあなたが感じたかもしれない気持ちについてお伺いします。0 から 10 の尺度で、0 は以下のような気持ちを「全く感じなかった」ことを意味し、10 は以下のような気持ちを「常に感じた」ことを意味します。過去 1 週間どの程度であったか、それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ 1 つ）

1. 元気がいいであった

総数	0 全く 感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に 感じた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	102 2.5	75 1.8	176 4.3	385 9.5	323 7.9	1072 26.4	390 9.6	554 13.6	521 12.8	190 4.7	238 5.9	40 1.0	22710 5.64

2. 穏やかであった

総数	0 全く 感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に 感じた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	62 1.5	67 1.6	131 3.2	281 6.9	311 7.6	1075 26.4	460 11.3	563 13.8	635 15.6	225 5.5	220 5.4	36 0.9	23797 5.90

3. 孤独であった

総数	0 全く 感じ なかった	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 常に 感じた	無回答	平均 (点)
4066 100.0	1357 33.4	421 10.4	416 10.2	426 10.5	260 6.4	600 14.8	152 3.7	158 3.9	105 2.6	63 1.5	64 1.6	44 1.1	10636 2.64

問 10 あなたは全体として最近の生活にどの程度満足していますか。
「全く満足していない」を 0 点、「非常に満足している」を 10 点とすると、何点くらいになると思いますか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。（○は 1 つ）

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	63 1.5	59 1.5	108 2.7	265 6.5	323 7.9	707 17.4	482 11.9	754 18.5	757 18.6	304 7.5	194 4.8	50 1.2	24799 6.18

問 11 次の質問は生活の各局面であなたがどの程度満足を感じているかを伺うものです。
各生活局面で「全く満足していない」を 0 点、「非常に満足している」を 10 点とすると何点くらいになりますか。
それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ 1 つ）

1. 仕事

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	168 4.1	105 2.6	172 4.2	314 7.7	197 4.8	717 17.6	351 8.6	455 11.2	443 10.9	153 3.8	152 3.7	749 18.4	90 2.2	17496 5.42

2. 住居

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	94 2.3	48 1.2	112 2.8	238 5.9	216 5.3	757 18.6	344 8.5	563 13.8	720 17.7	421 10.4	478 11.8	29 0.7	46 1.1	25969 6.51

3. 生活水準（消費生活）

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	129 3.2	69 1.7	164 4.0	335 8.2	303 7.5	882 21.7	409 10.1	616 15.2	573 14.1	274 6.7	251 6.2	61 1.5	23350 5.83

4. 人生で達成しているもの

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	131 3.2	100 2.5	195 4.8	401 9.9	357 8.8	1151 28.3	406 10.0	507 12.5	446 11.0	153 3.8	129 3.2	90 2.2	21096 5.31

5. 自分の学歴

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	190 4.7	106 2.6	178 4.4	356 8.8	333 8.2	1242 30.5	332 8.2	449 11.0	413 10.2	200 4.9	199 4.9	68 1.7	21301 5.33

6. 人間関係

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	63 1.5	34 0.8	104 2.6	222 5.5	218 5.4	1093 26.9	394 9.7	678 16.7	681 16.7	298 7.3	232 5.7	49 1.2	24805 6.18

問 1 1 次の質問は生活の各局面であなたがどの程度満足を感じているかを何うものです。
各生活局面で「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると何点くらいになりますか。
それぞれいずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)

7. 家庭生活

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	56 1.4	28 0.7	65 1.6	162 4.0	180 4.4	778 19.1	290 7.1	580 14.3	845 20.8	502 12.3	461 11.3	61 1.5	58 1.4	26942 6.83

8. 子育て

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	94 2.3	27 0.7	45 1.1	103 2.5	108 2.7	589 14.5	213 5.2	356 8.8	511 12.6	256 6.3	213 5.2	1424 35.0	127 3.1	16095 6.40

9. 子育て支援サービス

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	149 3.7	41 1.0	95 2.3	160 3.9	133 3.3	837 20.6	141 3.5	214 5.3	169 4.2	79 1.9	49 1.2	1829 45.0	170 4.2	10325 5.00

10. 健康

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	105 2.6	53 1.3	139 3.4	309 7.6	301 7.4	948 23.3	366 9.0	604 14.9	620 15.2	282 6.9	249 6.1	90 2.2	23614 5.94

11. 医療サービス

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	89 2.2	53 1.3	116 2.9	245 6.0	206 5.1	1119 27.5	310 7.6	392 9.6	370 9.1	131 3.2	119 2.9	816 20.1	100 2.5	17372 5.51

12. 看病、介護、身の回りの世話等の際の外部サポート体制

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	該当 しない	無回答	平均 (点)
4066 100.0	110 2.7	48 1.2	105 2.6	217 5.3	162 4.0	886 21.8	175 4.3	186 4.6	168 4.1	73 1.8	47 1.2	1776 43.7	113 2.8	10810 4.97

13. 地域社会への帰属感

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	145 3.6	84 2.1	155 3.8	404 9.9	319 7.8	1718 42.3	327 8.0	356 8.8	275 6.8	74 1.8	81 2.0	128 3.1	19602 4.98

14. 将来の安全・安心感

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	280 6.9	189 4.6	355 8.7	602 14.8	419 10.3	1024 25.2	330 8.1	356 8.8	292 7.2	88 2.2	57 1.4	74 1.8	17671 4.43

15. 好きなことを行う時間の長さ

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	181 4.5	137 3.4	264 6.5	446 11.0	284 7.0	1001 24.6	341 8.4	465 11.4	435 10.7	224 5.5	231 5.7	57 1.4	21251 5.30

16. 生活における時間配分

総数	0 全く 満足して いない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に 満足して いる	無回答	平均 (点)
4066 100.0	139 3.4	121 3.0	228 5.6	421 10.4	342 8.4	1167 28.7	356 8.8	464 11.4	411 10.1	180 4.4	173 4.3	64 1.6	21065 5.26

問１２ あなたは以下についてどの程度、不安を感じますか。それぞれいずれかの数字を１つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ１つ）

１．失業

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	528 13.0	926 22.8	839 20.6	809 19.9	828 20.4	136 3.3	1454 35.8	1637 40.3

２．食品の安全

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	740 18.2	1515 37.3	837 20.6	760 18.7	168 4.1	46 1.1	2255 55.5	2352 57.8

３．子どもの将来

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	915 22.5	1305 32.1	919 22.6	440 10.8	360 8.9	127 3.1	2220 54.6	2224 54.7

４．治安

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	457 11.2	1396 34.3	1046 25.7	895 22.0	215 5.3	57 1.4	1853 45.6	2442 60.1

５．自然災害

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	1124 27.6	1627 40.0	707 17.4	456 11.2	109 2.7	43 1.1	2751 67.7	2334 57.4

６．放射能汚染

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	783 19.3	1408 34.6	842 20.7	660 16.2	320 7.9	53 1.3	2191 53.9	2250 55.3

７．老後の生活費

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	1477 36.3	1417 34.8	570 14.0	399 9.8	162 4.0	41 1.0	2894 71.2	1987 48.9

８．過労死

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	335 8.2	636 15.6	1086 26.7	1064 26.2	876 21.5	69 1.7	971 23.9	1722 42.4

９．孤独死

総数	常に 感じる	少し 感じる	どちら とも いえない	あまり 感じない	全く 感じない	無回答	感じる (計)	感じない (計)
4066 100.0	372 9.1	751 18.5	1072 26.4	986 24.2	837 20.6	48 1.2	1123 27.6	1823 44.8

問１３ お住まいの地域で、夜に一人で歩くとき、どの程度安全だと感じますか。
いずれかの数字を１つだけ○で囲んでください。（○は１つ）

総数	とても 安全だと 感じる	やや 安全だと 感じる	どちら とも いえない	あまり 安全だと 感じない	安全だと 全く 感じない	無回答	安全だと 感じる (計)	安全だと 感じない (計)
4066 100.0	460 11.3	1484 36.5	1166 28.7	770 18.9	157 3.9	29 0.7	1944 47.8	2650 65.2

問 1 4 ご近所などあなたが住んでいる周りの環境についてお答えください。
次の各問題についてどの程度不満を持っていますか。
それぞれいすれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ1つ）

1. 騒音

総数	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答	不満(計)	不満はない(計)
4066 100.0	155 3.8	600 14.8	918 22.6	1323 32.5	1037 25.5	33 0.8	755 18.6	2360 58.0

2. 大気汚染

総数	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答	不満(計)	不満はない(計)
4066 100.0	130 3.2	520 12.8	1210 29.8	1282 31.5	876 21.5	48 1.2	650 16.0	2158 53.1

3. 公園や緑地が近くにない

総数	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答	不満(計)	不満はない(計)
4066 100.0	178 4.4	452 11.1	1000 24.6	1307 32.1	1092 26.9	37 0.9	630 15.5	2399 59.0

4. 水質

総数	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答	不満(計)	不満はない(計)
4066 100.0	104 2.6	373 9.2	1266 31.1	1343 33.0	928 22.8	52 1.3	477 11.7	2271 55.9

5. 犯罪 暴力、破壊行為

総数	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答	不満(計)	不満はない(計)
4066 100.0	89 2.2	414 10.2	1291 31.8	1462 36.0	771 19.0	39 1.0	503 12.4	2233 54.9

6. 街頭でのゴミや廃棄物

総数	非常に不満	どちらかといえば不満	どちらでもない	どちらかといえば不満はない	全く不満はない	無回答	不満(計)	不満はない(計)
4066 100.0	198 4.9	750 18.4	1237 30.4	1331 32.7	517 12.7	33 0.8	948 23.3	1848 45.5

問 1 5 あなたの家族全員の総収入について考えたとき、必要不可欠な生活費をやりくりすることは毎月どの程度、容易または困難ですか。
いすれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	非常に困難	どちらかという困難	どちらでもない	どちらかという容易	非常に容易	無回答	困難(計)	容易(計)
4066 100.0	286 7.0	1045 25.7	1632 40.1	862 21.2	218 5.4	23 0.6	1331 32.7	1080 26.6

問 1 6 住宅ローンまたは家賃、光熱費（電気・ガス・水道料金）、住居のための保険、固定資産税といった住居にかかる総費用をお考えください。こうした住居にかかる総費用はあなたの家計にとってどの程度のご負担になっていますか。
いすれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	非常に負担である	どちらかという負担	どちらでもない	どちらかという負担でない	全く負担でない	無回答	負担である(計)	負担でない(計)
4066 100.0	706 17.4	1554 38.2	1214 29.9	411 10.1	150 3.7	31 0.8	2260 55.6	561 13.8

問 1 7 あなたの家庭で以下の項目について、経済的理由で行うことができないと感じることはありますか。
それぞれいすれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ1つ）

1. 年1回、1泊以上の国内旅行または海外旅行をすること（注：親族などの家への宿泊を除く）

総数	感じる	感じない	無回答
4066 100.0	1706 42.0	2329 57.3	31 0.8

2. お肉、お魚を一日おきに食べること（注：菜食主義の方は同等のもの）

総数	感じる	感じない	無回答
4066 100.0	452 11.1	3576 87.9	38 0.9

3. 予期せず、急に必要になった5万円の料金を支払うこと

総数	感じる	感じない	無回答
4066 100.0	1943 47.8	2082 51.2	41 1.0

問 1 7 あなたの家庭で以下の項目について、経済的理由で行うことができないと感じることはありますか。
それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ 1 つ)

4. 友達や家族に最低月 1 回、食事や飲み物をご馳走すること

総数	感じる	感じない	無回答
4066	1259	2757	50
100.0	31.0	67.8	1.2

5. 寒い時に十分な暖を取ることに

総数	感じる	感じない	無回答
4066	633	3394	39
100.0	15.6	83.5	1.0

6. 新しい衣類をかうことに

総数	感じる	感じない	無回答
4066	1159	2870	37
100.0	28.5	70.6	0.9

7. 自家用車を所有すること

総数	感じる	感じない	無回答
4066	1424	2585	57
100.0	35.0	63.6	1.4

問 1 7 「物質的制約尺度 (合計値)」

総数	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	無回答	平均 (点)
4066	1420	585	487	373	358	372	201	181	89	8443
100.0	34.9	14.4	12.0	9.2	8.8	9.1	4.9	4.5	2.2	2.12

問 1 8 あなたの家族・ご親族の中で寝たきり等の状態にあり、あなたまたは同居のどなたかが世話をしている方はいらっしゃいますか。
それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ 1 つ)

1. 要介護認定を受けられた方

総数	いない	同居の 家族 ・親族 にいる	別居の 家族 ・親族 にいる	無回答
4066	3161	295	481	129
100.0	77.7	7.3	11.8	3.2

2. 寝たきりの状態の方

総数	いない	同居の 家族 ・親族 にいる	別居の 家族 ・親族 にいる	無回答
4066	3565	91	182	228
100.0	87.7	2.2	4.5	5.6

3. 病気療養中の方

総数	いない	同居の 家族 ・親族 にいる	別居の 家族 ・親族 にいる	無回答
4066	3106	353	383	224
100.0	76.4	8.7	9.4	5.5

4. 障がい認定を受けられた方

総数	いない	同居の 家族 ・親族 にいる	別居の 家族 ・親族 にいる	無回答
4066	3229	306	322	209
100.0	79.4	7.5	7.9	5.1

(問 1 8 のいずれかの項目で、「2」または「3」を選んだ方にお伺いします。)

問 1 8 - 1 問 1 8 にてお伺いしたご家族・ご親族の世話を、あなたはされていますか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	毎日して いる	週に 2、3 度 くらい している	月に 1 度 くらい している	半年に 1 度 くらい している	これまで にしたこ とはな い	無回答
1281	253	168	230	141	429	60
100.0	19.8	13.1	18.0	11.0	33.5	4.7

問 1 8 - 2 問 1 8 にてお伺いした世話について、現在、ご心労をどの程度感じていますか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	とても 感じて いる	少し 感じて いる	どちら とも いえ ない	あまり 感じて いない	全く 感じて いない	無回答	感じて いる (計)	感じて いない (計)
1281	182	334	223	260	196	86	516	456
100.0	14.2	26.1	17.4	20.3	15.3	6.7	40.3	35.6

(全員の方にお伺いします。)

問 1 9 あなたは以下の組織をどの程度信頼していますか。
それぞれいすれかの数字を1つだけ○で囲んでくだ さい。(○はそれぞれ1つ)

1. 国

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	484 11.9	1149 28.3	1466 36.1	870 21.4	78 1.9	19 0.5	1633 40.2	948 23.3

2. 地方公共団体

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	330 8.1	990 24.3	1753 43.1	898 22.1	59 1.5	36 0.9	1320 32.5	957 23.5

3. 国会

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	792 19.5	1278 31.4	1464 36.0	459 11.3	43 1.1	30 0.7	2077 51.1	504 12.4

4. 地方議会

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	497 12.2	1133 27.9	1813 44.6	536 13.2	45 1.1	42 1.0	1635 40.2	583 14.3

5. 裁判所

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	240 5.9	541 13.3	1959 48.2	1131 27.8	152 3.7	43 1.1	785 19.3	1285 31.6

6. 報道機関

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	525 12.9	1106 27.2	1805 44.4	559 13.7	32 0.8	39 1.0	1636 40.2	594 14.6

7. 企業

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	253 6.2	810 19.9	2339 57.5	584 14.4	41 1.0	39 1.0	1066 26.2	627 15.4

8. NPO (非営利活動法人)

総数	全く 信頼して いない	どちらか といえば 信頼して いない	どちら でも ない	どちらか といえば 信頼して いる	非常に 信頼して いる	無回答	信頼して いない (計)	信頼して いる (計)
4066 100.0	343 8.4	800 19.7	2314 56.9	517 12.7	53 1.3	39 1.0	1147 28.2	571 14.0

問 2 0 あなたの性別を○で囲んでください。(○は1つ)

総数	男性	女性
4066 100.0	1851 45.5	2215 54.5

問 2 1 あなたの満年齢をご記入ください。

総数	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	平均 (歳)
4066 100.0	233 5.7	583 14.3	489 12.0	692 17.0	803 19.7	743 18.3	523 12.9	198197 48.74

問 2 2 あなたは、世帯主から見てどのような続柄ですか。
いすれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○は1つ)

総数	世帯主 本人	配偶者	子ども	孫	父・母	義父 ・義母	祖父母	義祖父母	兄弟姉妹	義 兄弟姉妹	その他の 親族	親族以外	無回答
4066 100.0	1506 37.0	1307 32.1	1009 24.8	47 1.2	106 2.6	28 0.7	5 0.1	5 0.1	19 0.5	4 0.1	16 0.4	8 0.2	6 0.1

問 2 3 同居されている世帯の中で、ご年齢順では、あなたは上から数えて何番目になりますか。

総数	1 番目	2 番目	3 番目	4 番目	5 番目	6 番目	7 番目	8 番目	無回答	平均 (番目)
4066 100.0	1436 35.3	1404 34.5	713 17.5	335 8.2	115 2.8	40 1.0	5 0.1	- -	18 0.4	8573 2.12

問 2 4 この 1 年間（平成 2 5 年 2 月～平成 2 6 年 1 月）にあなた自身に以下のような変化がありましたか。
それぞれいすれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ 1 つ）

1. あなたが結婚した（再婚を含む）

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3985 98.0	55 1.4	26 0.6

2. あなたの子供が生まれた

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3927 96.6	113 2.8	26 0.6

3. あなた、もしくは配偶者の親と同居した

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3961 97.4	74 1.8	31 0.8

4. あなた、もしくは配偶者の子どもと同居した

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3916 96.3	119 2.9	31 0.8

5. あなたが離婚した

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	4024 99.0	13 0.3	29 0.7

6. あなたの配偶者と死別した

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3991 98.2	48 1.2	27 0.7

問 2 5 この 1 年間（平成 2 5 年 2 月～平成 2 6 年 1 月）にあなた自身に以下のような出来事がありましたか。
それぞれいすれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ 1 つ）

1. 新たに仕事についた

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3741 92.0	294 7.2	31 0.8

2. 職場または仕事を変えた

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3759 92.4	276 6.8	31 0.8

3. 仕事をやめた（希望退職した、定年退職した）

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3813 93.8	219 5.4	34 0.8

4. 失業した（解雇された、退職勧告があった）

総数	該当しない	該当する	無回答
4066 100.0	3968 97.6	63 1.5	35 0.9

問 25 この1年間（平成25年2月～平成26年1月）にあなた自身に以下のような出来事がありましたか、それぞれいすれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ1つ）

5. 倒産・破産した

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3996 98.3	30 0.7	40 1.0

6. 収入や資産が1割以上増加した

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3568 87.8	279 6.9	219 5.4

7. 収入や資産が1割以上減少した

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3312 81.5	557 13.7	197 4.8

8. 金銭的トラブルがあった（ローンやクレジット問題を含む）

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3920 96.4	96 2.4	50 1.2

9. 学校等に入學した

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3869 95.2	153 3.8	44 1.1

10. 学校等を卒業した

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3890 95.7	126 3.1	50 1.2

11. 病気が治癒した、体調が良くなった

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3831 94.2	192 4.7	43 1.1

12. 手術や長期の療養が必要な重い病気にかかった、介護が必要になった

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3893 95.7	128 3.1	45 1.1

13. うつ状態など精神的な問題があった

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3862 95.0	160 3.9	44 1.1

14. 不登校や出社拒否になった

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3980 97.9	41 1.0	45 1.1

15. 事故や災害にあった

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3913 96.2	109 2.7	44 1.1

16. その他の特別な出来事があった

総数	該当 しない	該当 する	無回答
4066 100.0	3841 94.5	136 3.3	89 2.2

問 2 5 - 1 (問 2 5 の「6. 収入や資産が 1 割以上増加した」「7. 収入や資産が 1 割以上減少した」に関して、
1 つでも「該当する」を選んだ方にお伺いします。)
この 1 年間におけるこうした収入、資産面での変化が、あなたの幸福感の変化に及ぼす影響はどの程度あるとお考えですか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	全く影響 を及ぼさ ない	あまり 影響を 及ぼさ ない	どちら とも いえ ない	少し影響 を及ぼす	とても 影響を 及ぼす	変化の 全てで ある	無回答	影響を 及ぼさ ない (計)	影響を及 ぼす (計)
790 100.0	15 1.9	77 9.7	73 9.2	288 36.5	258 32.7	47 5.9	32 4.1	92 11.6	546 69.1

(全員の方にお伺いします。)
問 2 6 現在あなたの健康状態をどのように感じていますか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

総数	健康で ある	どちらか といえば 健康で ある	どちら とも いえ ない	どちらか といえば 健康で ない	健康で ない	無回答	健康で ある (計)	健康で ない (計)
4066 100.0	583 14.3	1826 44.9	864 21.2	576 14.2	179 4.4	38 0.9	2409 59.2	755 18.6

問 2 7 あなたは以下の方とは平均してどのくらいの頻度で直接、会うことがありますか。
それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。
該当者が複数いらっしゃる場合は最も会う頻度の高い方でお答えください。
また、該当者がいらっしゃらない場合は「該当者がいない」をお選びください。(○はそれぞれ 1 つ)

1. 配偶者

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
3996 100.0	2605 65.2	129 3.2	11 0.3	26 0.7	30 0.8	22 0.6	8 0.2	x x	1165 29.2	x x

2. あなたの子ども

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	1973 48.5	198 4.9	72 1.8	95 2.3	233 5.7	251 6.2	38 0.9	4 0.1	1147 28.2	55 1.4

3. あなたの両親

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	1049 25.8	226 5.6	134 3.3	220 5.4	550 13.5	484 11.9	139 3.4	9 0.2	1162 28.6	93 2.3

4. あなたの配偶者の両親

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	271 6.7	84 2.1	55 1.4	111 2.7	422 10.4	665 16.4	262 6.4	7 0.2	2058 50.6	131 3.2

5. あなたの兄弟姉妹

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	510 12.5	129 3.2	96 2.4	169 4.2	654 16.1	1391 34.2	619 15.2	42 1.0	370 9.1	86 2.1

6. あなたの配偶者の兄弟姉妹

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	22 0.5	31 0.8	31 0.8	80 2.0	380 9.3	1350 33.2	786 19.3	27 0.7	1264 31.1	95 2.3

7. その他の親族

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	45 1.1	29 0.7	32 0.8	81 2.0	305 7.5	1504 37.0	1595 39.2	18 0.4	370 9.1	87 2.1

8. 友人

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	7 0.2	350 8.6	304 7.5	423 10.4	1091 26.8	1112 27.3	473 11.6	11 0.3	224 5.5	71 1.7

9. 恋人

総数	同居中	(別居) 毎日	(別居) 二、三日 に一回	(別居) 最低 週一回	(別居) 月一、 二回	(別居) 年数回	(別居) それ以下	音信不通 で所在 不明	該当者が いない	無回答
4066 100.0	14 0.3	45 1.1	48 1.2	113 2.8	82 2.0	19 0.5	32 0.8	6 0.1	3524 86.7	183 4.5

問 2 8 あなたは以下のような事柄をどのくらいの頻度で行いますか。
 それぞれいずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ 1 つ)

1. 近所の人との挨拶

総数	全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	無回答	しない (計)	する (計)
4066 100.0	99 2.4	358 8.8	1426 35.1	2164 53.2	19 0.5	457 11.2	3590 88.3

2. 地域の高齢者への声掛け

総数	全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	無回答	しない (計)	する (計)
4066 100.0	1018 25.0	1319 32.4	1169 28.8	527 13.0	33 0.8	2337 57.5	1696 41.7

3. 地域活動(防災訓練、町会活動等)への参加

総数	全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	無回答	しない (計)	する (計)
4066 100.0	1518 37.3	1143 28.1	908 22.3	463 11.4	34 0.8	2661 65.4	1371 33.7

4. 地域行事への参加

総数	全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	無回答	しない (計)	する (計)
4066 100.0	1439 35.4	1169 28.8	990 24.3	440 10.8	28 0.7	2608 64.1	1430 35.2

5. ボランティア活動への参加

総数	全く しない	あまり しない	たまに する	よく する	無回答	しない (計)	する (計)
4066 100.0	2102 51.7	1200 29.5	509 12.5	225 5.5	30 0.7	3302 81.2	734 18.1

問 2 9 直近 1 週間のあなたの就業状況についてお答えください。少しでも仕事(収入を伴う仕事を指し、自営の手伝いや内職も含みます)を行っていましたか。
 それとも少しも仕事をしていませんでしたか。
 いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

総数	少しでも 仕事を していた	少しも 仕事を していな かった	無回答
4066 100.0	2690 66.2	1224 30.1	152 3.7

(問 2 9 で「1. 少しでも仕事をしていた」を選んだ方にお伺いします。)

問 3 0 従業員上の地位について該当するものをお答えください。
 いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	常用雇用	臨時・日雇	会社などの 役員	自営業主	自営業の 手伝い	内職	無回答
2690 100.0	1784 66.3	241 9.0	157 5.8	203 7.5	150 5.6	39 1.4	116 4.3

(問 3 0 で「1. 常用雇用」、または「2. 臨時・日雇」を選んだ方にお伺いします。)

問 3 0 - 1 勤め先での呼称として、該当するものをお答えください。
 いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	正規の 職員 ・従業員	パート	アルバイト	派遣社員	契約社員	嘱託	その他	無回答
2025 100.0	1099 54.3	412 20.3	243 12.0	34 1.7	112 5.5	60 3.0	33 1.6	32 1.6

(問29で「1. 少しでも仕事をしていた」を選んだ方にお伺いします。)
問30-2 あなたは、ご自身の仕事の質について、どのように感じていますか、
それぞれいずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)

1. 自分の仕事は要求が厳しく、ストレスが多い								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	273 10.1	506 18.8	685 25.5	752 28.0	328 12.2	146 5.4	779 29.0	1080 40.1

2. 賃金は良い								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	480 17.8	604 22.5	883 32.8	481 17.9	86 3.2	156 5.8	1084 40.3	567 21.1

3. 仕事の仕方については、自分で決めることができる範囲が大きい								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	231 8.6	426 15.8	754 28.0	843 31.3	287 10.7	149 5.5	657 24.4	1130 42.0

4. 仕事は単調で退屈である								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	683 25.4	844 31.4	786 29.2	183 6.8	47 1.7	147 5.5	1527 56.8	230 8.6

5. 将来のキャリアアップにつながる仕事である								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	521 19.4	483 18.0	889 33.0	494 18.4	152 5.7	151 5.6	1004 37.3	646 24.0

6. 常に締切に追われている								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	580 21.6	472 17.5	759 28.2	523 19.4	206 7.7	150 5.6	1052 39.1	729 27.1

7. 危険もしくは不健康な環境で働いている								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	887 33.0	585 21.7	651 24.2	317 11.8	104 3.9	146 5.4	1472 54.7	421 15.7

8. 職場は、子育てや介護をしている人にとって仕事と両立しやすい環境が整っている方である								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	446 16.6	504 18.7	900 33.5	543 20.2	137 5.1	160 5.9	950 35.3	680 25.3

9. 職場の人間関係にはストレスが多い								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	342 12.7	556 20.7	821 30.5	560 20.8	257 9.6	154 5.7	898 33.4	817 30.4

10. 自己啓発や生活の時間が確保しやすい職場環境にある								
該当数	全く そう 思わない	どちらか といえば そう 思わない	どちら でもない	どちらか といえば そう 思う	非常に そう 思う	無回答	そう 思わない (計)	そう 思う (計)
2690 100.0	278 10.3	491 18.3	987 36.7	624 23.2	153 5.7	157 5.8	769 28.6	777 28.9

(問29で「1. 少しでも仕事をしていた」を選んだ方にお伺いします。)
問30-3 先週1週間の労働時間はどれくらいでしたか。
いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○は1つ)

該当数	15時間 未満	15時間～ 19時間	20時間～ 24時間	25時間～ 29時間	30時間～ 34時間	35時間～ 39時間	40時間～ 44時間	45時間～ 49時間	50時間～ 54時間	55時間～ 59時間	60時間～ 64時間	65時間～ 69時間	70時間～ 74時間	75時間～ 以上	無回答
2690 100.0	310 11.5	130 4.8	197 7.3	122 4.5	138 5.1	220 8.2	479 17.8	335 12.5	196 7.3	130 4.8	104 3.9	55 2.0	38 1.4	77 2.9	159 5.9

(問 2 9 で「2. 少しも仕事をしていなかった」を選んだ方にお伺いします。)

問 3 1 その期間の状況は、次のどれに当たりますか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	仕事を休んでいた	仕事を探していた	通学	家事	職業生活引退(高齢者など)	その他	無回答
1224 100.0	38 3.1	76 6.2	184 15.0	397 32.4	335 27.4	81 6.6	113 9.2

(問 3 1 で「2. 仕事を探していた」を選んだ方以外にお伺いします。)

問 3 1-1 現在収入になる仕事に就くことを希望しますか。
いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。(○は 1 つ)

該当数	希望している	既に仕事が決まっている	希望しない	無回答
1035 100.0	91 7.4	17 1.6	406 39.1	521 50.5

(問 3 1-1 で「1. 希望している」を選んだ方にお伺いします。)

問 3 1-2 仕事をしたいと思っていながら現在仕事を探していないのはどうしてですか。
あてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

該当数	適当な仕事がない	家事のため仕事が続けられそうもない	育児のため仕事が続けられそうもない	介護のため仕事が続けられそうもない	その他	回答計
91 100.0	42 46.2	13 14.3	19 20.9	4 4.4	38 41.8	116 127.5

(全員の方にお伺いします。)

問 3 2 あなた自身の年間収入(税・社会保険料込み)は、およそどのくらいですか。
次の中からいずれかの数字に 1 つだけ○をつけてください。(○は 1 つ)

総数	全くない(0円)	1円以上100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上600万円未満	600万円以上700万円未満	700万円以上800万円未満	800万円以上900万円未満	900万円以上1000万円未満	1000万円以上1500万円未満	1500万円以上	無回答
4066 100.0	498 12.2	893 22.0	710 17.5	616 15.2	418 10.3	274 6.7	182 4.5	141 3.5	93 2.3	58 1.4	37 0.9	53 1.3	22 0.5	71 1.7

問 3 3 あなた本人は、現在次のような社会保障給付を受けていますか。
該当するもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

総数	失業等給付	労災保険給付	生活保護費	障がい者向け年金や手当等	育児休業給付	療養給付・傷病手当金等	児童扶養手当(ひとり親家庭対象)	該当するものはなし	無回答	回答計
4066 100.0	76 1.9	62 1.5	17 0.4	56 1.4	20 0.5	31 0.8	50 1.2	3495 86.0	303 7.5	4110 101.1

〔都市規模〕

総数	人口100万以上の市	人口20万以上の市	人口10万以上の市	人口5万以上の市町村	人口5万未満の市町村
4066 100.0	715 17.6	1251 30.8	725 17.8	623 15.3	752 18.5

〔地域〕

総数	北海道	東北	関東	北陸・東山	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
4066 100.0	183 4.5	343 8.4	1245 30.6	379 9.3	483 11.9	606 14.9	373 9.2	454 11.2

〔性・年齢階層別〕

総数	男性 15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	女性 15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
4066 100.0	116 2.9	251 6.2	203 5.0	282 6.9	365 9.0	375 9.2	259 6.4	117 2.9	332 8.2	286 7.0	410 10.1	438 10.8	368 9.1	264 6.5

平成25年度 生活の質に関する世帯調査【世帯付属票】 単純集計表

上段：実数
下段：割合（%）

※回答の構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%にならない場合がある。
※調査対象数が3以下の場合には調査結果の秘密保護の観点から、該当結果を「x」表示とする秘匿措置を施している。
なお、全体（計）からの差し引きにより該当結果が推定できる場合には、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「x」表示としている。

問1 現在、一緒に暮らしているご家族についてお伺いします。次のどちらに当たりますか。
いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	同居の 家族が いる	単身で ある
1932 100.0	1831 94.8	101 5.2

問1SQ1（問1で「2単身である」を選んだ方は、お答えください）

該当数	住み込み 、寄宿舍 等に居住	その他の 一人 暮らし	無回答
101 100.0	5 5.0	88 87.1	8 7.9

問1SQ2（問1で「2単身である」を選んだ方は、お答えください）

該当数	単身赴任 者である	単身赴任 者でない	無回答
101 100.0	8 7.9	76 75.2	17 16.8

（全員の方にお伺いします。）
問2 世帯員全員（ここでは15歳未満の方を含みます）の氏名、性別、年齢、世帯主から見た続柄について、伺います。
世帯主から見た続柄については、下表により当てはまる番号を選びご記入ください。
また、「個人調査票」を提出した方（15歳以上）は、「個人調査票提出の有無」欄に○印をご記入ください。
なお、この世帯付属票を記入した方は「世帯付属票記入者」欄に○印をご記入ください。

性別【積み上げ集計】

総数	男性	女性	無回答
6512 100.0	3095 47.5	3372 51.8	45 0.7

年齢【積み上げ集計】

総数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳 以上	無回答
6512 100.0	547 8.4	720 11.1	773 11.9	704 10.8	872 13.4	1000 15.4	956 14.7	546 8.4	327 5.0	67 1.0

世帯主から見た続柄【積み上げ集計】

総数	世帯主 本人	配偶者	子ども	孫	父・母	義父 ・義母	祖父母	義 祖父母	兄弟 姉妹	義 兄弟 姉妹	その他の 親族	親族 以外	無回答
6512 100.0	1915 29.4	1586 24.4	2283 35.1	281 4.3	244 3.7	52 0.8	11 0.2	12 0.2	34 0.5	6 0.1	41 0.6	13 0.2	34 0.5

問3 この1年間（平成25年2月～平成26年1月）にあなたのお宅の世帯構成に変化がありましたか。
「変化あり」の場合は1を、「変化なし」の場合は2を、○で囲んでください。（○は1つ）

総数	変化 あり	変化 なし	無回答
1932 100.0	275 14.2	1632 84.5	25 1.3

（問3で「1 変化あり」を選んだ方にお伺いします。）

問3-1 どのような変化がありましたか。
次の1～5のそれぞれについて、「該当しない」場合は1を、「該当する場合」は2を、○で囲んでください。（○はそれぞれ1つ）
また、1～4について「該当する場合」は、下の表からその世帯員の続柄（世帯主から見た続柄）をすべて選んで、
【 】に数字をご記入ください。

1. 世帯員が転入した

該当数	該当 しない	該当 する	無回答
275 100.0	142 51.6	45 16.4	88 32.0

世帯主 本人	配偶者	子ども	孫	父・母	義父 ・義母	祖父母	義 祖父母	兄弟 姉妹	義 兄弟 姉妹	その他の 親族	親族 以外	続柄を 無回答
x x	4 1.5	30 10.9	11 4.0	x x	x x	- -	- -	x x	x x	5 1.8	x x	x x

2. 世帯員が誕生した

該当数	該当 しない	該当 する	無回答
275 100.0	130 47.3	49 17.8	96 34.9

世帯主 本人	配偶者	子ども	孫	父・母	義父 ・義母	祖父母	義 祖父母	兄弟 姉妹	義 兄弟 姉妹	その他の 親族	親族 以外	続柄を 無回答
- -	- -	33 12.0	14 5.1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	x x	- -	x x

(問3で「1 変化あり」を選んだ方にお伺いします。)

問3-1 どのような変化がありましたか。
次の1～5のそれぞれについて、「該当しない」場合は1を、「該当する場合」は2を、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)
また、1～4について「該当する場合」は、下の表からその世帯員の続柄(世帯主から見た続柄)をすべて選んで、
【 】に数字をご記入ください。

3. 世帯員が転出した

該当数	該当しない	該当する	無回答
275 100.0	79 28.7	135 49.1	61 22.2

世帯主 本人	配偶者	子ども	孫	父・母	義父 ・義母	祖父母	義 祖父母	兄弟 姉妹	義 兄弟 姉妹	その他の 親族	親族 以外	続柄を 無回答
5 1.8	5 1.8	119 43.3	11 4.0	9 3.3	x x	- -	- -	x x	x x	x x	x x	x x

4. 世帯員が死亡した

該当数	該当しない	該当する	無回答
275 100.0	140 50.9	43 15.6	92 33.5

世帯主 本人	配偶者	子ども	孫	父・母	義父 ・義母	祖父母	義 祖父母	兄弟 姉妹	義 兄弟 姉妹	その他の 親族	親族 以外	続柄を 無回答
x x	10 3.6	x x	x x	21 7.6	5 1.8	x x	x x	- -	- -	x x	- -	x x

5. 世帯員の数に変化はなかった

該当数	該当しない	該当する	無回答
275 100.0	115 41.8	43 15.6	117 42.5

問4 この1年間(平成25年2月～平成26年1月)に、あなたを含めた世帯員の誰かが以下のような出来事を経験されていますか。
それぞれいづれかの数字を1つだけ○で囲んでください。(○はそれぞれ1つ)

1. 新たに仕事についた世帯員がいる

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1635 84.6	218 11.3	79 4.1

2. 職場または仕事を変えた世帯員がいる

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1641 84.9	211 10.9	80 4.1

3. 仕事をやめた(希望退職した、定年退職した)世帯員がいる

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1688 87.4	161 8.3	83 4.3

4. 失業した(解雇された、退職勧告があった)世帯員がいる

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1784 92.3	60 3.1	88 4.6

5. 倒産・破産した世帯員がいる

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1823 94.4	21 1.1	88 4.6

6. 世帯の収入や資産が1割以上増加した

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1700 88.0	134 6.9	98 5.1

7. 世帯の収入や資産が1割以上減少した

総数	該当しない	該当する	無回答
1932 100.0	1482 76.7	357 18.5	93 4.8

問４ この１年間（平成２５年２月～平成２６年１月）に、あなたを含めた世帯員の誰かが以下のような出来事を経験されていますか。それぞれいずれかの数字を１つだけ○で囲んでください。（○はそれぞれ１つ）

８．金銭的トラブルを経験した世帯員がいる（ローンやクレジット問題を含む）

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1778	65	89
100.0	92.0	3.4	4.6

９．学校等に入学した世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1613	237	82
100.0	83.5	12.3	4.2

１０．学校等を卒業した世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1659	190	83
100.0	85.9	9.8	4.3

１１．病気が治癒した、体調が良くなった世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1726	115	91
100.0	89.3	6.0	4.7

１２．手術や長期の療養が必要な重い病気にかかった、介護が必要になった世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1703	146	83
100.0	88.1	7.6	4.3

１３．うつ状態など精神的な問題があった世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1751	95	86
100.0	90.6	4.9	4.5

１４．不登校や出社拒否になった世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1812	31	89
100.0	93.8	1.6	4.6

１５．事故や災害にあった世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1771	72	89
100.0	91.7	3.7	4.6

１６．その他の特別な出来事を経験した世帯員がいる

総数	該当 しない	該当 する	無回答
1932	1801	26	105
100.0	93.2	1.3	5.4

問5 この1年以内に、あなたのお住まいに変更はありましたか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	居住地を変更した	居住地に変更はない	無回答
1932 100.0	20 1.0	1874 97.0	38 2.0

（問5で「1 居住地を変更した」を選んだ方にお伺いします。）

問5-1 あなたのお住まいは次のどれに当たりますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

該当数	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	民間の 借家 (一戸建て)	民間の 借家 (集合住宅)	公営の 借家 (UR 住宅供給 公社等)	給与住宅 (社宅・ 公務員 住宅)	借間、 下宿	住み 込み、 寄宿舍、 独身寮、 など	その他	無回答
20 100.0	10 50.0	x x	x x	x x	- -	- -	- -	- -	x x	x x

（問5で「1 居住地を変更した」を選んだ方にお伺いします。）

問5-2 あなたが現在お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数（玄関や風呂等は含めないでください。）で該当するものはどれに当たりますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

該当数	1室	2室	3室	4室	5室以上	無回答
20 100.0	x x	- -	6 30.0	x x	10 50.0	x x

（問5で「1 居住地を変更した」を選んだ方にお伺いします。）

問5-3 あなたのお住まいの住居の床面積は次のどれに当たりますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

該当数	10㎡未満	10-19㎡	20-39㎡	40-59㎡	60-79㎡	80-99㎡	100-119㎡	120-139㎡	140㎡以上	無回答
20 100.0	- -	x x	x x	x x	x x	- -	6 30.0	x x	x x	4 20.0

（全員の方にお伺いします。）

問6 あなたの世帯全体の年間収入（税・社会保険料込み）は、およそどのくらいですか。次の中からいずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つ）

総数	全くない (0円)	1円以上 100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 300万円未満	300万円以上 400万円未満	400万円以上 500万円未満	500万円以上 600万円未満	600万円以上 700万円未満	700万円以上 800万円未満	800万円以上 900万円未満	900万円以上 1000万円未満	1000万円以上 1500万円未満	1500万円以上	無回答
1932 100.0	10 0.5	48 2.5	131 6.8	205 10.6	283 14.6	210 10.9	233 12.1	180 9.3	151 7.8	120 6.2	106 5.5	171 8.9	50 2.6	34 1.8